

2026 年 4 月

食料安全保障月報

(第 58 号)



令和 8 年 4 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2026年4月食料安全保障月報(第58号)

目次

概要編

| | |
|---|---|
| I 2026年4月の主な動き | 1 |
| II 2026年4月の穀物等の国際価格の動向 | 4 |
| III 2025/26年度の穀物需給(予測)のポイント | 4 |
| IV 2025/26年度の油糧種子需給(予測)のポイント | 4 |
| V 今月の注目情報「農業市場情報システム(AMIS)の主要穀物の需給動向の分析等」 | 5 |

(資料)

| | |
|------------------------------------|----|
| 1-1~3 穀物等の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) | 10 |
| 1-4 穀物等の国際価格の動向 | 13 |
| 1-5 サプライチェーン等に関する状況 | 14 |
| 2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移 | 15 |
| 3 穀物等の期末在庫率の推移(穀物全体、品目別) | 16 |
| 4 加工食品の主な輸入原材料(穀物等を除く)の状況 | 19 |
| 5 食品小売価格の動向 | 22 |
| 6 海外の畜産物の需給動向(ALIC提供) | 23 |
| 7 FAO食料価格指数 | 24 |

今月のコラム

| | |
|--------------------------------------|----|
| 「我が国の食料政策において最も重要な国の一つ、カナダについて(その3)」 | 25 |
|--------------------------------------|----|

品目別需給編

| | |
|--|---|
| I 穀物 | |
| 1 小麦 | 1 |
| <米国> 2026/27年度の作付意向面積は前年度から3.4%減少する見込み | |
| <カナダ> 2025/26年度の実産量は前年度から11.2%増となり史上最高の見込み(AAFC) | |
| <豪州> 2025/26年度の実産量は前年度から12.1%増加する見込み(USDA) | |
| <EU27> 2025/26年度の実産量は前年度から20.0%増加する見込み(EC) | |
| <ロシア> 2025/26年度の実産量は前年度から10.7%増加する見込み | |
| <ウクライナ> 2025/26年度の実産量は前年度から20.6%減少する見込み | |
| <中国> 2025/26年度の実産量は前年度と同水準の見込み | |
| 2 とうもろこし | 9 |
| <米国> 2025/26年度の実産量は、前年度から14.3%増加する見込み | |
| <ブラジル> 2025/26年度の実産量は、前年度から2.9%減少する見込み | |
| <アルゼンチン> 2025/26年度の実産量は、前年度から4.0%増加する見込み | |
| <ウクライナ> 2025/26年度の実産量は、前年度から14.6%増加する見込み | |
| <中国> 2025/26年度の実産量は、前年度から2.1%増加する見込み | |

| | |
|---|---|
| 3 コメ | 1 5 |
| <タイ> | 2025/26 年度の輸出量は、前年度から 10.9%減少する見込み |
| <米国> | 2025/26 年度の輸出量は、前年度から 9.4%減少する見込み |
| <中国> | 2025/26 年度の輸出量は、前年度から 65.2%増加する見込み |
| <インド> | 2025/26 年度の輸出量は、前年度から 5.1%増加する見込み |
| <ベトナム> | 2025/26 年度の期末在庫量は、前年度から 26.9%減少する見込み |
| II 油糧種子 | |
| 大豆 | 2 1 |
| <米国> | 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.6%減少する見込み |
| <ブラジル> | 2025/26 年度の生産量は前年度から 4.3%増加する見込み |
| <カナダ> | 2025/26 年度の生産量は前年度から 10.7%減少する見込み(AAFC) |
| <中国> | 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.2%増加する見込み |
| <アルゼンチン> | 2025/26 年度の生産量は前年度から 6.1%減少する見込み |
| (参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について(2025/26 年度) | 2 7 |
| (参考2)単位換算表 | 2 7 |
| (参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎) | 2 8 |

【利用上の注意】

表紙写真:インドの西ベンガル州の冬季米。作柄は良好である。
(撮影日:2026 年4月3日)

(概要編)

I 2026年4月の主な動き

主要穀物等の生産量等について

4月の米国農務省(USDA)の需給報告によれば、2025/26年度の各品目の生産量等の状況は以下のとおり。

小麦の生産量は、ブラジル等で下方修正されたものの、EU、ロシア等で上方修正され、前月から2.0百万トン上方修正された。前年度からは、イラン、パキスタン、シリア、イラク、トルコ等で減少するものの、EU、アルゼンチン、ロシア、インド、カナダ、豪州等で増加し、世界全体の生産量は844.2百万トンと史上最高となる見通し。

とうもろこしの生産量は、ウルグアイ等で下方修正されたものの、インド、南アフリカ等で上方修正され、前月から3.6百万トン上方修正された。前年度からは、ブラジル、EU、セルビア、タンザニア等で減少するものの、米国、中国、インド、ウクライナ、メキシコ、ザンビア、アルゼンチン、パキスタン等で増加し、世界全体の生産量は1,301.1百万トンと史上最高となる見通し。

大豆の生産量は、ウルグアイ等で下方修正されたものの、パラグアイ等で上方修正され、前月から0.2百万トン上方修正された。前年度からは、ブラジル、ロシア、パラグアイ等で増加するものの、アルゼンチン、米国、インド、ウクライナ、ウルグアイ等で減少し、世界全体の生産量は427.4百万トンと史上最高の前年度からわずかに減少する見通し。

期末在庫量は、とうもろこし及び大豆は前年度から減少、小麦は前年度から増加となっている。消費需要は引き続き旺盛であり、注視が必要。

FAO(国連食糧農業機関)が公表した3月の食料価格指数(最新値)については、穀物、植物油、乳製品、肉類及び砂糖の価格指数が上昇したことにより、2月の125.5から128.5と上昇(参考:2025年3月127.2)。

海上運賃については、バルチック海運指数(穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数)が、3月末時点1,995(2月末時点2,140、2025年平均値1,682)。

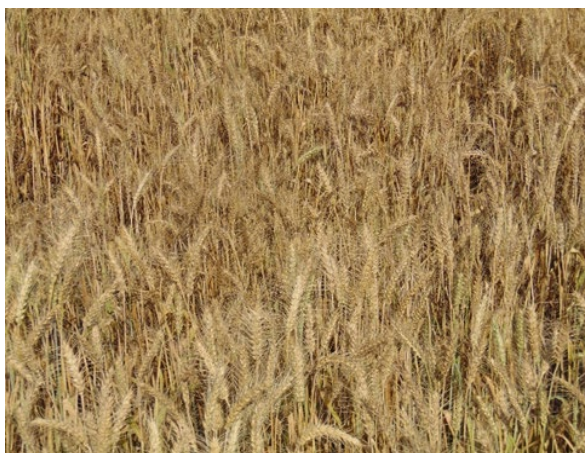


写真:インド・ハリヤナ州の小麦。完熟し収穫期を迎えている。

撮影日:2026年4月5日



写真:ロシア・ロストフ州の2026/27年度冬小麦。分けつ期を迎えており、作柄は良好。

撮影日:2026年3月27日

ウクライナの生産・輸出動向

4月のUSDAの需給報告によれば、2025/26年度のウクライナの小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が減少するものの、収穫面積が増加することを受け、前年度から3%増加し2,400万トンとなる見込み。また、輸出量は、前月予測から100万トン下方修正され、前年度から21%減少し1,250万トンとなる見込み。

2025/26年度のとうもろこしの生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収が増加することを受け、前年度から15%増加し3,070万トンとなる見込み。また、輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から10%増加し2,200万トンとなる見込み。

ウクライナ国家統計局の2月25日の発表によれば、2025/26年度の小麦の生産量は、前年度から3.3%増の2,327万トン。2025/26年度のとうもろこしの生産量は、前年度から13.9%増の3,068万トン。

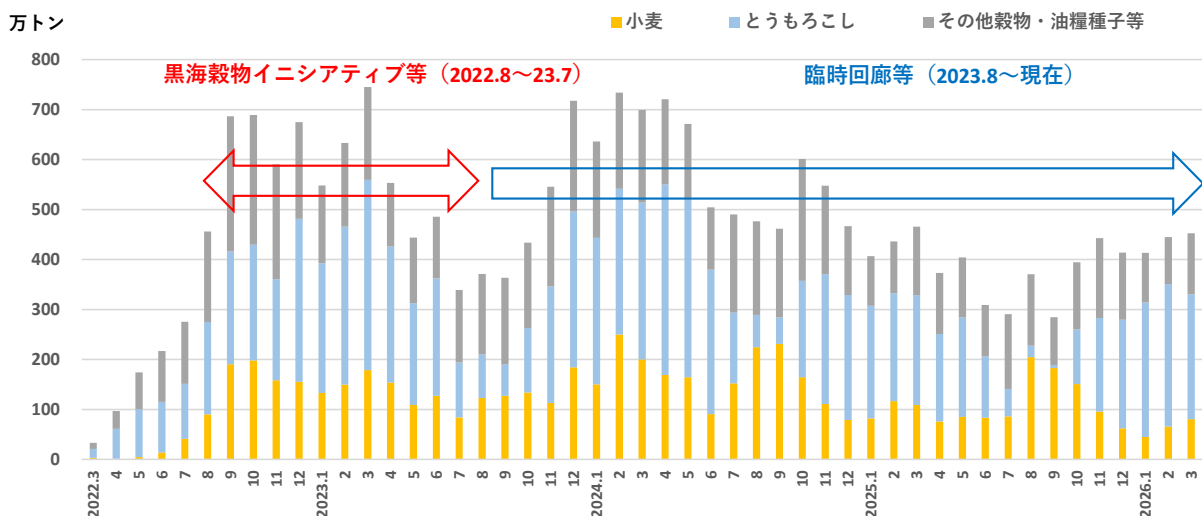
現地情報会社によれば、3月末現在、2026/27年度の冬小麦の作柄は概ね良好。また、ウクライナ経済・環境・農業省によれば、4月13日現在、2026/27年度の春小麦の作付面積は12.9万ヘクタールで作付進捗率は69%。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意(黒海穀物イニシアティブ)により、同年8月以降、オデーサ港等3港からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。

黒海穀物イニシアティブの停止後、ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関(IMO)に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊のほか、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出等が行われているものの、ロシアによるウクライナの港湾インフラ等に対する攻撃が続いており、引き続き輸出動向について注視が必要。

(参考) ウクライナの輸出量の推移(月毎)(2022年3月～2026年3月)



出典:ウクライナ経済・環境・農業省、ウクライナ穀物協会のデータをもとに農林水産省で作成
注:データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計

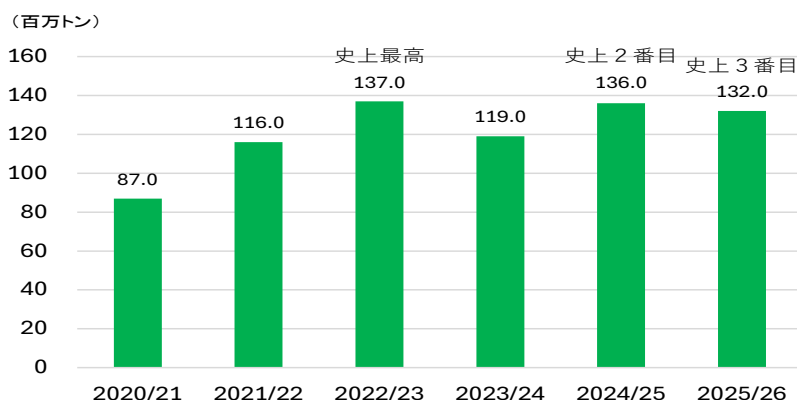
1 ブラジル:2025/26 年度のとうもろこし生産量は過去5年平均から 11%増加する見込み

USDA によれば、2025/26 年度のとうもろこしの生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から3%減、過去5年平均からは 11%増の1億3,200 万トンとなる見込み。これは、収穫面積が前年度から2%増、過去5年平均から6%増の2,280 万ヘクタールとなるとともに、単収が前年度から5%減、過去5年平均から6%増の 5.79 トン/ヘクタールとなることによる。

ブラジルのとうもろこし生産量の 75%を占める第2期作とうもろこし(サフリーニャ)は主に中西部で生産され、夏の雨季に大豆の収穫後に作付けされる。理想的な作付時期は2月下旬までであり、これ以降に作付けされたとうもろこしは収量が減少する可能性がある。

ブラジル中西部の一部地域(特にゴイアス州、マツ・グロソ・ド・スール州)の 2025/26 年度の第2期作とうもろこしは、大豆の収穫遅延により作付けが遅れ、70%が理想的な時期より後に作付けされた。一方、第2期作とうもろこしの生産量のほぼ半数を占めるマツ・グロソ州では、2月下旬までに 70%の作付けが終了した。

図1:ブラジルのとうもろこしの生産量の推移



出典:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

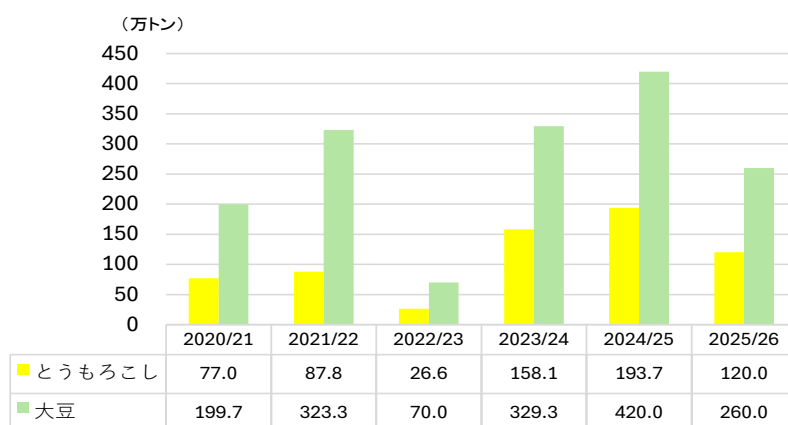
2 ウルグアイ:2025/26 年度のとうもろこし及び大豆の生産量は乾燥により減少する見込み

USDA によれば、2025/26 年度のとうもろこしの生産量は、前月予測から 33%減、前年度から 38%減の 120 万トンとなる見込み。単収が前月予測から 28%減、前年度から 36%減の 4.80トン/ヘクタールとなるとともに、収穫面積が前月予測から7%減、前年度から3%減の 25 万ヘクタールとなることによる。

2025/26 年度の大豆の生産量は、前月予測から 16%減、前年度から 38%減の 260 万トンとなる見込み。単収が前月予測から 16%減、前年度から 36%減の 2.00トン/ヘクタールとなるとともに、収穫面積が前月予測からの変更はないものの、前年度から3%減の 130 万ヘクタールとなる見込み。

とうもろこし及び大豆は、生育期間を通じて乾燥が続く生産量の下方修正が続いている。2、3月の降雨量が平年を下回ったことで土壌水分量が著しく低下し、単収が大きく減少した。

図2:ウルグアイのとうもろこし及び大豆の生産量の推移



出典:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

II 2026年4月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、3月末、220ドル/トン台半ばで推移。4月に入り、米国の冬小麦生産地域の降雨等を受け210ドル/トン近くまで下落したものの、米国の冬小麦生産地域の乾燥懸念等を受け上昇し、4月中旬現在、210ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、3月末、180ドル/トン台前半で推移。4月に入り、世界的に潤沢な供給等を受け170ドル/トン台半ばまで下落したものの、米国の降雨による作付遅延懸念等を受け上昇し、4月中旬現在、170ドル/トン台後半で推移。

コメは、3月末、380ドル/トン台後半で推移。4月に入り、中東での紛争による燃料費の高騰等を受け大きく上昇し、4月中旬現在、420ドル/トン台後半で推移。

大豆は、3月末、430ドル/トン台前半で推移。4月に入り、大豆ミール及び大豆油価格の下落・上昇等を受け430ドル/トン前後で推移。その後、大豆油在庫の減少等を受け上昇し、4月中旬現在、420ドル/トン台後半で推移。

(注)小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場(期近物)、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2025/26年度の穀物需給(予測)のポイント

4月のUSDAの需給報告によれば、2025/26年度の世界の穀物全体の生産量は、前年度から4.6%増の29.84億トン。消費量は、前年度から2.9%増の29.57億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度から増加し、期末在庫率も前年度を上回り27.1%となる見込み(P15資料2参照)。

生産量は、前年度から、小麦、とうもろこしは増加、コメは減少し、穀物全体では増加となり、29.84億トンの見込み。

消費量は、前年度から、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体でも増加となり、29.57億トンの見込み。

貿易量は、前年度から、小麦、とうもろこしは増加、コメは減少し、穀物全体では増加となり、5.37億トンの見込み。

期末在庫量は、8.02億トンと前年度から増加し、期末在庫率も27.1%と前年度から増加する見込み。

(注:数値は4月のUSDA「PS&D」による)

IV 2025/26年度の油糧種子需給(予測)のポイント

4月のUSDAの需給報告によれば、2025/26年度の油糧種子全体の生産量は、前年度を上回り6.98億トン。消費量も前年度を上回り6.93億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度から増加するものの、期末在庫率は前年度を下回り21.1%となる見込み。

(注:数値は4月のUSDA「PS&D」による)

V 今月の注目情報:農業市場情報システム(AMIS)の主要穀物の需給動向の分析等

農業市場情報システム(AMIS)は、国連食糧農業機関(FAO)本部に事務局を設置し、G20国に加え、主要な輸入国、国際機関、民間企業の参加^{※1}を得て、市場情報(主要作物の需給情報等)の分析、見直しを実施している。

AMISが4月に公表した『マーケットモニター 137号^{※2}』における、主要穀物の2025/26年度の需給見通しと、ホルムズ海峡の封鎖が農業分野に与える影響予測に係る特集記事を紹介する。

※1 AMIS参加国:G20(日本、アルゼンチン、豪州、ブラジル、カナダ、中国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、メキシコ、韓国、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ、米国、EU。招待国:ウクライナ、カザフスタン、エジプト、ナイジェリア、タイ、ベトナム、フィリピン、バングラデシュ)

※2 リンク: <https://www.amis-outlook.org/market-monitor>

注:AMIS が公表する世界の需給予測は、世界食糧農業機関(FAO)、国際穀物理事会(IGC)及び米国農務省(USDA)が公表した最新データに基づく。FAO は、AMIS のフォーカルポイント(各国連絡窓口)から提供される情報も考慮するため、各国及び機関の公表日、需給表の算出手法等の違いにより数値は異なる。

1. 2025/26 年度の生産・輸出動向等

(1) 小麦

農業市場情報システム(AMIS)によれば、2025/26年度の生産量は、カザフスタン及びウズベキスタンの生産量が予測を上回り、前月(3月)予測から3.6百万トン上方修正され、前年度(2024/25年度)から5.1%増の839.0百万トンの見込み。2025/26年度の消費量は、アルゼンチンにおける飼料用小麦の消費減を要因として、前月から2.3百万トン下方修正されたものの、前年度から1.4%増の803.8百万トンとなる見込み。2025/26年度の期末在庫量は、EU(欧州連合)、イラン及びウズベキスタンにおける輸出の鈍化、輸入増及び収穫見通しの改善を反映し、前月から7.4百万トン上方修正され、前年度から9.9%増の347.3百万トンとなる見込み。期末在庫量予測は、FAO-AMIS がUSDA及びIGCに比べ、多い予測となっている(表1)。

生育状況は、EUでは冬小麦が概ね良好な条件下で生育しているものの、スペインで水浸、バルト諸国及びポーランドで平年を下回る降雨量により懸念が生じている。トルコでは、冬小麦の生育条件は良好。ウクライナでは、3月の温暖な天候により、冬小麦の再生長が例年より早く再開しており、南部における土壌水分量の低さが懸念材料となっている。ロシア連邦では、南部で冬小麦が休眠から目覚め、良好な状況。カザフスタンでも、冬小麦は良好な条件下にある。

表1 世界の小麦需給予測

(単位:百万トン)

| 小麦 | FAO-AMIS | | | USDA | | IGC | |
|----|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 2024/25年度 | 2025/26年度 | | 2024/25年度 | 2025/26年度 | 2024/25年度 | 2025/26年度 |
| | | 3月6日 | 4月3日 | | 3月10日 | | 3月19日 |
| 生産 | 798.2 | 835.4 | 839.0 | 800.4 | 842.1 | 800.8 | 844.7 |
| 供給 | 1117.0 | 1151.1 | 1155.1 | 1069.9 | 1101.8 | 1073.5 | 1107.9 |
| 消費 | 792.8 | 806.1 | 803.8 | 801.2 | 820.6 | 810.3 | 825.1 |
| 輸出 | 192.8 | 204.8 | 206.2 | 204.5 | 221.6 | 197.0 | 211.3 |
| 在庫 | 316.1 | 339.9 | 347.3 | 259.6 | 277.0 | 263.2 | 282.8 |

出典:AMIS「Market Monitor No. 137」(2026.4)より

中国では、冬小麦は休眠から目覚め、春小麦の作付けが開始されている。インドでは、北部数州で季節外れの降雨や雹害があったものの、全般的に良好な条件下で収穫が始まっている。米国で

は干ばつが続き、初期及び最近の寒波の影響を受け、冬小麦への懸念が残っている。太平洋岸北西部では春小麦の作付けが始まっており、総作付面積は前年に比べ減少すると予測される。カナダでは、ほとんどの地域で降水量が継続的に不足しているため、冬小麦の生育状況はまちまちである。

(2) どうもろこし

AMISによれば、2025/26年度の生産量は、インド及びメキシコで生産量が予測を上回り、前月に比べ3.7百万トン上方修正され、前年度から8.2%増の1,318.5百万トンの見込み。2025/26年度の消費量は、アルゼンチン、イラン及びメキシコにおける飼料用どうもろこしの消費増に支えられ前月から2.7百万トン上方修正、前年度から3.3%増の1,277百万トンの見込み。2025/26年度(2025年7月～2026年6月)の輸出量は、中国向け出荷量の下方修正を、イランやその他の輸入国からの購入増が上回り、前月から0.7百万トン上方修正され、前年度に比べ2.2%増となっている。2025/26年度の期末在庫量は、米国の在庫量減を、ブラジル及びインドの在庫増予測が上回り、前月から2百万トン上方修正され、前年度に比べ11.7%増と見込まれている(表2)。

生育状況は、ブラジルでは、春植え作物の収穫が、特に南部地域で良好から極めて良好な条件下で進められている。夏植え作物の作付けは終盤を迎え、総作付面積は前シーズンに比べ増加している。アルゼンチンでは、早植えどうもろこしの収穫が、初期の降雨量の変動により、好不調が混在する状況下で続いている。遅植えどうもろこしは、最近の降雨に支えられ、良好な条件下、登熟期にある。南アフリカでは、早期かつ適時の降雨に支えられ、ほとんどの州で良好から極めて良好な状況が続いている。インドでは、ラビ作の収穫が好条件下、進行中である。インドネシアでは、雨季作の作付けが終了しつつあり、先行して作付けされたどうもろこしの収穫が続いている。米国では、南東部の一部地域で例年より早い作付けが開始されている。中国では、南西部で春どうもろこしの作付けが始まっている。

表2 世界のどうもろこし需給予測

(単位：百万トン)

| どうもろこし | FAO-AMIS | | | USDA | | IGC | |
|--------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 2024/25年度 | 2025/26年度 | | 2024/25年度 | 2025/26年度 | 2024/25年度 | 2025/26年度 |
| | | 3月6日 | 4月3日 | | 3月10日 | | 3月19日 |
| 生産 | 1218.7 | 1314.8 | 1318.5 | 1230.6 | 1297.4 | 1240.2 | 1319.6 |
| 供給 | 1526.8 | 1600.9 | 1604.8 | 1545.8 | 1593.3 | 1538.9 | 1608.4 |
| 消費 | 1236.4 | 1275.0 | 1277.7 | 1247.9 | 1286.2 | 1250.1 | 1302.2 |
| 輸出 | 188.7 | 192.2 | 192.9 | 191.0 | 200.1 | 186.9 | 194.8 |
| 在庫 | 286.3 | 317.7 | 319.7 | 295.8 | 292.7 | 288.8 | 306.4 |

出典:AMIS「Market Monitor No. 137」(2026.4)より

(3) コメ

AMISによれば、2025/26年度の生産量は、前月に比べ、0.1百万トン下方修正されたものの、アジアを中心にラテンアメリカやカリブ地域でも作付面積の拡大及び過去最高水準の単収により、前年より2.0%増の563.3百万トンと、USDAよりも22百万トン多い見通しとなっている。2025/26年度の消費量は、前月から0.1百万トン上方修正され、飼料等の非食用用途の拡大も見込まれるが、食用用途が増加を牽引し、前年度に比べ2.7%増の555.6百万トンと予測されている。2026年(1～12月)の輸出量は、エジプトがわずかに上方修正されたものの、カンボジア及びタイの輸出予測が小幅に下方修正されたことを受け、前月から0.4百万トン下方修正され、前年度に比べ1.6%減の60.0百万トンと予測されている。2025/26年度の期末在庫量は、前月と比べ横ばいとなり、前年度に比べ4.3%増の219.3百万トンと、過去最高水準に達すると予測され、USDA、IGCの予測値に比べ、全て

の項目で AMIS 予測は上回っている(表3)。

生育状況は、中国で早生二期作米の作付けが開始された。インドでは、ラビ米の収穫が開始される一方、夏季米の作付けが終盤を迎えている。バングラデシュでは、ボロ作(夏稲)が良好な条件下にあり、オース作(秋稲)の作付けが始まっている。インドネシアでは、生育期間中の十分な降雨と日照により、雨季米の収穫が高い単収で進められている。ベトナムでは、南部で乾季米(冬春作)の収穫が開始され、北部では作付けが続いており、生育は良好である。タイでは、乾季米が登熟期及び収穫期に入り、前年度に比べ単収の向上が見込まれている。フィリピンでは 11 月及び 12 月に作付けされた乾季米の収穫が開始されており、生育状況は良好。ブラジルでは収穫が進められている。

表 3 世界のコム需給予測

(単位：百万トン)

| コム | FAO-AMIS | | | USDA | | IGC | |
|----|-----------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 2024/25年度 | 2025/26年度 | | 2024/25年度 | 2025/26年度 | 2024/25年度 | 2025/26年度 |
| | | 3月6日 | 4月3日 | | 3月10日 | | 3月19日 |
| 生産 | 552.2 | 563.4 | 563.3 | 541.6 | 541.3 | 542.8 | 543.8 |
| 供給 | 751.6 | 773.6 | 773.6 | 721.9 | 732.5 | 720.2 | 731.0 |
| 消費 | 541.0 | 555.5 | 555.6 | 527.8 | 536.9 | 533.0 | 537.5 |
| 輸出 | 61.0 | 60.4 | 60.0 | 59.6 | 62.5 | 58.6 | 59.5 |
| 在庫 | 210.3 | 219.3 | 219.3 | 191.2 | 191.5 | 187.2 | 193.5 |

出典：AMIS「Market Monitor No. 137」(2026.4) より

(4) 大豆

AMIS によれば、2025/26 年度の生産量は、前月に比べ 1.8 百万トン下方修正され、428.5 百万トンと、インド及びウルグアイにおいて天候不順により単収が悪化するとの予測を受け、前年度に比べてもわずか(0.4%)な減少となる見込み。2025/26 年度の消費量は、前月に比べ 0.4 百万トン減とほぼ横ばいだが、主にインドにおける搾油量の減少が、その他地域における消費増により相殺され、前年に比べ4%増の 429.0 百万トンとなっている。2025/26 年度(2025 年 10 月～2026 年9月)の輸出量は、前月から 0.4 百万トン上方修正され、前年に比べ 0.5%増の 185.8 百万トンと予測されている。2025/26 年度の期末在庫量は、アルゼンチンにおける在庫の積み増し予測を受け、前月から 0.5 百万トン上方修正、前年度から 2.8%増の 73.2 百万トンと、過去最高を記録するとの予測を裏付ける結果となった(表4)。

表 4 世界の大豆需給予測

(単位：百万トン)

| 大豆 | FAO-AMIS | | | USDA | | IGC | |
|----|-----------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 2024/25年度 | 2025/26年度 | | 2024/25年度 | 2025/26年度 | 2024/25年度 | 2025/26年度 |
| | | 3月6日 | 4月3日 | | 3月10日 | | 3月19日 |
| 生産 | 430.4 | 430.3 | 428.5 | 427.2 | 427.2 | 429.1 | 425.9 |
| 供給 | 496.4 | 501.9 | 499.6 | 542.3 | 551.0 | 500.9 | 507.7 |
| 消費 | 412.4 | 429.4 | 429.0 | 413.4 | 424.2 | 419.0 | 429.6 |
| 輸出 | 184.8 | 185.4 | 185.8 | 184.2 | 187.2 | 184.6 | 187.0 |
| 在庫 | 71.2 | 72.7 | 73.2 | 123.8 | 125.3 | 81.9 | 78.2 |

出典：AMIS「Market Monitor No. 137」(2026.4) より

生育状況は、ブラジルでは、好条件の下、収穫が平年に比べやや早いペースで進んでいる。中西部地域では、今シーズンを通じ、天候に概ね恵まれたため、作柄は極めて良好である。アルゼンチンでは、農業地域で広範囲に渡る降雨があったため、収穫期を迎えつつある早植え大豆と、生育の重要段階にある遅植え大豆の両方で作柄が改善した。南アフリカでは、生育は良好から極めて良好であり、ほとんどの州で良好な単収が期待されている。

2. 特集記事「ホルムズ海峡から農場へ：農業への衝撃と示唆」

AMIS は、本年 2 月 28 日のイスラエル及び米国のイラン攻撃を受け、今月のマーケットモニターに特集記事として、ホルムズ海峡が封鎖されたことによる農業への影響に係る考察を掲載しており、当該記事(仮訳)を紹介する。

(1) ホルムズ海峡

ホルムズ海峡－ペルシャ湾とオマーン湾を結ぶ狭い水路－は、世界的に極めて重要な海上交通の要衝である。毎日、約 2,000 万バレルの原油(世界の海上石油貿易量の約 4 分の 1 に相当)と、世界の液化天然ガス(LNG)輸送量の約 20%がこの海峡を通過している。ホルムズ海峡は肥料市場にとっても極めて重要であり、世界の尿素貿易の 3 分の 1 以上(図 1)、アンモニア輸出の約 23%(図 2)、硫黄輸送の約 45%(図 3)を担っており、これによりペルシャ湾は世界の窒素及びリン酸塩のバリューチェーンにおける重要な拠点となっている。農業・食品セクターへの主な影響は、石油、ガス、肥料価格の上昇を通じて生じ、農業生産、加工、輸送の全段階でコストを押し上げ、ひいては食料価格や食料安全保障に波及する。

(2) 肥料市場に与える影響

現在の事態の悪化以前より、肥料市場は既に逼迫していた。これは、中国の輸出規制、スポット市場の供給不足、そして北半球における季節的な前倒し調達が反映されたものである。今回の事態悪化により、供給面での混乱が更に深刻化しており、特にイランやカタールにおけるガスインフラや加工施設への攻撃に伴う操業停止などが含まれる。同地域では一部の生産能力が稼働を続けているものの、地政学的リスクの高まりにより、物流システムや現地の在庫が飽和状態に近づくにつれ、更なる生産制限が行われる可能性が高まっている。ホルムズ海峡以西の地域から輸出可能な余剰分が事実上市場から引き揚げられたことで、スポット市場の流動性は著しく低下している。

一方、中東からのガス輸出の減少により、世界のガス需給が逼迫し、アンモニアや尿素の生産者にとっての限界生産コストが押し上げられている。特に、バングラデシュ、インド、パキスタンといった LNG に依存する市場ではその傾向が顕著である。これらの地域での稼働率の低下は、肥料の輸入需要の増加につながり、世界市場をさらに逼迫させる可能性がある。同様に、硫黄の輸出減少もリン酸肥料の生産コスト上昇を招いている。

(3) 今後の市場動向

こうした状況下、今後の市場動向は、紛争の長期化、輸出の流れが正常化する時期、そして代替供

図 1 尿素 輸出量

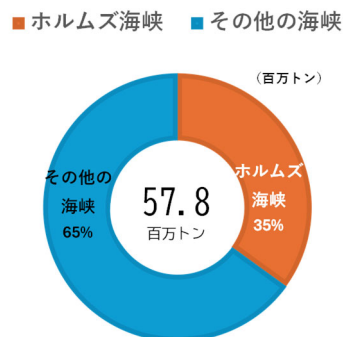


図 2 アンモニア 輸出量

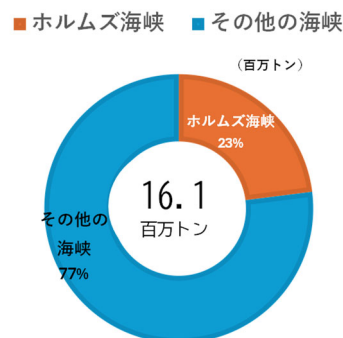
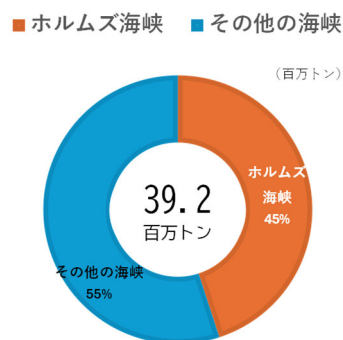


図 3 硫黄 輸出量



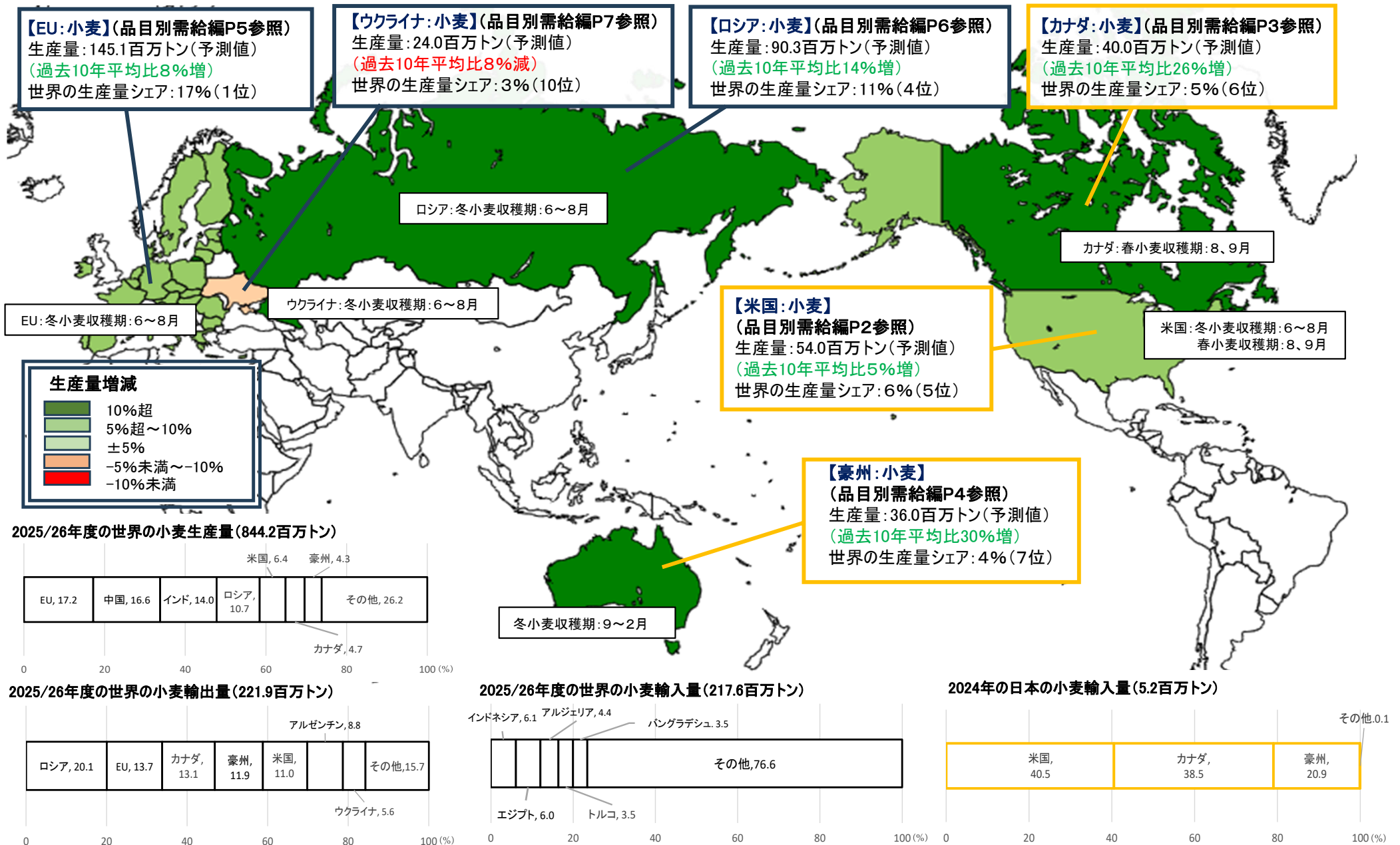
出典：AMIS 15th session of the AMIS Rapid Response Forum (2026.3.25) の資料を参考に農林水産省で作成

給元やコストの高い物流ルートへの貿易のシフトの程度によって左右されることになる。シーズン初期の調達により一部の輸入業者はある程度影響を免れているものの、現在、供給の混乱が、北米、欧州、及び中央・西アフリカの一部地域における肥料の施用ピーク期と重なっている。混乱が長引けば、インドやブラジルといった主要な輸入地域でも、主な散布シーズンが始まるため影響を受けることになるだろう。補助金制度や供給管理政策によって農家の負担を一時的に緩和できたとしても、価格の上昇が続けば、購入の負担が増大し、散布量が減少する恐れがある。投入コスト以外にも、エネルギー価格は主にバイオ燃料の経路を通じて穀物及び油糧種子市場に影響を及ぼしている。原油価格の上昇はエタノールやバイオディーゼルの利益率を改善させ、とうもろこしや植物油の需要を下支えする。こうした背景のもと、先物市場は供給の混乱に素早く反応した。シカゴ・マーカントイル取引所(CME)及びユーロネクストの穀物・油糧種子先物取引は、地政学的リスクプレミアムが価格に織り込まれるにつれ、当初は過度に上昇した。しかし、中東情勢の緊張が農産物市場に及ぼす影響は即時的ではなく、間接的かつ漸進的であるとの見方が急速に広まったことを反映し、当月のベンチマーク先物価格の全体的な上昇幅は緩やかなものにとどまった。バイオ燃料関連の需要がエネルギーとの最も直接的な関連性を示した一方で、エネルギーチェーンの下流においても、輸送や農作業に影響を与えるディーゼル燃料費や、肥料生産に影響を与える天然ガス価格を通じて、農作物市場への波及効果が生じた。こうした状況下では、肥料コストの上昇が今シーズンの収量に直線的な反応をもたらす可能性は低い。むしろ、その影響は作付決定を通じて現れる可能性が高い。2022年の経験からも投入コストが急激に変化する場合、従来の新穀物価格比率は二次的な役割しか果たさず、肥料の購入可能性が作付面積配分の主要な決定要因となることが示唆されている。全体として、先物市場はこれまでのところ、構造的な供給混乱ではなく、現実的ではあるが抑制された投入コストショックを織り込んでい

3. AMIS 予測について

世界の需給予測に関し、USDA が毎月公表する穀物等需給報告(WASDE)を筆頭に、USDA の予測は認知度も高く、穀物の需給をみる上で、最も影響力のある予測といえる。一方、今回取り上げたように、AMIS も各国からの報告を含め、肥料及び植物油にかかる価格動向、海上運賃等の情報(バルチック海運指数(BDI))等も分析の対象としており、その予測は、USDA と比較することによる新たな視点の取得、また特集記事を紹介したように、肥料等の予測を含めた紛争等の突発的事項に絡めた今後の穀物需給の予測に係る情報も発信しており、参考となる視点がある。今後も、AMIS が発信する情報については、食料安全保障月報等においても注視していきたい。

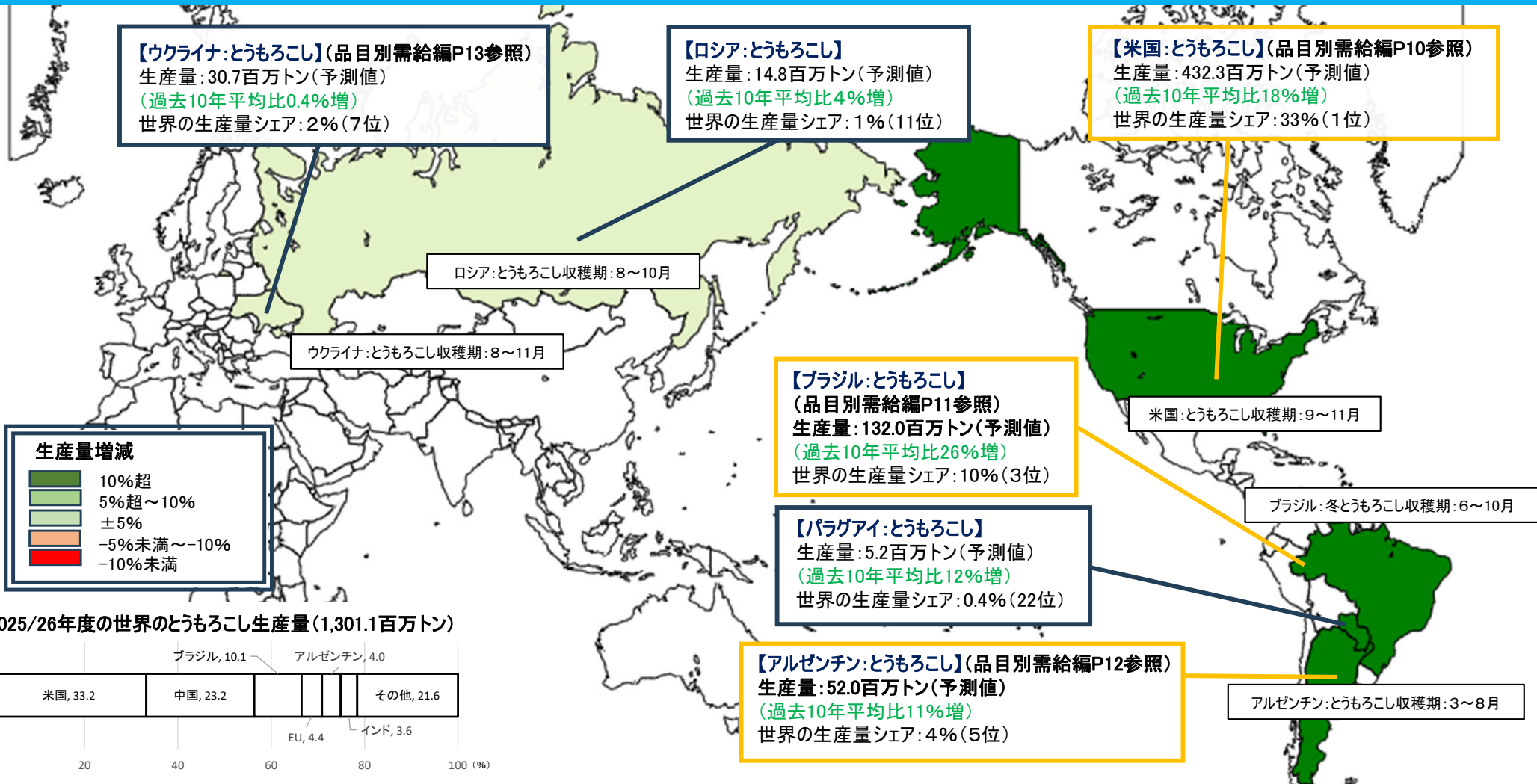
資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(4月版)



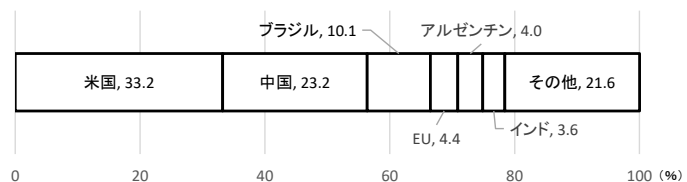
- 2024年度の日本の小麦輸入量は533万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(650万トン、うち食用は512万トン)の82.0%を占める。
- 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は256kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,248kcal)の11.4%を占める(2024年度)。

出典:USDA「PS&D」(2026.4)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(4月版)



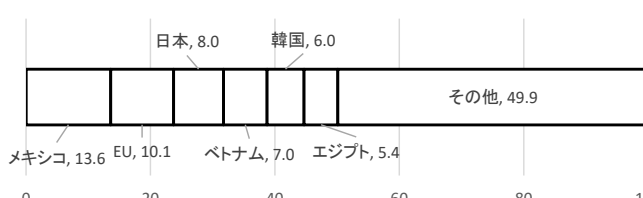
2025/26年度の世界のとうもろこし生産量(1,301.1百万トン)



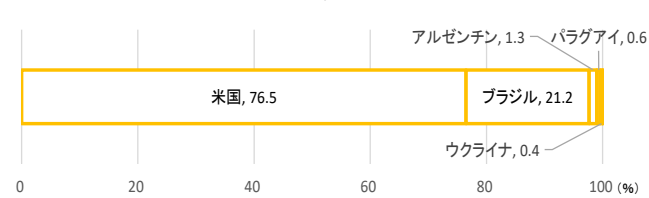
2025/26年度の世界のとうもろこし輸出量(207.3百万トン)



2025/26年度の世界のとうもろこし輸入量(193.1百万トン)



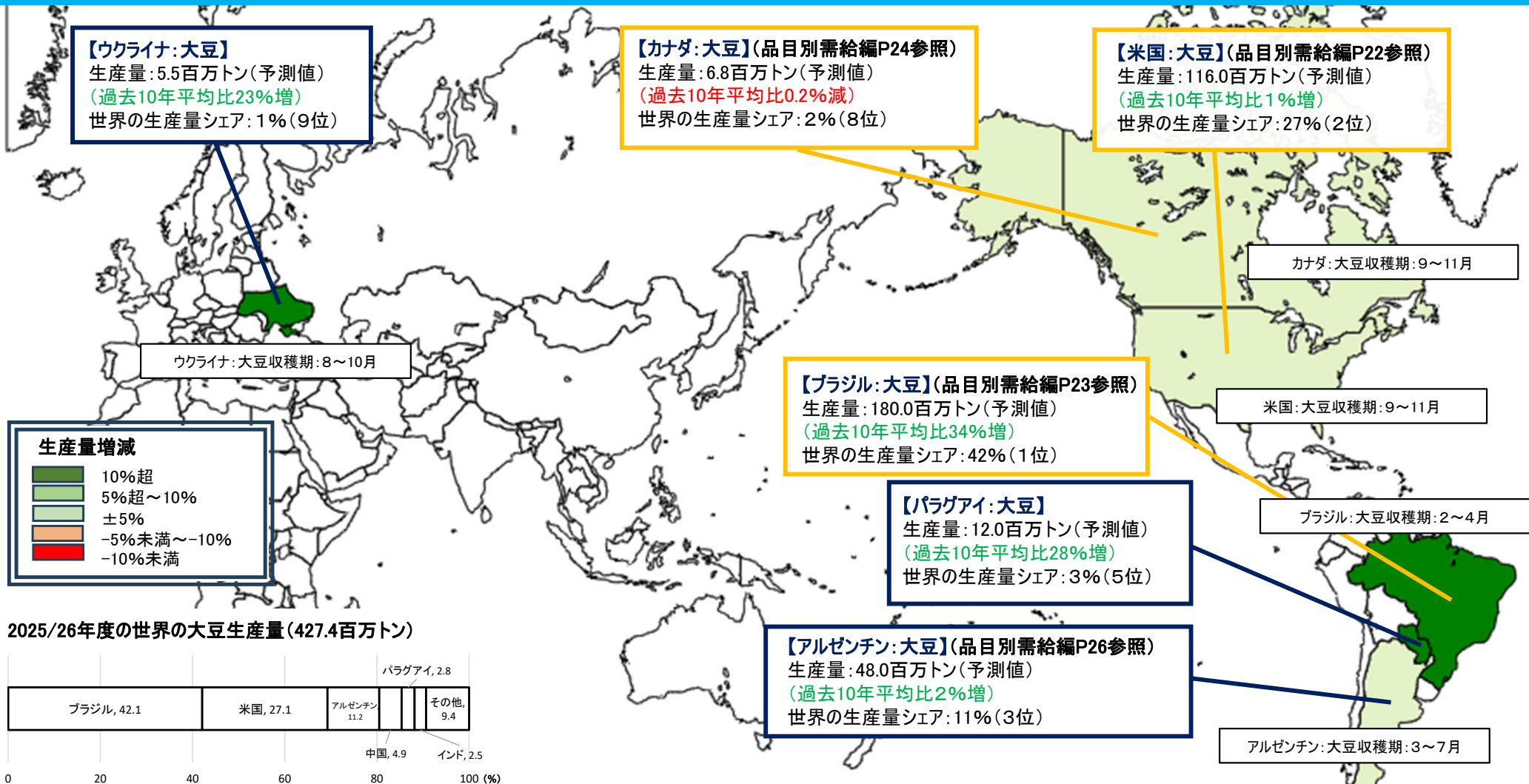
2024年の日本のとうもろこし輸入量(15.3百万トン)



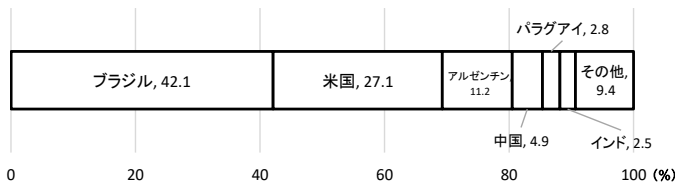
○ 2024年度の日本のとうもろこし輸入量は1,522万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,518万トン、うち飼料用は1,194万トン)のほぼ全量を占める。

出典: USDA「PS&D」(2026.4)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

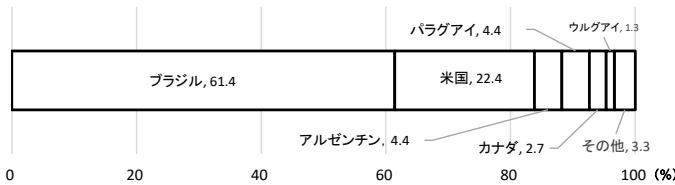
資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(4月版)



2025/26年度の世界の大豆生産量(427.4百万トン)



2025/26年度の世界の大豆輸出货量(187.2百万トン)



2025/26年度の世界の大豆輸入量(185.6百万トン)



2024年の日本の大豆輸入量(3.17百万トン)



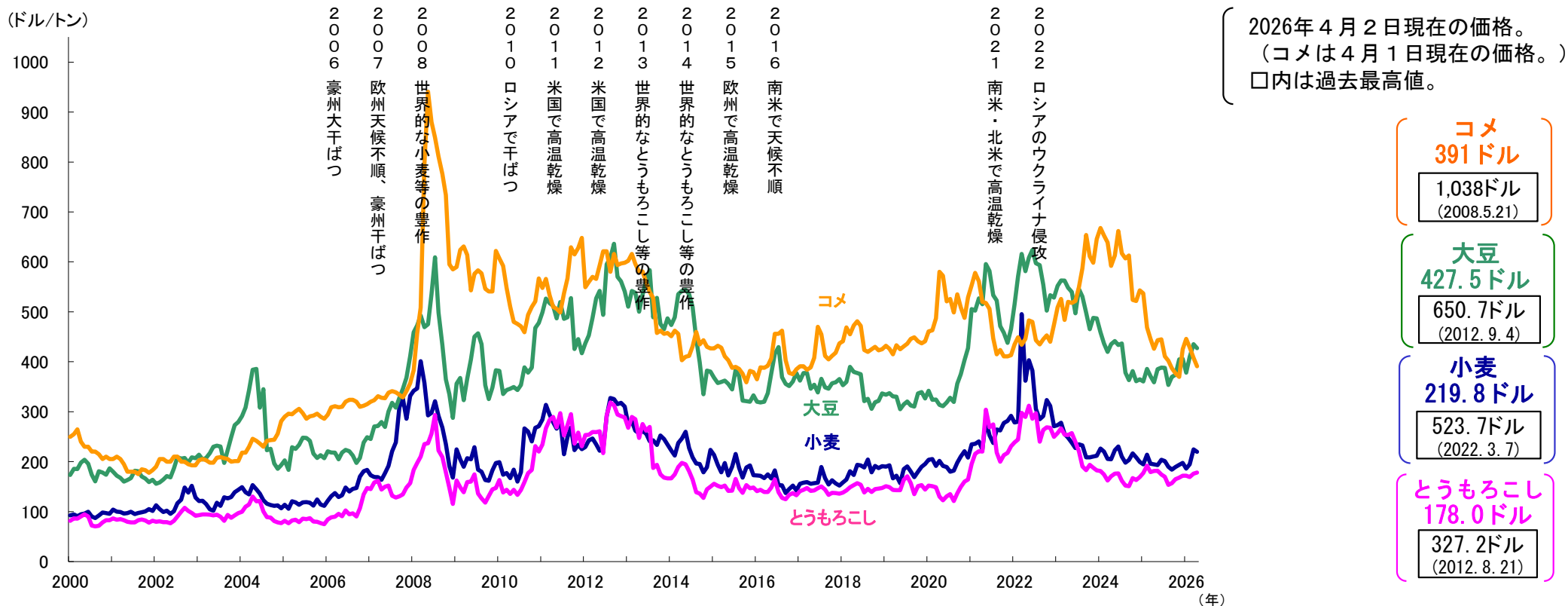
○ 2024年度の日本の大豆輸入量は309万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(359万トン、うち大豆油などの加工用は256万トン、食用は88万トン)の86.2%を占める。
○ 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は58kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,248kcal)の2.6%を占める(2024年度)。

出典:USDA「PS&D」(2026.4)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料 1-4 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は下落。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで下落。とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで下落。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、2024年以降、インドの輸出規制解除等を受け下落。2025年11月以降、タイの洪水被害等を受け上昇するも、世界的な供給増等を受け、再び下落。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要等により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。なお、今月は4月3日(金)が休場のため、4月2日(木)の価格。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料 1-5 サプライチェーン等に関する状況

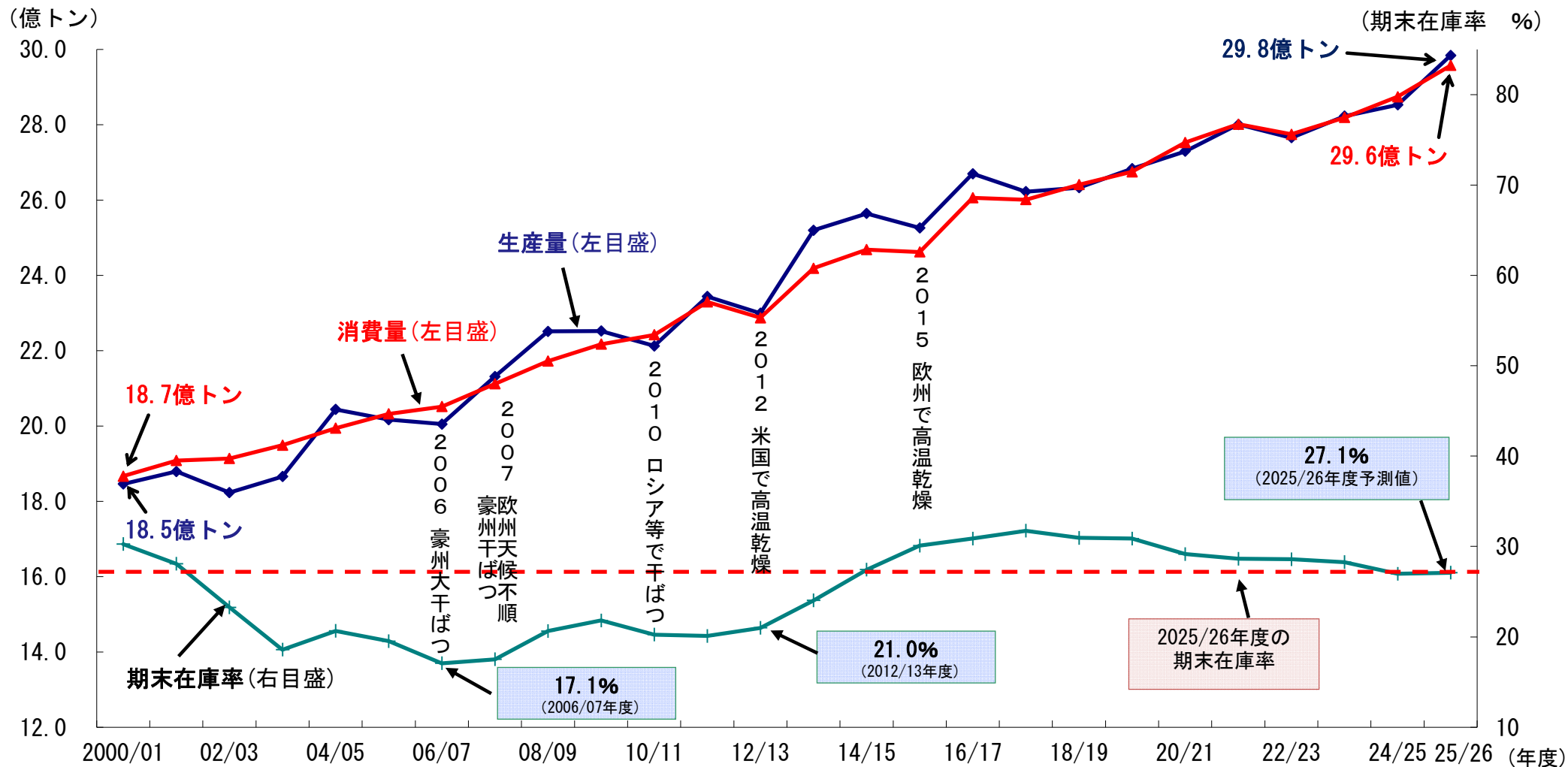
○サプライチェーン等に大きな影響を与える情報は特段なし (2026年4月17日時点)

| 生産国の情報 | チョークポイント情報 | その他 |
|---|--|--|
| <p>○米国</p> <p>①USDA「Grain Exports Dashboard」によれば、3月のメキシコ湾から日本向け穀物(とうもろこし、大豆及び小麦)の海上運賃は、2月(54.19ドル/トン)から上昇し、60.44ドル/トン。太平洋岸北西部(PNW)から日本向けは、2月(30.50ドル/トン)から上昇し、33.75ドル/トン。両ルートとも1月には下落していたが直近では上昇傾向。</p> <p>②ユニオン・パシフィック鉄道は、<u>2026年6月1日から小麦及び小麦粉の鉄道運賃を1車両当たり275ドル引き上げると発表。</u></p> <p>③米国環境保護庁(EPA)は、2026年及び2027年の再生可能燃料基準(RFS)における混合義務量を過去最高水準に設定。<u>原料となる大豆油、コーン油等の需要も増加する見込み。</u></p> <p>○カナダ</p> <p>Quorum Corporation「Grain Monitoring Program Report for: February 2026」によれば、2月のカナダ西部の鉄道による穀物輸送量は、1月の510万トンから4.3%減の約490万トン。年度初め(2025年8月)からの取扱量は前年同期の3,510万トンから4.9%増の3,680万トン。2月の港湾出荷量は350万トンで、前月と同水準。年度初めからの取扱量は2,660万トンで、前年同期比5.3%増。船舶の港での待機日数は、1月の11.2日から12.1日に増加。バンクーバー港の待機日数は前月比14.8%減となった一方、プリンス・ルパート港では32.4%増加。</p> | <p>○パナマ運河</p> <p>①2月のパナマ運河通航数は、1日平均35.0隻と通常通航水準で推移。一方、4月に保守工事が予定されており、<u>一部の日において通航が制限される可能性がある。</u></p> <p>②パナマ運河のガトゥン湖の水位は、4月6日現在、87.1フィートで直近では低下傾向であるものの、過去5平均(75.7フィート)は上回っており、<u>通航に関し大きな制約は生じていない。</u>一方で、水位は低下傾向であり、今後の降雨状況等に注視する必要。</p> <p>○アゾフ海</p> <p>報道情報によれば、4月3日、4日に穀物輸送船がウクライナのドローンとみられる攻撃を受け、それぞれ沈没と損傷した。</p> | <p>○肥料価格</p> <p>農業市場情報システム(AMIS)「Market Monitor No. 137」によれば、3月末時点のAMIS肥料コスト指数(AMIS対象作物の1ヘクタール当たりの肥料費の週次推移を把握する指標。2019年の平均価格を100として計算。)は、中国を除く地域において、世界における窒素及びリン酸の逼迫を受け急上昇し、193%に上昇。</p> <p>フランスでは、小麦の肥料コスト指数が239%となり前月比46ポイント上昇。</p> <p>米国では、とうもろこしの同指標が239%となり、前月比56ポイント上昇。</p> <p>ブラジルでは、大豆の同指標について、大豆は窒素肥料価格の変動に対して影響が比較的低いことから他の指標と比べ緩やかな上昇となった。</p> |

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2025/26年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回り、前年度より増加し、27.1%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

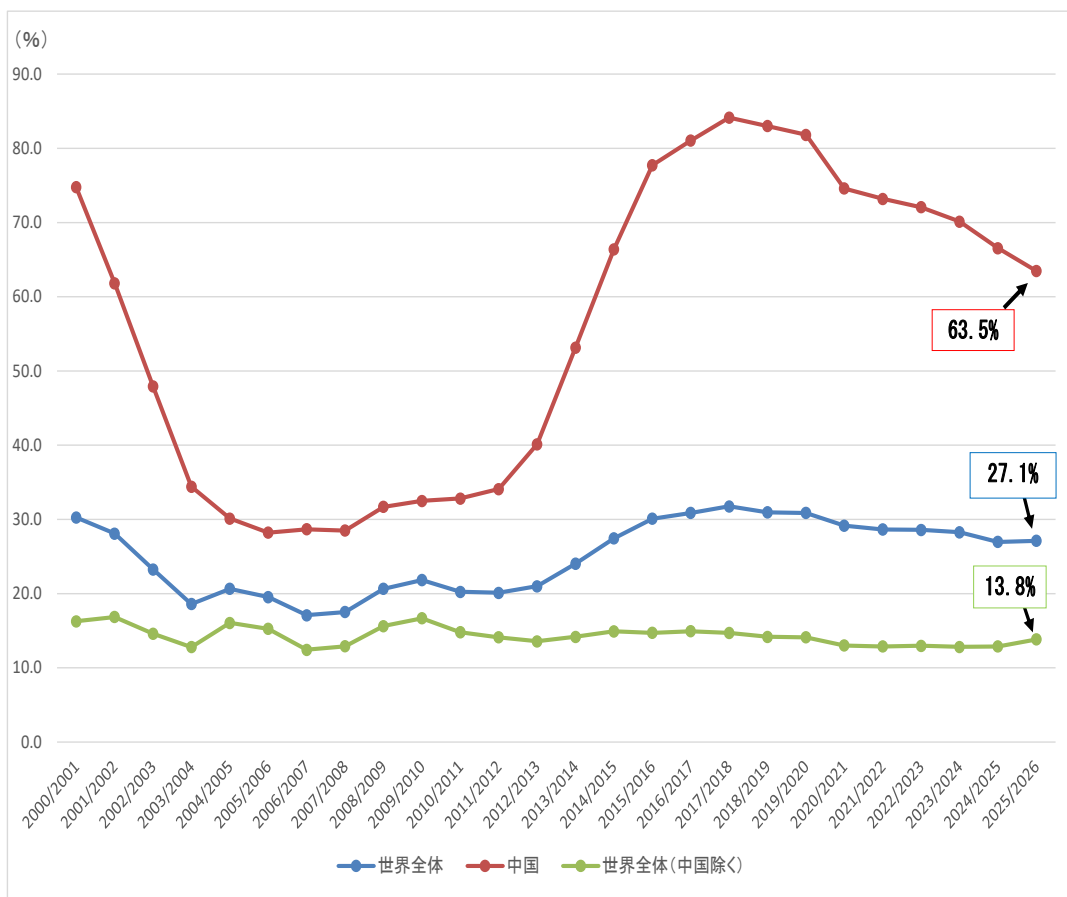


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 2026)、「PS&D」

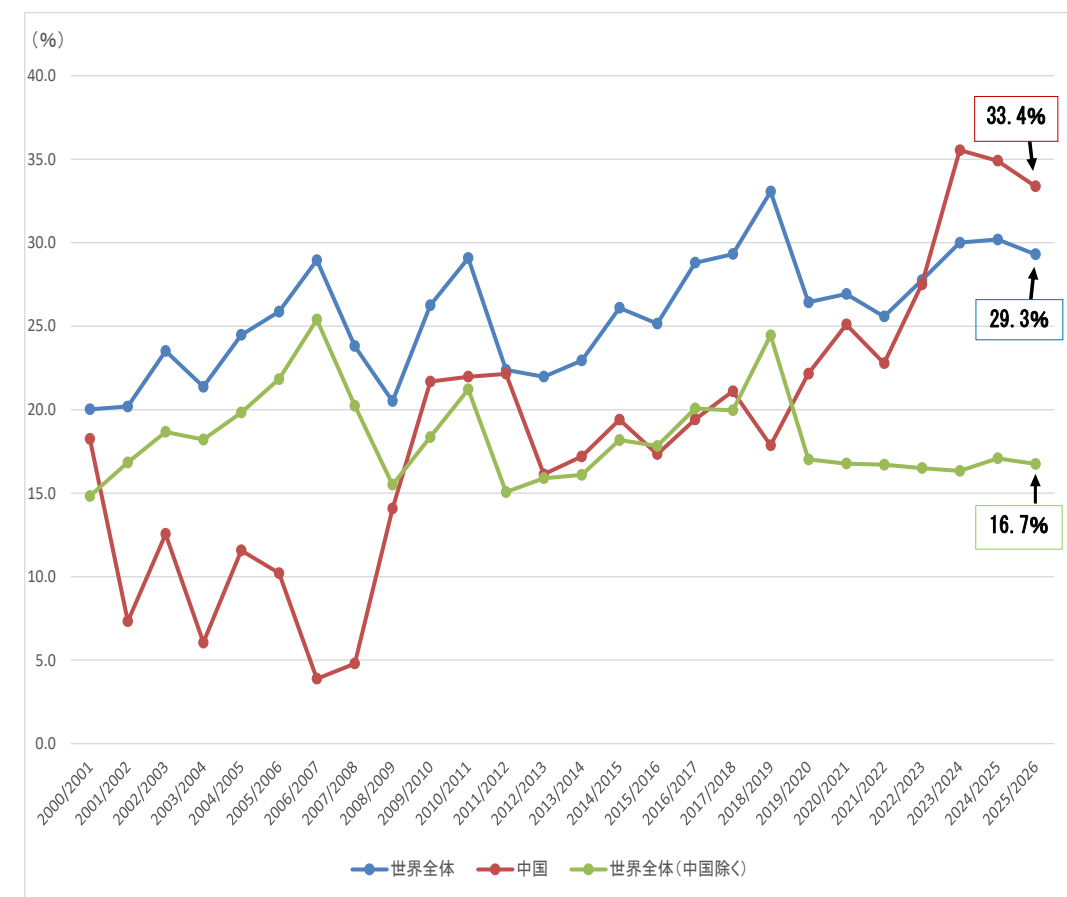
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。 -15-

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(April 9, 2026)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

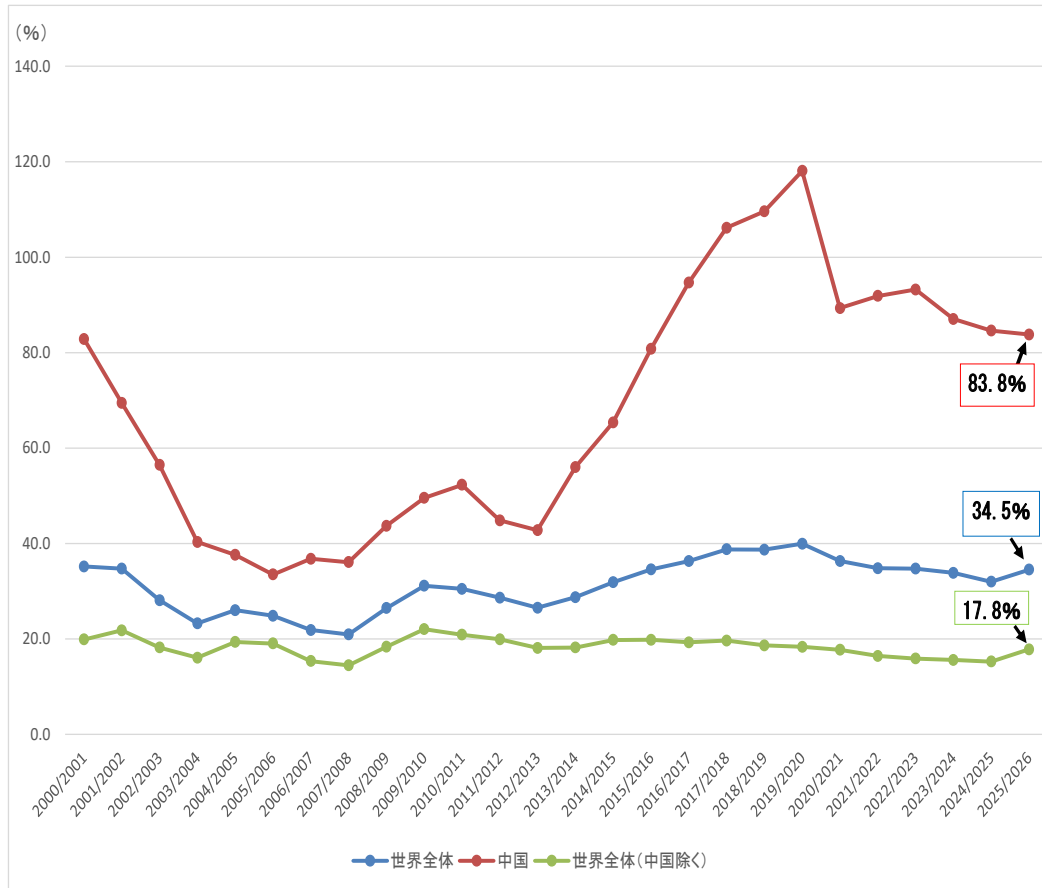
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

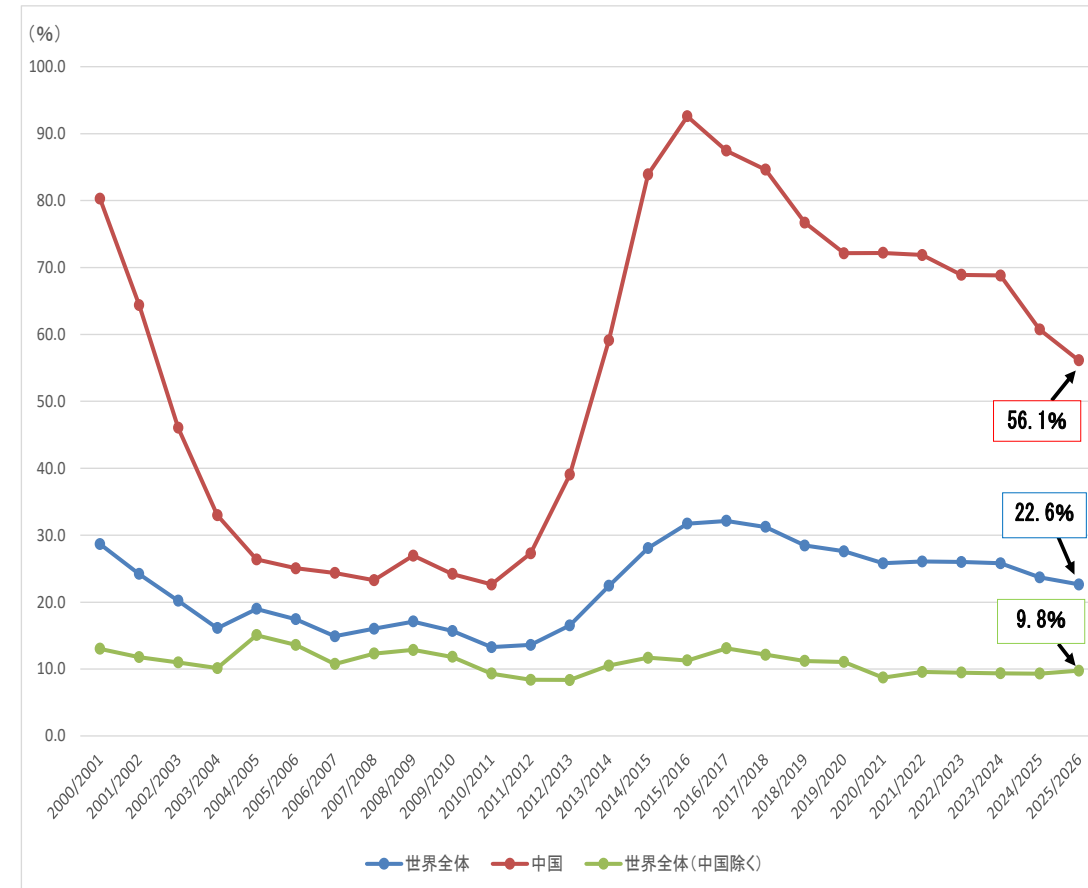
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(April 9, 2026)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

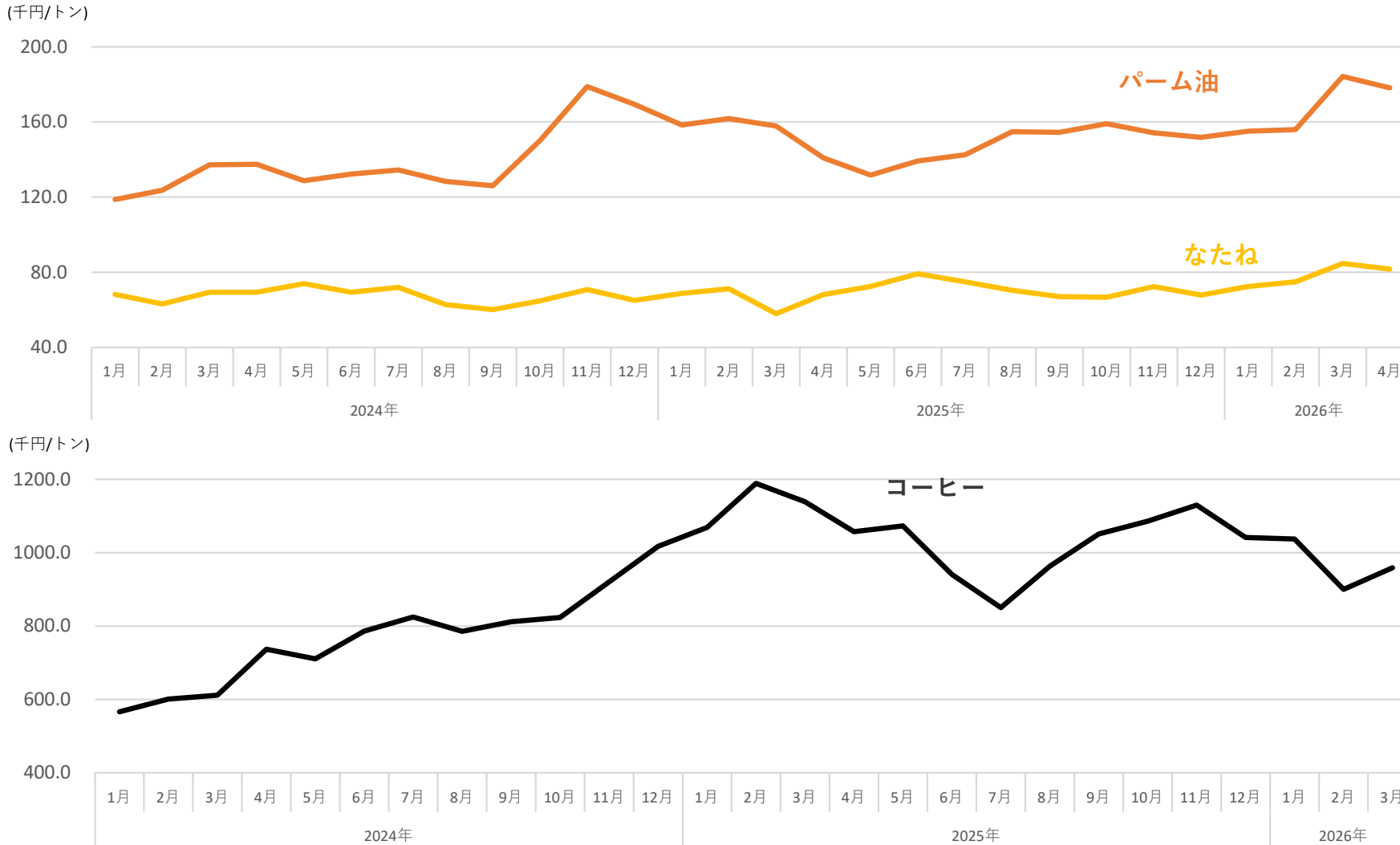
2)世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100

3)中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

4)中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料4-1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油の直近の動きとして、中東情勢の緊迫化による原油価格高騰の影響から上昇している。4月の月央値は178.1千円/トンとなり、前月の月央値をやや下回ったが、依然として高い水準で推移している。
- なたねの直近の動きとして、中東情勢の緊迫化による原油価格高騰の影響から上昇している。4月の月央値は81.7千円/トンとなり、前月の月央値をやや下回ったが、依然として高い水準で推移している。
- コーヒーについては、2025年11月以降、供給見通しの改善を背景に下落傾向で推移している。2026年3月には、中東情勢の緊迫化を背景とした地政学的リスクの高まりや、それに伴うエネルギー・海運コストの高騰を受けて一時的に上昇した。



□内は2024年1月以降の最高値。

パーム油
178.1千円/トン
184.3千円/トン
(2026.3)

なたね
81.7千円/トン
84.7千円/トン
(2026.3)

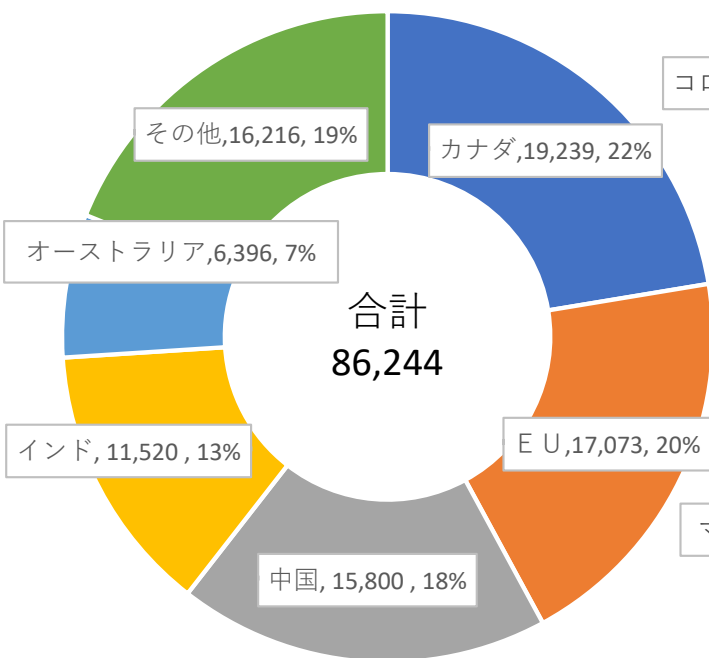
コーヒー
958.9千円/トン
1188.8千円/トン
(2025.2)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグなたね市場の先物価格（期近物）の月央値を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）の月央値を使用し、為替レートから円に換算して算出。コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料4-2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

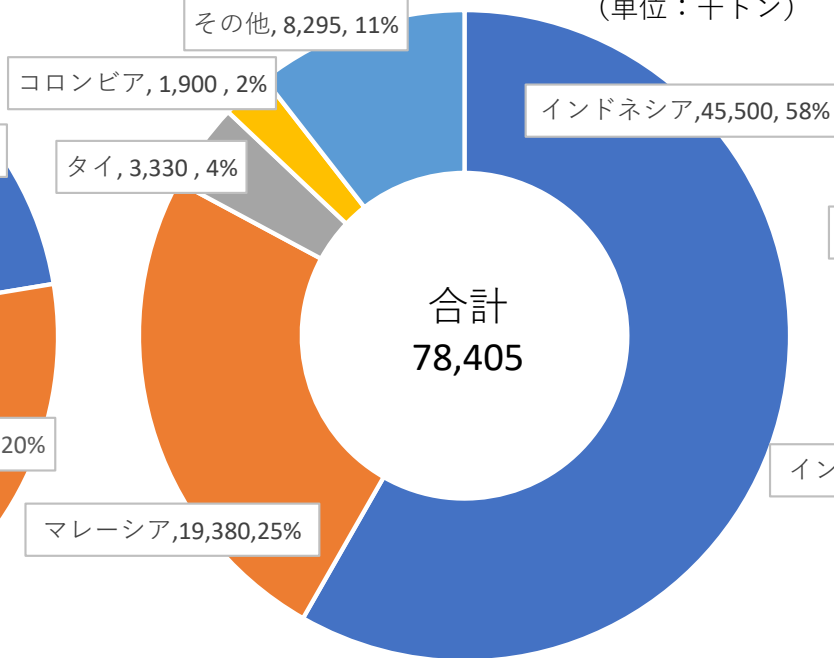
○主要生産国の生産状況 (単位：千トン)

なたね生産量 (2024/25)



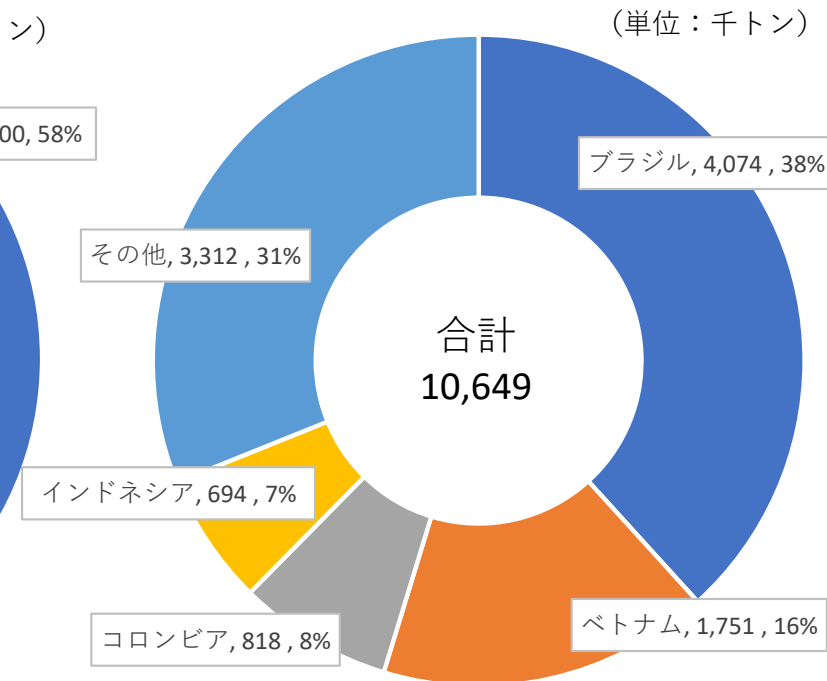
※米国農務省 (PS&D)
2026年4月時点

パーム油生産量 (2024/25)



※米国農務省 (PS&D)
2026年4月時点

コーヒー生産量 (2024/25)



※国際コーヒー機関 (ICO) 統計資料
2025年7月時点

○我が国の主な輸入先の状況 (単位：千トン (2025年))

| なたね | 輸入量 | 割合 |
|-----------|--------------|---------------|
| カナダ | 1,722 | 80.1% |
| オーストラリア | 429 | 19.9% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| 合計 | 2,151 | 100.0% |

※財務省「貿易統計」 (HSコード：1205)

| パーム油 | 輸入量 | 割合 |
|-----------|------------|---------------|
| マレーシア | 568 | 87.6% |
| インドネシア | 79 | 12.2% |
| その他 | 1 | 0.2% |
| 合計 | 648 | 100.0% |

※財務省「貿易統計」 (HSコード：1511)

| コーヒー | 輸入量 | 割合 |
|-----------|------------|---------------|
| ブラジル | 147 | 40.9% |
| ベトナム | 90 | 25.1% |
| コロンビア | 38 | 10.6% |
| その他 | 84 | 23.4% |
| 合計 | 359 | 100.0% |

※財務省「貿易統計」 (HSコード：0901.11~0901.12)

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和8年3月の国内の主な加工食品の消費者物価指数は117.6～162.2(前年同月比は-2.6%～12.9%)の範囲内。

消費者物価指数(総務省)

【参考】

食品価格動向調査(農林水産省)

| 品目 | R5 (2023) | R6 (2024) | R7 (2025) | 直近6か月 | | | | | | | 上昇率 (前年 同月比) | 品目 | R5 (2023) | R6 (2024) | R7 (2025) | 直近7か月 | | | | | | | 上昇率 (前月比) | 上昇率 (前年 同月比) |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|-----------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|--|-------|--------------|--------------|--------------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------------------|
| | 年平均 | 年平均 | 年平均 | R7 10月 | 11月 | 12月 | R8 1月 | 2月 | 3月 | 年平均 | | | 年平均 | 年平均 | R7 10月 | 11月 | 12月 | R8 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | | | |
| 食パン | 118.7 | 122.0 | 126.8 | 126.3 | 126.5 | 126.6 | 126.8 | 126.4 | 126.8 | -0.5% | 食パン | 114.5 | 117.9 | 124.3 | 123.8 | 124.5 | 124.5 | 124.5 | 124.5 | 124.2 | 123.8 | -0.3% | -0.7% | |
| 即席めん | 119.7 | 122.4 | 119.4 | 119.2 | 120.0 | 114.4 | 120.3 | 116.7 | 117.6 | -2.6% | 即席めん | 117.5 | 118.8 | 117.0 | 117.9 | 117.3 | 114.9 | 117.9 | 117.3 | 117.9 | 122.2 | 3.6% | 4.2% | |
| 豆腐 | 114.6 | 118.2 | 121.4 | 122.7 | 123.1 | 123.6 | 122.8 | 123.2 | 123.5 | 2.9% | 豆腐 | 113.0 | 116.4 | 119.3 | 120.2 | 120.2 | 119.8 | 120.7 | 120.2 | 119.3 | 121.1 | 1.5% | 0.3% | |
| 食用油 (キャノーラ油) | 160.2 | 148.6 | 149.2 | 150.3 | 154.6 | 151.9 | 154.0 | 157.0 | 153.8 | 3.1% | 食用油 (キャノーラ油) | 159.4 | 145.8 | 142.0 | 143.8 | 144.1 | 144.1 | 144.1 | 145.4 | 146.7 | 146.4 | -0.2% | 3.0% | |
| みそ | 108.1 | 113.6 | 119.5 | 125.4 | 128.4 | 128.3 | 129.3 | 128.8 | 130.2 | 12.9% | みそ | 105.9 | 109.5 | 114.9 | 123.8 | 126.7 | 125.2 | 126.5 | 126.9 | 128.6 | 128.1 | -0.4% | 16.2% | |
| マヨネーズ | 149.5 | 153.1 | 155.8 | 163.5 | 163.5 | 162.0 | 163.3 | 163.1 | 162.2 | 6.7% | マヨネーズ | 139.8 | 141.2 | 142.5 | 149.2 | 149.2 | 148.9 | 150.3 | 151.3 | 149.6 | 150.9 | 0.9% | 8.6% | |
| チーズ | 131.1 | 133.0 | 139.1 | 144.3 | 137.5 | 134.5 | 140.3 | 143.4 | 142.4 | 2.2% | チーズ | 126.5 | 127.0 | 133.8 | 138.7 | 136.2 | 129.8 | 133.7 | 139.7 | 140.2 | 140.7 | 0.4% | 2.9% | |
| バター | 108.6 | 119.7 | 130.4 | 139.2 | 139.1 | 138.1 | 139.1 | 137.6 | 138.6 | 12.6% | バター | 108.0 | 119.3 | 131.4 | 139.8 | 140.1 | 137.4 | 138.9 | 137.4 | 138.9 | 139.4 | 0.4% | 9.7% | |
| 生鮮食品を 除く食料 | 112.6 | 116.9 | 125.2 | 127.7 | 128.3 | 128.2 | 128.4 | 128.5 | 128.9 | 5.2% | 資料:農林水産省「食品価格動向調査」 注1:令和2年の平均値を100とした指数で表記。 注2:調査は原則、各都道府県10店舗で実施。 | | | | | | | | | | | | | |

資料:総務省「消費者物価指数」
注:令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料6 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を『月報 畜産の情
報』（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000168.html）で公表

○2026年5月号（4月24日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

◆牛肉

- （米国）26年2月の牛肉生産量は前年同月比4.3%減、26年予測も下方修正
- （豪州）牛肉の生産見通しは好調も、足元は中東情勢などで不透明感
- （ウルグアイ）25年の牛と畜頭数および牛肉輸出量は増加

◆豚肉

- （メキシコ）25年の豚肉消費量は堅調に推移、26年も前年比で増加見込み
- （EU）25年の豚総飼養頭数、前年をわずかに下回る

◆牛乳・乳製品

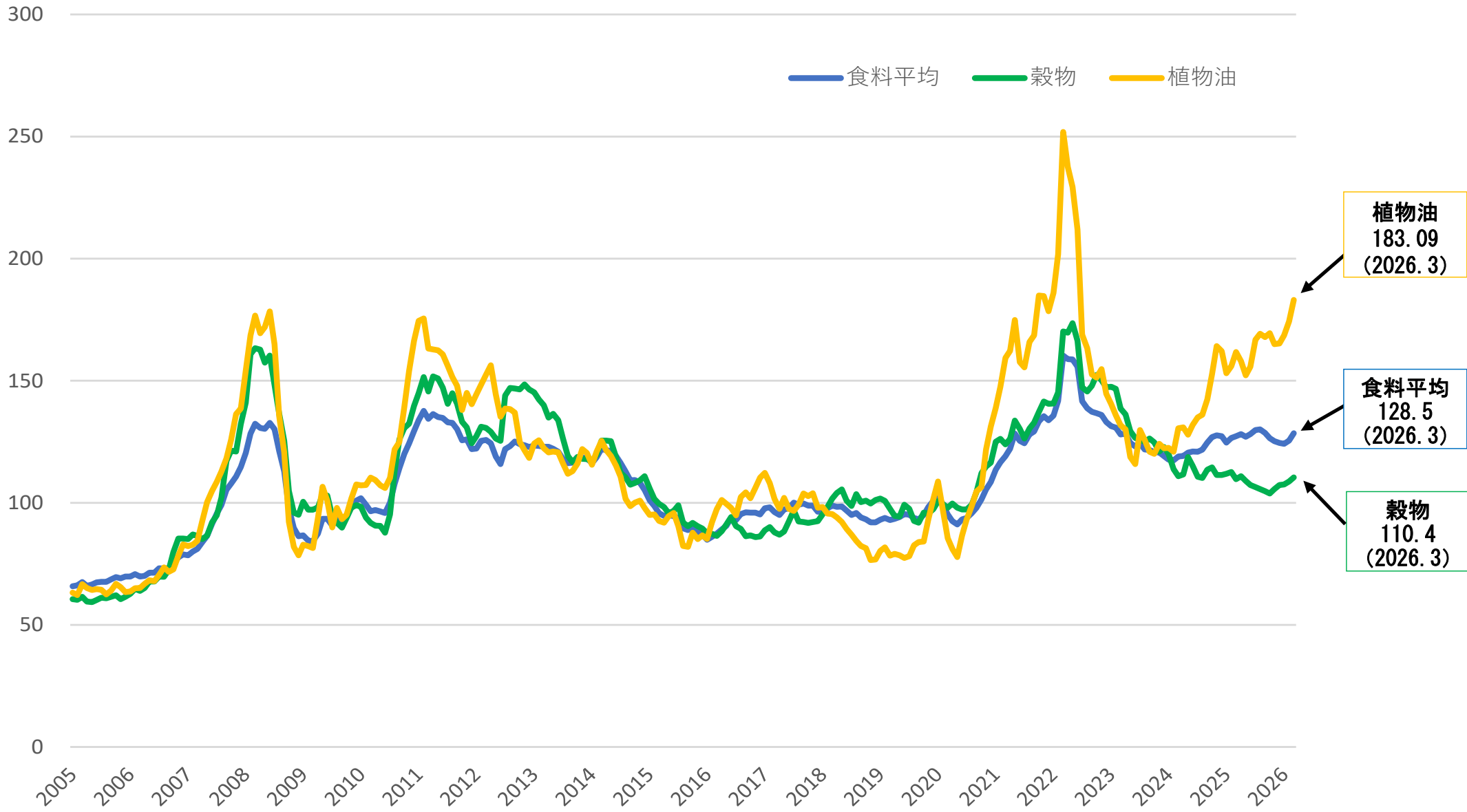
- （米国）26年2月の乳価は前年同月を大幅に下回る
- （EU）25年の乳用経産牛飼養頭数は0.7%減、生乳出荷量は1.3%増
- （NZ）25/26年度の生産者支払乳価を2カ月連続で引き上げ
- （中国）生乳価格は3.0元台と低水準、チーズとバターの輸入量は大幅増加

◆飼料穀物

- （世界・トウモロコシ）25/26年度は生産量および輸入量の上方修正から期末在庫は上方修正
- （世界・大豆）大豆生産量の下方修正などから期末在庫も下方修正
- （米国）米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加
- （ブラジル）25/26年度の大豆生産量は過去最大の見込み
- （中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-2016平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2026.3)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

我が国の食料政策において最も重要な国、カナダについて(その3)

最終回となる今回は、日本とカナダの農林水産業に係る関係についてご紹介していきます。

1. 農林水産業に係るカナダと日本の関係

カナダでは、広大な国土を利用して菜種や小麦等の畑作物、牛や豚等の畜産物が大規模に生産されており、これらの農畜産物は我が国にも大量に輸出されています。例えば、キャノーラオイルとして日本国内で販売されている菜種油の原料となる菜種については、我が国の輸入先国第1位(2025年貿易統計。以下同じ。)となっています。このほかにも、小麦、豚肉、製材、ロブスターでは第1位、大麦では第2位、牛肉では第4位となっており、我が国がカナダからいかに多くの農林水産物を輸入しているかがうかがえます。

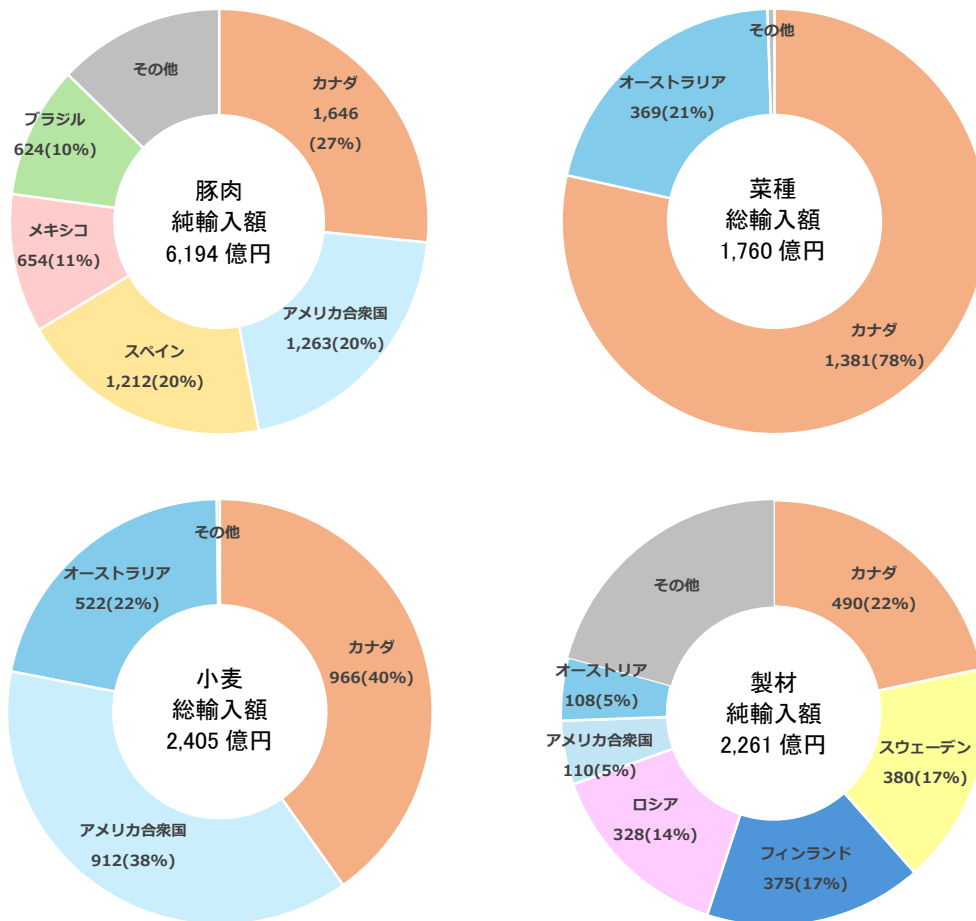


図1 我が国の豚肉、菜種、小麦、製材の輸入相手国(2025年)

出典:財務省「貿易統計」

【今月のコラム】

また、このような農林水産物に限らず、肥料の三要素の一つであるカリウム（加里）の原料である塩化カリについても我が国はカナダから大量に輸入しており、全輸入量の約7割をカナダから輸入しています（令和6肥料年度）。実は塩化カリの輸入先として、以前はこれほど大きな割合を占めてはいませんでした。令和2肥料年度では、塩化カリ輸入量のカナダが占める割合は4割程度で、ロシアやベラルーシの割合もかなり大きく、この2国を合わせて輸入量の4割程を占めていました。しかし、ロシアのウクライナ侵略の影響により肥料原料の輸入が停滞したため、中村裕之農林水産副大臣（当時。以下この項において同じ。）がカナダ（オタワ）を訪問して塩化カリの安定供給を連邦政府のビボー（Marie-Claude Bibeau）農業・農産食料大臣に要請したり、カナダ連邦政府で塩化カリ等の天然資源を担当しているウィルキンソン（Jonathan Wilkinson）天然資源大臣が訪日した際に野村哲郎農林水産大臣が面会をするなどの取組の効果もあり、塩化カリの輸入割合については現在のような状況になっています。

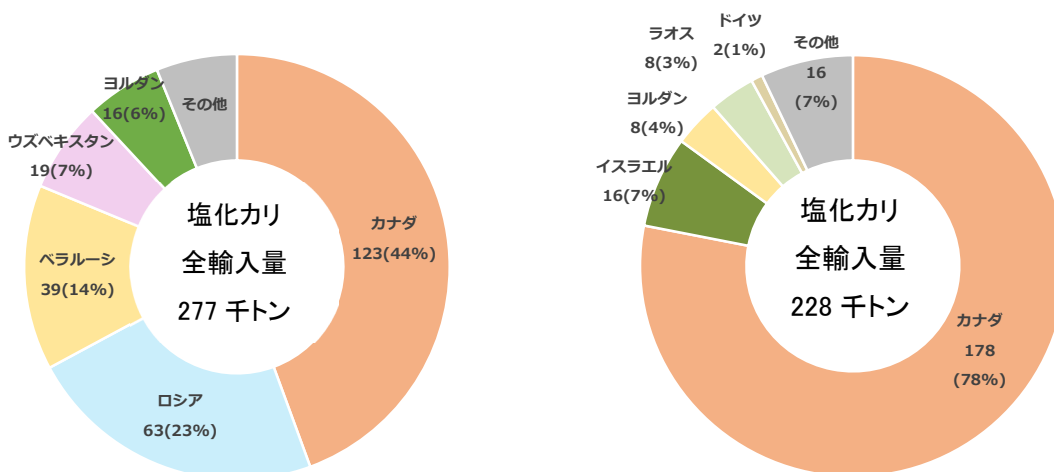


図2 R2肥料年度（令和2年7月～令和3年6月） 図3 R6肥料年度（令和6年7月～令和7年6月）

出典：農林水産省「肥料をめぐる情勢（令和8年3月）」

一方、カナダにとって日本も農林水産物の輸出先として極めて重要です。例えば、先ほど述べたようにカナダから輸入している割合が最も大きな品目である豚肉については、実はカナダにとっても日本が輸出先として第1位（2025年 Agriculture and Agri-food Canada。以下同じ。）です。余談ですが、私も日本に住んでいた際にたまにカナダ産豚肉を買うことがあり、こちらでも牛肉や鶏肉と比べると安いのでよく買うのですが、不思議なことにカナダで食べるカナダ産豚肉よりも日本で食べたものの方が美味しく感じました。この疑問をカナダの豚肉の関係団体に率直にぶつけたところ、それは日本には高品質の豚肉を送っているからだ、という返答があり、そうだったのかと得心したものです。

少し脱線しましたが、豚肉のほかにも、輸出先として日本が大きな割合を占めている作物としては、大豆（第2位）、大麦（第2位）などがあります。無論、地理的に隣接しているアメリカがカナダにとって最も重要な貿易相手国ではありますが、トランプ米国大統領の「カナダをアメリカの51番目の州に」発言等に端を発するアメリカ・カナダ関係の悪化は、カナダにアメリカ一辺倒ではなく、

【今月のコラム】

輸出先の多様化をより促進する方向に働いています。こうした状況を背景に、カナダにとって最も信頼できる貿易相手国の一つである我が国のプレゼンスは今後ますます高まっていくと思われま

す。

このように、我が国にとってカナダは農林水産物、一部の肥料原料供給にとって最も重要な供給国であり、また、カナダにとっても同様に、日本は自国では消費しきれない農林水産物の輸出先として重要であり、まさしく両国はウィン・ウインの関係にあると言えるでしょう。

なお、農林水産業とも実は関係がある話ですが、他の分野での両国の関係として、2025年からカナダからLNG(液化天然ガス)の日本への本格輸出が始まりました。昨今のイランを巡る緊迫した国際情勢の中で、改めて我が国の天然資源確保を巡る課題が浮き彫りになりましたが、このような天然資源を巡る日加の取組がスタートしたことは我が国にとって非常に喜ばしいことです。一方、実はカナダにとってもこうした天然資源採取へのインフラ投資は自国だけでは達成することが難しいものであり、日本からの出資は非常にありがたいものであったであろうと推測します。(注: 出資をしたのは日本だけではありません。)

このような多くの分野における両国のウィン・ウインの関係がこれからも継続するよう、私も微力ながら貢献してまいりたい所存です。

2. 日本・カナダの農業関係の深さを示す取組の例

上述の日本とカナダの関係が深い農産物の中で、菜種については日本とカナダの民間企業が主体となって非常に興味深い取組が行われておりますので、この場を借りて簡単にご紹介したいと思います。

日加菜種協議と呼ばれるこの取組は、菜種に関わる様々な事柄について話し合う会議で、両国の菜種関係の業界団体と政府が参加して行われており、毎年7月頃にカナダで予備協議を、11月頃に日本で本協議を行う形式が取られています。この会議は本2026年で50回目を迎える予定であり、実に半世紀近くに渡ってこのような取組が継続して行われていることは、両国の菜種関係者の結びつきがいかに強固なものであるかを示していると筆者は考えます。

私も昨年と一昨年の7月の予備協議に2回参加させていただきましたが、両国の菜種関係者がカナダ産菜種の品質や輸送に関する課題等について忌憚のない意見を述べ合ったり、現地調査として広大な菜種の畑や先進農機の実証を行うほ場への視察も行ったりと、非常に内容の濃い会議で大いに勉強をさせていただきました。

【今月のコラム】

3. 最後に

駄文で失礼いたしましたが、これまで3回に渡り、カナダの概要や同国における日本食の現状、そして我が国との農林水産業に係る関係について記してまいりました。読者の皆様が、カナダという国を少しでも身近に感じてもらえていただければ幸いです。

食料安全保障を考える上で、輸入は避けては通れないものですが、輸入相手国として、カナダは我が国と同じG7の同志国であり、かつ、我々と多くの点において同じ価値観を共有することができる国であることは間違いありません。

本稿をご覧の皆様の中で、カナダの重要性を理解し、我が国との関係をより強くしたいと思った方が一人でもいらっしゃることを祈念しつつ、本稿の結びとさせていただきます。ありがとうございました。

文責：二田 紘太郎（在カナダ日本国大使館 一等書記官）

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介します。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

I 穀物

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26年度

生産量 前年度比 前月比

・ブラジル等で下方修正されたものの、EU、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

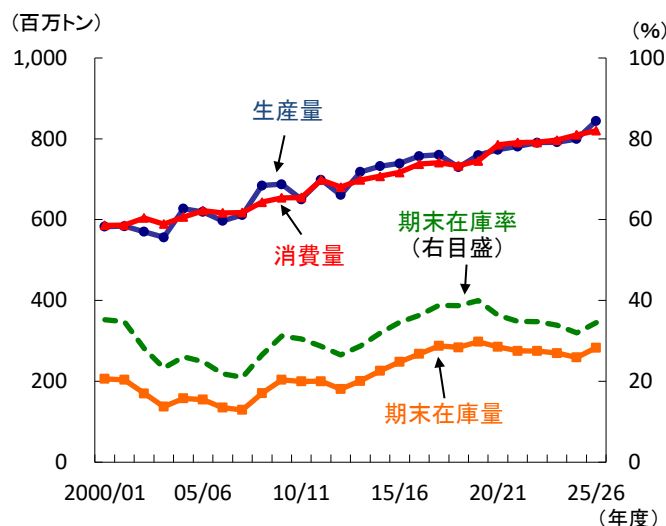
消費量 前年度比 前月比

・ベトナム等で上方修正されたものの、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・ロシア、カザフスタン等で上方修正されたものの、ウクライナ、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省にて作成

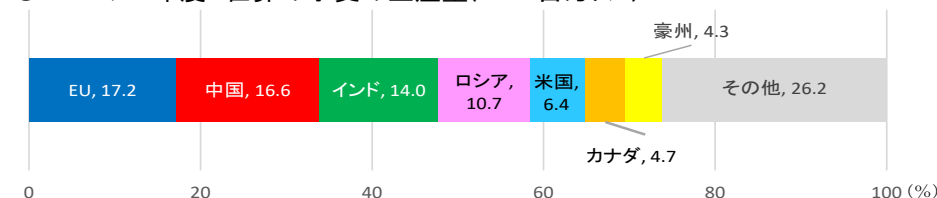
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

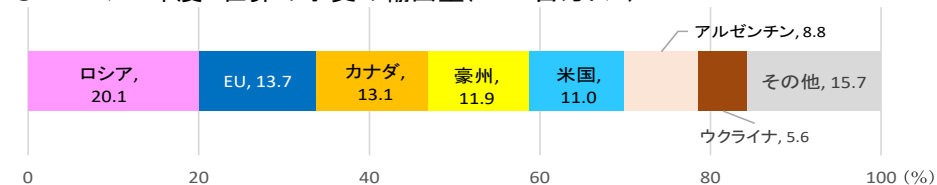
| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 791.5 | 799.3 | 844.2 | 2.0 | 5.6 |
| 消費量 | 796.6 | 809.9 | 820.1 | ▲ 4.7 | 1.3 |
| うち飼料用 | 159.1 | 156.3 | 165.2 | ▲ 0.3 | 5.6 |
| 輸出量 | 222.2 | 210.5 | 221.9 | ▲ 0.3 | 5.4 |
| 輸入量 | 223.2 | 201.1 | 217.6 | ▲ 0.4 | 8.2 |
| 期末在庫量 | 269.7 | 259.1 | 283.1 | 6.2 | 9.3 |
| 期末在庫率 | 33.9% | 32.0% | 34.5% | 0.9 | 2.5 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 April 2026)

○ 2025/26年度 世界の小麦の生産量(844.2百万トン)



○ 2025/26年度 世界の小麦の輸出量(221.9百万トン)



○ 2025/26年度 世界の小麦の輸入量(217.6百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2026/27 年度の作付意向面積は前年度から 3.4% 減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が増加することから前年度から 0.3% 増、過去5年平均(48.4 百万トン)から 11.5% 増の 54.0 百万トンとなる見込み。

同「Prospective Plantings」(2026.3.31)によれば、2026/27 年度の小麦の作付意向面積は、前年度(18.3 百万ヘクタール)から 3.4% 減の 17.7 百万ヘクタールとなり、1919 年の記録開始以来最低となる見込み。種類別には、冬小麦が、前年度(13.4 百万ヘクタール)から 2.2% 減の 13.1 百万ヘクタール。デュラム小麦を除く春小麦が、前年度(4.0 百万ヘクタール)から 5.8% 減の 3.8 百万ヘクタール。デュラム小麦が、前年度(0.9 百万ヘクタール)から 10.8% 減の 0.8 百万ヘクタール(表1)。同「Wheat Outlook」(2026.4.13)によれば、2026/27 年度の作付面積は、5銘柄(Hard Red Winter、Hard Red Spring、Soft Red Winter、White、Durum)全てで減少が見込まれている。2025/26 年度は、米国及び世界で多くの小麦が供給されたことから価格が下落し、米国農家の 2026/27 年度の小麦作付け意欲を低下させた。

同「Crop Progress」(2026.4.13)によれば、4月12日現在、2026/27 年度の冬小麦の作柄評価は、「良～優良」の割合が 34% と、乾燥により前年同期 47% を下回っている。また、春小麦の作付進捗率は 6% と、前年同期 6%、過去5年平均 7% と同水準。

同「Wheat Outlook」(2026.4.13)によれば、2026/27 年度の冬小麦について、カンザス州、オクラホマ州、モンタナ州、テキサス州といった冬小麦生産州では、作柄評価が低下しており、主要な作付地域全体で、乾燥が依然として懸念材料となっている。3月31日現在、米国の冬小麦生産量の約 65% にあたる地域が干ばつにあると推定されており、前年同期 37% を大きく上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 8.9% 増、過去5年平均(22.2 百万トン)から 10.2% 増の 24.5 百万トンと、5年ぶりの高水準となる見込み。

同「Global Agricultural Trade System」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年6月～2026 年2月の輸出量は、前年同期(1,577.8 万トン)に比べ 19.8% 増の 1,889.5 万トン。輸出先国別には、メキシコ 313.5 万トン(16.6%)、フィリピン 198.3 万トン(10.5%)、日本 161.9 万トン(8.6%) の順となっている(表2)。USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、消費量の引下げ及び輸入量の引上げを受け前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度から 9.7% 増の 25.5 百万トンとなる見込み。3年連続の増加となり、6年ぶりの高水準となる見込み。

小麦—米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年6月～26年5月) | | |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 49.1 | 53.9 | 54.0 | - | 0.3 |
| 消費量 | 30.2 | 31.1 | 30.7 | ▲ 0.1 | ▲ 1.5 |
| うち飼料用 | 2.3 | 3.1 | 2.7 | - | ▲ 11.4 |
| 輸出量 | 19.2 | 22.5 | 24.5 | - | 8.9 |
| 輸入量 | 3.8 | 4.1 | 3.4 | 0.1 | ▲ 16.0 |
| 期末在庫量 | 19.0 | 23.3 | 25.5 | 0.2 | 9.7 |
| 期末在庫率 | 38.4% | 43.4% | 46.3% | 0.4 | 2.9 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 15.01 | 15.63 | 15.07 | - | ▲ 3.6 |
| 単収(t/ha) | 3.27 | 3.44 | 3.58 | - | 4.1 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(9 April 2026)

表1 米国の小麦作付意向面積の推移

単位:百万ヘクタール

| | 2024/25年度 | 2025/26年度 | 2026/27年度 | 対前年度 増減率(%) |
|---------------|-----------|-----------|-----------|----------------|
| 冬小麦 | 13.6 | 13.4 | 13.1 | -2.2 |
| 春小麦(デュラム小麦除く) | 4.3 | 4.0 | 3.8 | -5.8 |
| デュラム小麦 | 0.8 | 0.9 | 0.8 | -10.8 |
| 計 | 18.7 | 18.3 | 17.7 | -3.4 |

資料:USDA「Prospective Plantings」(2026.3.31)をもとに農林水産省で作成

表2 米国の小麦の輸出先国と輸出量

| 国名 | 2024/25年度 (2024年6月～2025年5月) | | 2024/25年度 (2024年6月～2025年2月) | | 2025/26年度 (2025年6月～2026年2月) | |
|-------|--------------------------------|------------|--------------------------------|------------|--------------------------------|------------|
| | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| メキシコ | 400.8 | 18.3 | 286.5 | 18.2 | 313.5 | 16.6 |
| フィリピン | 245.0 | 11.2 | 185.0 | 11.7 | 198.3 | 10.5 |
| 韓国 | 238.7 | 10.9 | 175.5 | 11.1 | 161.9 | 8.6 |
| 日本 | 215.1 | 9.8 | 158.9 | 10.1 | 145.7 | 7.7 |
| 台湾 | 103.5 | 4.7 | 75.2 | 4.8 | 144.7 | 7.7 |
| タイ | 93.2 | 4.2 | 67.1 | 4.3 | 99.4 | 5.3 |
| その他 | 897.2 | 40.9 | 629.5 | 39.9 | 826.1 | 43.7 |
| 計 | 2,193.5 | 100.0 | 1,577.8 | 100.0 | 1,889.5 | 100.0 |

資料:USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2025/26 年度の生産量は前年度から 11.2%増となり史上最高の見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.4.17)によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が増加することを受け前年度から 11.2%増、過去5年平均(32.4 百万トン)から 23.2%増の 40.0 百万トンとなり史上最高の生産量となる見込み。種類別には、普通小麦は、前年度(29.6 百万トン)から 11.0%増、過去5年平均(27.2 百万トン)から 20.6%増の 32.8 百万トンとなり史上最高となる見込み。デュラム小麦も、アルバータ州及びサスカチュワン州の単収増を受け前年度(6.4 百万トン)から 11.8%増、過去5年平均(5.2 百万トン)から 37.1%増の 7.1 百万トンとなり、2016/17 年度(7.8 百万トン)以降で最大の生産量となる見込み。小麦全体では、生育期の適切な降雨により生産量が増加した。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、史上最高の輸出量となった前年度から 1.4%減となるものの、史上2番目の 28.8 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は前年度から 0.4%減の 23.3 百万トン。3月までの輸出量は前年度を上回っているものの、輸出ペースは鈍化している。デュラム小麦は同 5.5%減の 5.5 百万トン。従来からの輸出先国であるモロッコ、イタリア、米国への輸出が減少しているものの、トルコ、アルジェリア、メキシコ、ベネズエラ等への輸出は増加している。USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高となった前年度から 1.2%減となるものの、過去5年平均(24.4 百万トン)から 18.9%増の 29.0 百万トンと史上2番目の輸出量となる見込み。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年2月の輸出量は、前年同期(1,601.0 万トン)に比べ0.5%増の 1,609.7 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期(1,277.5 万トン)に比べ1.3%増の 1,294.0 万トンで、輸出先国別には、中国 171.4 万トン(13.2%)、インドネシア 131.4 万トン(10.2%)、日本 128.1 万トン(9.9%)の順となっている。デュラム小麦は前年同期(323.5 万トン)に比べ 2.4%減の 315.7 万トンで、輸出先国別には、アルジェリア 71.1 万トン(22.5%)、イタリア 63.4 万トン(20.1%)、モロッコ 54.2 万トン(17.2%)の順となっている(表)。

USDA「Grain and Feed Update」(2026.2.2)によれば、2025/26 年度第1四半期(2025.8～10 月)の普通小麦の輸出量は、史上最高となった。これは、バングラデシュ、中国、スペイン及びEU向けの輸出が大きく増加したことによる。一方、同期間のデュラム小麦の輸出は、過去5年平均から2%増となったものの、前年同期からは3%減となった。これは、モロッコ向けの輸出が減少したことによる。

AAFC によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、前年度から 76.3%増の 7.3 百万トンとなる見込み。USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 40.9%増の 5.9 百万トンとなる見込み。

小麦—カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2023/24 | | 2024/25 (見込み) | | 2025/26(25年8月～26年7月) | | |
|-------|---------|---------------|------------------|---|----------------------|---------------|------------|
| | | | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量 | 33.4 | 35.9 (35.9) | 40.0 (40.0) | - | (-) | 11.2 | (11.2) |
| 消費量 | 8.9 | 8.3 (8.0) | 9.9 (8.2) | - | (-) | 18.4 | (2.5) |
| うち飼料用 | 3.8 | 3.0 (3.3) | 4.5 (3.6) | - | (-) | 49.5 | (8.5) |
| 輸出量 | 25.4 | 29.3 (29.2) | 29.0 (28.8) | - | (0.1) | ▲1.2 | (▲1.4) |
| 輸入量 | 0.6 | 0.6 (0.1) | 0.6 (0.2) | - | (-) | ▲1.6 | (83.5) |
| 期末在庫量 | 5.3 | 4.2 (4.1) | 5.9 (7.3) | - | (▲0.1) | 40.9 | (76.3) |
| 期末在庫率 | 15.4% | 11.1% (11.1%) | 15.2% (19.6%) | - | (▲0.3) | 4.1 | (8.6) |

(参考)
 収穫面積(百万ha) 10.71 10.65 (10.65) 10.62 (10.62) - (-) ▲0.3 (▲0.3)
 単収(t/ha) 3.12 3.37 (3.37) 3.76 (3.76) - (-) 11.6 (11.6)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production(9 April 2026)
 AAFC「Outlook For Principal Field Crops(17 April 2026) ※()書き。

表 カナダの小麦の輸出先国と輸出量

○普通小麦

| 2024/25年度 (2024年8月～2025年7月) | | | 2024/25年度 (2024年8月～2025年2月) | | | 2025/26年度 (2025年8月～2026年2月) | | |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国 名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国 名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国 名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| インドネシア | 243.2 | 10.3 | インドネシア | 138.3 | 10.8 | 中国 | 171.4 | 13.2 |
| 中国 | 206.1 | 8.7 | 日本 | 108.5 | 8.5 | インドネシア | 131.4 | 10.2 |
| 日本 | 191.0 | 8.1 | コロンビア | 96.3 | 7.5 | 日本 | 128.1 | 9.9 |
| ペルー | 164.2 | 6.9 | ペルー | 87.9 | 6.9 | バングラデシュ | 113.3 | 8.8 |
| コロンビア | 143.1 | 6.0 | 米国 | 71.6 | 5.6 | コロンビア | 61.8 | 4.8 |
| その他 | 1,419.1 | 60.0 | その他 | 775.0 | 60.7 | その他 | 688.0 | 53.2 |
| 計 | 2,366.5 | 100.0 | 計 | 1,277.5 | 100.0 | 計 | 1,294.0 | 100.0 |

○デュラム小麦

| 2024/25年度 (2024年8月～2025年7月) | | | 2024/25年度 (2024年8月～2025年2月) | | | 2025/26年度 (2025年8月～2026年2月) | | |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国 名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国 名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国 名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| アルジェリア | 156.8 | 27.2 | イタリア | 66.9 | 20.7 | アルジェリア | 71.1 | 22.5 |
| モロッコ | 124.2 | 21.5 | モロッコ | 63.4 | 19.6 | イタリア | 63.4 | 20.1 |
| イタリア | 83.8 | 14.5 | アルジェリア | 60.5 | 18.7 | モロッコ | 54.2 | 17.2 |
| 米国 | 51.0 | 8.8 | 米国 | 38.6 | 11.9 | 米国 | 23.1 | 7.3 |
| 日本 | 22.7 | 3.9 | スペイン | 16.9 | 5.2 | 日本 | 14.7 | 4.7 |
| その他 | 138.2 | 24.0 | その他 | 77.1 | 23.8 | その他 | 89.2 | 28.3 |
| 計 | 576.7 | 100.0 | 計 | 323.5 | 100.0 | 計 | 315.7 | 100.0 |

資料:CGC のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2025/26 年度の輸出量は前年度から 12.1%増加する見込み(USDA)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2026.3.3)によれば、2025/26 年度の生産量は、単収の引上げを受け前回予測(12 月)から 0.4 百万トン上方修正され、単収が増加することを受け前年度(34.1 百万トン)から 5.5%増、過去5年平均(33.8 百万トン)から 6.6%増の 36.0 百万トンとなり、史上3番目の生産量となる見込み。州別には、ウエスタンオーストラリア州(WA 州)は前回予測からの変更はなく前年度から 5.9%増の 13.4 百万トン。ニューサウスウェールズ州(NSW 州)は 0.1 百万トン上方修正されたものの、前年度から 13.2%減の 11.2 百万トン。サウスオーストラリア州(SA 州)は前回予測からの変更はなく前年度から 71.1%増の 4.7 百万トン。ビクトリア州(VIC 州)は 0.2 百万トン上方修正され前年度から 21.4%増の 4.3 百万トン。クイーンズランド州(QLD 州)は 0.1 百万トン上方修正され前年度から 3.6%増の 2.3 百万トン。特に WA 州では、平年を上回る降雨と穏やかな春の気候により生産量が増加し、史上2番目の生産量となる見込み。USDA によれば、2025/26 年度の前月予測からの変更はなく、前年度から 5.5%増、過去5年平均(33.8 百万トン)から 6.7%増の 36.0 百万トンとなり、史上3番目の生産量となる見込み(図)。西豪州穀物産業協会(GIWA)「Crop Report」(2026.4.17)によれば、WA 州では 2026/27 年度シーズン序盤に十分な降雨に恵まれた。一方で、中東情勢の混乱による燃料やコストの上昇により、2026/27 年度は前年度と比べ全ての穀物の作付面積が減少すると見込まれており、小麦については、大麦や菜種等に作付けがシフトすることから 368 万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2025/26 年度の前月予測からの 0.5 百万トン上方修正され、供給量が増加することを受け前年度から 11.4%増、過去5年平均(25.2 百万トン)から 3.8%増の 26.2 百万トンとなり、史上3番目の輸出量となる見込み。USDA によれば、2025/26 年度の前月予測からの 0.5 百万トン下方修正されたものの、生産量の増加を受け前年度から 12.1%増、過去5年平均(25.3 百万トン)から 4.7%増の 26.5 百万トンとなり史上3番目の輸出量となる見込み(図)。

ABARES「Trade dashboard」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年2月の輸出量は、前年同期(785.8 万トン)に比べ 25.9%増の 989.5 万トン。輸出先国別には、インドネシア 202.9 万トン(20.5%)、フィリピン 181.9 万トン(18.4%)、イエメン 77.7 万トン(7.9%)の順となっている(表)。

ABARES によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げ等を受け前回予測からわずかに下方修正されたものの、前年度から 13.0%増の 5.1 百万トンとなる見込み。USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度から 15.8%増の 4.6 百万トンの見込み。

小麦一豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) | | |
|-------|---------|------------------|------------------------|-------------------|-------------|
| | | | 予測値 | 前月(前回)予測 からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量 | 26.0 | 34.1 (34.1) | 36.0 (36.0) | - (0.4) | 5.5 (5.5) |
| 消費量 | 8.3 | 9.1 (9.0) | 9.1 (9.2) | - (▲0.1) | - (2.3) |
| うち飼料用 | 4.8 | 5.6 … | 5.5 … | … | ▲1.8 … |
| 輸出量 | 19.8 | 23.7 (23.5) | 26.5 (26.2) | ▲0.5 (0.5) | 12.1 (11.4) |
| 輸入量 | 0.2 | 0.2 … | 0.2 … | - … | 4.5 … |
| 期末在庫量 | 2.4 | 4.0 (4.5) | 4.6 (5.1) | 0.5 (▲0.04) | 15.8 (13.0) |
| 期末在庫率 | 8.6% | 12.2% (13.9%) | 13.0% (14.4%) | 1.6 (▲0.3) | 0.8 (0.5) |

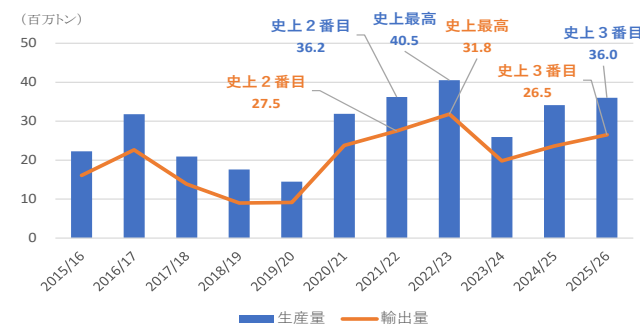
(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|---------------|---------------|-----------|-------------|
| 収穫面積(百万ha) | 12.37 | 13.06 (13.06) | 12.40 (12.41) | - (▲0.30) | ▲5.1 (▲5.0) |
| 単収(t/ha) | 2.10 | 2.61 (2.61) | 2.90 (2.90) | - (0.10) | 11.1 (11.0) |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(9 April 2026)

ABARES「Australian Crop Report」(3 March 2026) ※()書き

図 豪州の小麦の生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

表 豪州の小麦の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度 (2024年10月～2025年9月) | | | 2024/25年度 (2024年10月～2025年2月) | | | 2025/26年度 (2025年10月～2026年2月) | | |
|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| インドネシア | 449.6 | 19.0 | フィリピン | 138.8 | 17.7 | インドネシア | 202.9 | 20.5 |
| フィリピン | 352.7 | 14.9 | インドネシア | 136.3 | 17.3 | フィリピン | 181.9 | 18.4 |
| タイ | 170.9 | 7.2 | タイ | 67.6 | 8.6 | イエメン | 77.7 | 7.9 |
| ベトナム | 157.4 | 6.7 | ベトナム | 60.5 | 7.7 | 中国 | 66.6 | 6.7 |
| 韓国 | 146.5 | 6.2 | イエメン | 52.5 | 6.7 | ベトナム | 56.3 | 5.7 |
| イエメン | 137.6 | 5.8 | 韓国 | 49.0 | 6.2 | 韓国 | 47.8 | 4.8 |
| その他 | 946.6 | 40.1 | その他 | 281.1 | 35.8 | その他 | 356.3 | 36.0 |
| 計 | 2,361.3 | 100.0 | 計 | 785.8 | 100.0 | 計 | 989.5 | 100.0 |

資料: ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 20.0%増加する見込み(EC)

【生育・生産状況】欧州委員会(EC)「EU Cereals Balance Sheets」(2026.3.26)によれば、2025/26 年度の実績は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、主産国で生育期間を通じた降雨過多等により減産となった前年度から 20.0%増、過去5年平均(129.4 百万トン)から 10.0%増の 142.3 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦がクロアチアの生産量引下げ等により前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、フランス、ドイツ、ルーマニア等で生産量が回復することを受け前年度から 21.0%増、過去5年平均(121.8 百万トン)から 10.2%増の 134.2 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は、前月予測から僅かに上方修正され、前年度から 5.4%増、過去5年平均(7.6 百万トン)から 6.3%増の 8.1 百万トンとなる見込み。

USDA「World Agricultural Production」(2025.12.9)によれば、2025/26 年度の実績は、春先の降雨と穏やかな気温により生育に好ましい気象条件であった。その後も広範囲で良好な天候が続き、夏季には EU 全体が乾燥状態であったものの、影響は軽微であり、主産国の生産量は前年度から増加した。

【貿易情報・その他】EC によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からわずかに下方修正されたものの、飼料用消費量が増加することを受け前年度から 1.1%増の 112.5 百万トンとなる見込み。USDA「Grain and Feed Quarterly」(2025.12.4)によれば、当該増加は、乾燥の影響により EU の 2025/26 年度とうもろこしの生産量が減少し、小麦の飼料用消費が増加することによる。

EC によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、関税割当制度の再開等によりウクライナからの輸入が減少すると見込まれること等を受け前年度から 44.6%減の 5.6 百万トンとなる見込み。

同「Cereals exports and imports」(2026.3.20)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年1月の輸入量は、前年同期(650.5 万トン)に比べ 40.8%減の 385.2 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期に比べ 48.6%減の 281.2 万トンとなる一方、デュラム小麦は同 0.7%増の 103.9 万トン(表)。ロシアのウクライナ侵攻以降、ウクライナからの輸入割合が大きく増加していたが、関税割当制度の再開等により同国からの輸入割合は大きく減少した(図)。

2025/26 年度の実績は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正されたものの、生産量が回復することを受け前年度から 10.1%増の 28.9 百万トンとなる見込み。同「Cereals exports and imports」(2026.3.20)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年1月の輸出量は、前年同期(1,572.1 万トン)に比べ 15.1%増の 1,809.7 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期に比べ 15.2%増の 1,745.6 万トン、デュラム小麦が同 12.8%増の 64.1 万トン(表)。

2025/26 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げ等を受け前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度から 73.6%増の 15.3 百万トンとなる見込み。

小麦—EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年度 | 2023/24 | | 2024/25 (見込み) | | 2025/26 (25年7月～26年6月) | | | | |
|-------|---------|-------|---------------|-------|-----------------------|-----------|------------|-------|---------|
| | 生産量 | 消費量 | 生産量 | 消費量 | 予測値 | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) | | |
| 生産量 | 135.4 | 121.1 | 118.6 | 145.1 | 142.3 | 1.1 | (▲0.1) | 19.9 | (20.0) |
| 消費量 | 110.5 | 108.5 | (111.2) | 115.5 | (112.5) | - | (▲0.001) | 6.5 | (1.1) |
| うち飼料用 | 46.5 | 44.5 | (46.2) | 51.0 | (47.1) | - | (-) | 14.6 | (2.0) |
| 輸出量 | 38.0 | 27.9 | (26.3) | 30.5 | (28.9) | - | (▲0.5) | 9.2 | (10.1) |
| 輸入量 | 12.7 | 10.6 | (10.1) | 6.0 | (5.6) | - | (▲0.2) | ▲43.6 | (▲44.6) |
| 期末在庫量 | 15.8 | 11.1 | (8.8) | 16.2 | (15.3) | 0.5 | (0.2) | 46.0 | (73.6) |
| 期末在庫率 | 10.6% | 8.1% | (6.4%) | 11.1% | (10.8%) | 0.3 | (0.2) | 3.0 | (4.4) |

収穫面積(百万ha) 24.32 22.71 (22.52) 23.96 (23.72) ▲0.01 (▲0.01) 5.5 (5.3)
 単収(t/ha) 5.57 5.33 (5.27) 6.06 (6.00) 0.05 (▲0.004) 13.7 (13.9)

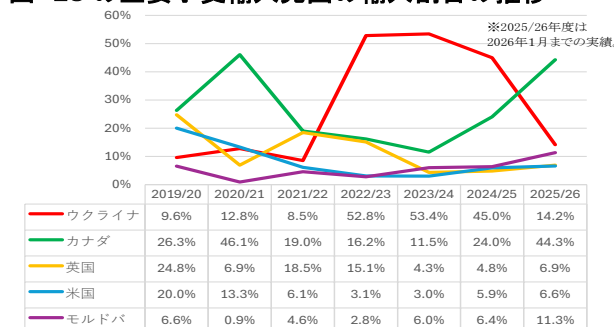
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(9 April 2026)
 EC「EU Cereals Balance Sheets」(26 March 2026) ※()書き

表 EU の小麦の輸出量及び輸入量

| | 2024/25年度 (2024年7月～2025年6月) | | 2025/26年度 (2025年7月～2026年1月) | | 2024/25年度 (2024年7月～2025年6月) | | 2025/26年度 (2025年7月～2026年1月) | | | | | |
|--------|-----------------------------|-----------|-----------------------------|---------|-----------------------------|---------|-----------------------------|-----------|---------|--------|-------|-------|
| | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | | | |
| 普通小麦 | モロッコ | 342.2 | 13.5 | モロッコ | 259.7 | 14.9 | ウクライナ | 450.4 | 56.0 | カナダ | 107.9 | 38.4 |
| | アルジェリア | 324.4 | 12.8 | アルジェリア | 191.7 | 11.0 | カナダ | 134.4 | 16.7 | ウクライナ | 52.5 | 18.7 |
| | ナイジェリア | 281.5 | 11.1 | エジプト | 125.6 | 7.2 | モルドバ | 63.1 | 7.8 | モルドバ | 42.6 | 15.1 |
| | その他 | 1,593.8 | 62.7 | その他 | 1,168.6 | 66.9 | その他 | 155.7 | 19.4 | その他 | 78.3 | 27.8 |
| | 小計 | 2,541.8 | 100.0 | 小計 | 1,745.6 | 100.0 | 小計 | 803.6 | 100.0 | 小計 | 281.2 | 100.0 |
| デュラム小麦 | チュニジア | 21.4 | 25.5 | サウジアラビア | 18.7 | 29.2 | カナダ | 108.2 | 52.4 | カナダ | 62.6 | 60.2 |
| | アルジェリア | 11.3 | 13.5 | チュニジア | 7.6 | 11.9 | トルコ | 34.3 | 16.6 | カザフスタン | 16.9 | 16.3 |
| | ロシア | 10.0 | 11.9 | 英国 | 4.8 | 7.5 | カザフスタン | 29.6 | 14.3 | 米国 | 13.4 | 12.9 |
| | その他 | 41.2 | 49.1 | その他 | 32.9 | 51.4 | その他 | 34.4 | 16.7 | その他 | 11.0 | 10.6 |
| | 小計 | 84.0 | 100.0 | 小計 | 64.1 | 100.0 | 小計 | 206.5 | 100.0 | 小計 | 103.9 | 100.0 |
| 小麦計 | 2,625.8 | | 小麦計 | 1,809.7 | | 小麦計 | 1,010.1 | | 小麦計 | 385.2 | | |

資料:EC「Cereals exports and imports」(2026.3.20)をもとに農林水産省で作成

図 EU の主要小麦輸入先国の輸入割合の推移



資料:EC「Cereals exports and imports」(2026.3.20)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2025/26 年度の生産量は前年度から 10.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量(クリミア地域分を含まず)は、単収の引上げを受け前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、霜害と高温乾燥により生産量が減少した前年度から単収が増加することを前年度から 10.7%増、過去5年平均(85.1 百万トン)から 6.1%増の 90.3 百万トンとなり史上3番目となる見込み。種類別には、冬小麦は、前月予測からの変更はなく、前年度(55.8 百万トン)から 12.9%増の 63.0 百万トン。春小麦は、単収の引上げを受け前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、前年度(25.8 百万トン)から 5.8%増の 27.3 百万トンとなる見込み。同「World Agricultural Production」(2026.1.12)によれば、2025/26 年度の実生産量について、作付面積は前年度から減少したものの、南部と極東を除く全ての地域で前年度を上回る単収となり、主に春小麦の実生産量増加が作付面積の減少を補い、小麦の実生産量は史上3番目の水準となった。

ロシア連邦統計庁の2月 27 日付発表によれば、2025/26 年度の実生産量は、前年度(82.60 百万トン)から 10.3%増の 91.07 百万トン。種類別には、冬小麦が、前年度(56.72 百万トン)から 8.9%増の 61.74 百万トン。春小麦が前年度(25.88 百万トン)から 13.3%増の 29.33 百万トン。現地情報会社によれば、4月1日現在、2026/27 年度の冬小麦を含む秋播き作物の作柄は、良好が 53%(前年同期 28%)、平年並みが 44%(同 53%)、不良が3%(同 19%)と、前年度を大きく上回り良好な状況となっている(写真)。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実輸出量は、3月の輸出増を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度から 3.5%増、過去5年平均(44.1 百万トン)から 0.9%増の 44.5 百万トンとなり、史上3番目の輸出量となる見込み。ロシア連邦政府は、2025 年 12 月 24 日、2025/26 年度後半(2026 年2月 15 日～6月 30 日)に穀物(小麦・メスリン、大麦及びとうもろこし)に設定される輸出枠を 2,000 万トン(前年度は小麦・メスリンのみ 1,060 万トン)とすることを発表した。その後、2026 年4月 10 日、ロシア政府は、ロシア連邦統計庁が 2025 年の穀物収穫量を 1億 4,120 万トンに上方修正したことを受け、国内市場への供給も十分に確保できていることから、2026 年の穀物輸出割当に 500 万トンの追加を決定した。2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年3月の輸出量は、前年同期(3,732.5 万トン)に比べ 3.3%減の 3,607.9 万トン。輸出先国別には、エジプト 737.0 万トン(20.4%)、トルコ 538.2 万トン(14.9%)、イラン 174.5 万トン(4.8%)の順(表)。3月の輸出量は前年度に比べ 102%増となっており、主要輸入国が中東情勢の緊迫化を受け、輸入を急いだことが要因とみられる。

USDA によれば、2025/26 年度の実在庫量は、輸出量の引上げ等を受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、前年度から 41.5%増の 15.0 百万トンとなる見込み。

小麦一ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26(25年7月～26年6月) | | |
|-------|---------|------------------|----------------------|-----------|------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量 | 91.5 | 81.6 | 90.3 (90.3) | 0.8 | 10.7 |
| 消費量 | 39.0 | 40.0 | 41.7 (41.9) | - | 4.3 |
| うち飼料用 | 16.0 | 17.0 | 18.5 (18.0) | - | 8.8 |
| 輸出量 | 55.5 | 43.0 | 44.5 (44.4) | 1.0 | 3.5 |
| 輸入量 | 0.3 | 0.3 | 0.3 (0.9) | - | - |
| 期末在庫量 | 11.7 | 10.6 | 15.0 (15.0) | ▲ 0.2 | 41.5 |
| 期末在庫率 | 12.4% | 12.8% | 17.4% (17.4%) | ▲ 0.4 | 4.6 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|-------|---------------|------|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 28.83 | 27.80 | 26.30 (26.05) | - | ▲ 5.4 |
| 単収(t/ha) | 3.17 | 2.94 | 3.43 (3.47) | 0.03 | 16.7 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production「9 April 2026」
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026)

写真 分けつ期を迎えた 2026/27 年度冬小麦(2026.3.27 撮影)



南連邦管区ロ
ストフ州の冬小
麦。分けつ期
を迎えており、
生育は順調で
ある。

表 ロシアの小麦の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度 (2023年7月～2024年6月) | | | 2024/25年度 (2024年7月～2025年3月) | | | 2025/26年度 (2025年7月～2026年3月) | | |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| エジプト | 821.2 | 20.2 | エジプト | 790.5 | 21.2 | エジプト | 737.0 | 20.4 |
| トルコ | 310.4 | 7.6 | Bangladesh | 257.1 | 6.9 | トルコ | 538.2 | 14.9 |
| Bangladesh | 277.3 | 6.8 | トルコ | 237.4 | 6.4 | イラン | 174.5 | 4.8 |
| アルジェリア | 173.4 | 4.3 | アルジェリア | 175.3 | 4.7 | スーダン | 171.4 | 4.8 |
| イスラエル | 163.9 | 4.0 | サウジアラビア | 158.7 | 4.3 | イスラエル | 170.8 | 4.7 |
| その他 | 2,327.2 | 57.1 | その他 | 2,113.5 | 56.6 | その他 | 1,816.0 | 50.3 |
| 合計 | 4,073.4 | 100.0 | 合計 | 3,732.5 | 100.0 | 合計 | 3,607.9 | 100.0 |

資料:現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

<ウクライナ> 2025/26年度の輸出量は前年度から20.6%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が増加することから前年度から2.6%増、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、27.9百万トン)から14.1%減の24.0百万トンとなる見込み(図)。ウクライナ国家統計局の2月25日付発表によれば、2025/26年度の小麦の生産量は、前年度から3.3%増の23.27百万トン。

現地情報会社によれば、3月末現在、2026/27年度の冬小麦の作柄は、概ね良好となっている。

ウクライナ経済・環境・農業省によれば、4月13日現在、2026/27年度の春小麦の作付面積は12.9万ヘクタールで作付進捗率は69%となっている。

現地報道によれば、肥料高騰による施肥の節約により、穀物生産量が大きく減少するおそれがあるとしている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸出量は、ロシアの攻撃による物流上の問題を受け前月予測から1.0百万トン下方修正され、前年度から20.6%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均(18.1百万トン)から30.9%減の12.5百万トンとなる見込み(図)。

EUは、ウクライナ産品の輸入に関し、2022年6月から輸入関税及び関税割当を停止してきた。当該措置は2025年6月5日に失効し、「深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)」に基づき、関税割当制度等の適用を再開した。その後、6月30日に新たな貿易措置についてウクライナと合意し、EUとウクライナの連合委員会は10月14日に合意を承認し、10月29日に発効となった。これにより、小麦及びメスリン等に対する年間輸入割当数量は130万トン、小麦粉等は同3万トンに見直された。報道によれば、ポーランド、ハンガリー及びスロバキアは、ウクライナ産農産物に対して、2023年から独自に輸入禁止措置を行っており、10月29日の新たなDCFTA発効後も同措置を維持する意向。

現地情報会社によれば、2025/26年度のうち2025年7月～2026年3月の輸出量は、前年同期(1,306.6万トン)に比べ24.2%減の990.3万トンとなっている。輸出先国別には、エジプト263.3万トン(26.6%)、アルジェリア180.2万トン(18.2%)、インドネシア143.9万トン(14.5%)の順(表)。前年度からの減少は、輸出先第1位であったスペインへの輸出が大きく減少したことや、主要輸出先である北アフリカや中東におけるロシア産小麦等との競合が要因。輸出の減少に伴い、期末在庫量が大きく増加すると見込まれており、中東情勢の緊迫化によるコスト増加も相まってウクライナの穀物生産が抑制されるおそれがある。

USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は、輸出量の引下げ等を受け前月予測から0.8百万トン上方修正され、前年度から322.6%増の3.9百万トンとなる見込み。

小麦－ウクライナ(主に冬小麦を栽培)

(単位:百万トン)

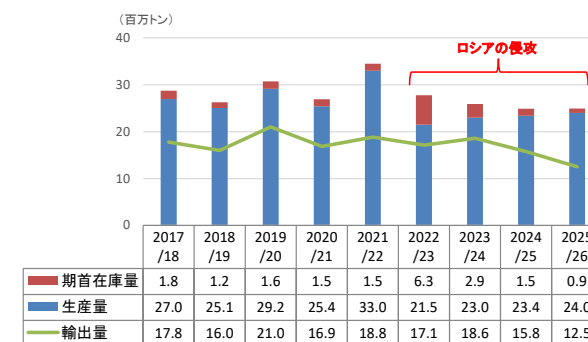
| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26(25年7月～26年6月) | | |
|-------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 23.0 | 23.4 | 24.0 (26.0) | - | 2.6 |
| 消費量 | 5.9 | 8.3 | 8.6 (10.3) | 0.2 | 3.6 |
| うち飼料用 | 1.6 | 3.6 | 3.6 (3.0) | 0.1 | - |
| 輸出量 | 18.6 | 15.8 | 12.5 (13.5) | ▲ 1.0 | ▲ 20.6 |
| 輸入量 | 0.1 | 0.1 | 0.1 (0.1) | - | 42.9 |
| 期末在庫量 | 1.5 | 0.9 | 3.9 (3.1) | 0.8 | 322.6 |
| 期末在庫率 | 6.2% | 3.9% | 18.6% (12.8%) | 4.3 | 14.8 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|------|------|-------------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 5.01 | 5.20 | 5.50 (6.35) | - | 5.8 |
| 単収(t/ha) | 4.59 | 4.50 | 4.36 (4.09) | - | ▲ 3.1 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナの小麦の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度 (2024年7月～2025年6月) | | | 2024/25年度 (2024年7月～2025年3月) | | | 2025/26年度 (2025年7月～2026年3月) | | |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| スペイン | 326.1 | 20.9 | スペイン | 315.2 | 24.1 | エジプト | 263.3 | 26.6 |
| エジプト | 211.1 | 13.5 | インドネシア | 155.7 | 11.9 | アルジェリア | 180.2 | 18.2 |
| アルジェリア | 195.1 | 12.5 | エジプト | 154.2 | 11.8 | インドネシア | 143.9 | 14.5 |
| インドネシア | 158.8 | 10.2 | アルジェリア | 139.2 | 10.7 | イエメン | 82.0 | 8.3 |
| ベトナム | 104.7 | 6.7 | ベトナム | 88.6 | 6.8 | ベトナム | 53.1 | 5.4 |
| その他 | 566.5 | 36.3 | その他 | 453.7 | 34.7 | その他 | 267.7 | 27.0 |
| 合計 | 1,562.2 | 100.0 | 合計 | 1,306.6 | 100.0 | 合計 | 990.3 | 100.0 |

資料:APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2025/26年度の生産量は前年度と同水準の見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同水準、過去5年平均(137.1百万トン)から2.2%増の140.1百万トンとなり、史上最高の前年度に次ぐ生産量となる見込み(図)。

中国国家统计局「2025年糧食生産量データ」(2025.12.12)によれば、2025年の小麦の作付面積は、前年(23.59百万ヘクタール)からわずかに減少し23.58百万ヘクタール。単収は、前年と比べ同水準の5.94トン/ヘクタール。生産量も、前年と同水準の140.1百万トン。

国家糧油信息中心(2026.4.5)によれば、2026/27年度の冬小麦について、3月、北方の栽培地域では、気温が平年より高く、土壌水分も概ね十分であったことから、越冬後の生育に有利な条件であった。月内に複数回の降雨・降雪が発生し、土壌水分は、同時期としては過去5年間で最も良好であった。ただし、河南省西部及び南部の一部地域では、土壌水分が過剰な状況がみられた。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から1.3%減、過去5年平均(150.9百万トン)から1.9%減の148.0百万トンとなる見込み。

2025/26年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、在庫量の減少等を受け前年度から43.9%増となるものの、過去5年平均(10.3百万トン)から41.5%減の6.0百万トンとなる見込み(図)。

同「Grain and Feed Update」(2026.1.23)によれば、2025年12月、アルゼンチンは製粉用として約16万トンの小麦を中国に輸出した。これは約30年ぶりの輸出で、2024年1月に中国がアルゼンチン産小麦の輸入を再認可したことを受けたもの。同「Grain and Feed Update」(2026.1.27)によれば、2025年12月にはロシア産小麦ふすまの市場開放も発表された。また、2025年末までに中国は米国産小麦約20万トンの購入を予約している。トレーダーらは、2025/26年度の中国のとうもろこしの生産量が過去最高を記録したものの、中国のとうもろこし及び春小麦の品質が大幅に低下しているため、更なる輸入が必要になるとみている。

中国海関統計によれば、2025/26年度のうち2025年7月～2026年2月の輸入量は、前年同期(201.1万トン)に比べ64.8%増の331.3万トンとなっている。輸入先国別には、カナダ218.2万トン(65.9%)、豪州87.3万トン(26.3%)、ロシア10.6万トン(3.2%)の順となっている(表)。

USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から2.3%減の124.8百万トンとなる見込み(図)。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

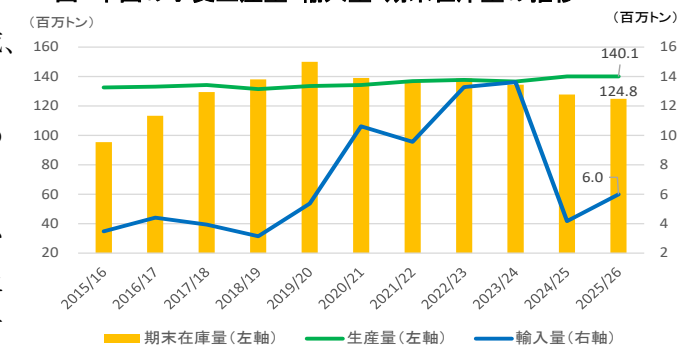
| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26(25年7月～26年6月) | | |
|-------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 136.6 | 140.1 | 140.1 (140.1) | - | ▲ 0.02 |
| 消費量 | 153.5 | 150.0 | 148.0 (146.8) | - | ▲ 1.3 |
| うち飼料用 | 37.0 | 33.0 | 31.0 (28.0) | - | ▲ 6.1 |
| 輸 出 量 | 1.0 | 1.0 | 1.0 (1.2) | - | ▲ 2.0 |
| 輸 入 量 | 13.6 | 4.2 | 6.0 (6.2) | - | 43.9 |
| 期末在庫量 | 134.5 | 127.8 | 124.8 (135.5) | - | ▲ 2.3 |
| 期末在庫率 | 87.1% | 84.6% | 83.8% (91.6%) | - | ▲ 0.8 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|-------|---------------|---|--------|
| 収穫面積(百万ha) | 23.63 | 23.59 | 23.58 (23.64) | - | ▲ 0.04 |
| 単収(t/ha) | 5.78 | 5.94 | 5.94 (5.93) | - | - |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026)

図 中国の小麦生産量・輸入量・期末在庫量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦の輸入先国と輸入量

| 国名 | 2024/25年度 (2024年7月～2025年6月) | | 2024/25年度 (2024年7月～2025年2月) | | 2025/26年度 (2025年7月～2026年2月) | | | |
|--------|--------------------------------|------------|--------------------------------|--------------|--------------------------------|--------|--------------|------------|
| | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) |
| カナダ | 185.9 | 48.2 | カナダ | 71.2 | 35.4 | カナダ | 218.2 | 65.9 |
| 豪州 | 86.9 | 22.5 | 米国 | 46.2 | 23.0 | 豪州 | 87.3 | 26.3 |
| 米国 | 46.2 | 12.0 | カザフスタン | 28.8 | 14.3 | ロシア | 10.6 | 3.2 |
| カザフスタン | 30.8 | 8.0 | ロシア | 26.8 | 13.3 | 米国 | 6.9 | 2.1 |
| ロシア | 29.7 | 7.7 | 豪州 | 23.8 | 11.8 | カザフスタン | 4.5 | 1.4 |
| 日本 | 4.9 | 1.3 | 日本 | 3.2 | 1.6 | 日本 | 2.9 | 0.9 |
| その他 | 1.5 | 0.4 | その他 | 1.0 | 0.5 | その他 | 1.0 | 0.3 |
| 合計 | 385.9 | 100.0 | 合計 | 201.1 | 100.0 | 合計 | 331.3 | 100.0 |

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウルグアイ等で下方修正されたものの、インド、南アフリカ、インドネシア、ロシア等で上方修正され前月から上方修正された。史上最高の見込み。

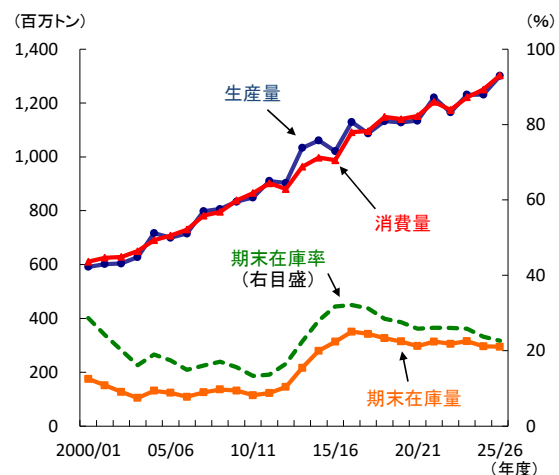
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・イラン等で下方修正されたものの、インド、トルコ、パキスタン、南アフリカ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パキスタン等で下方修正されたものの、インド、ロシア、南アフリカ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

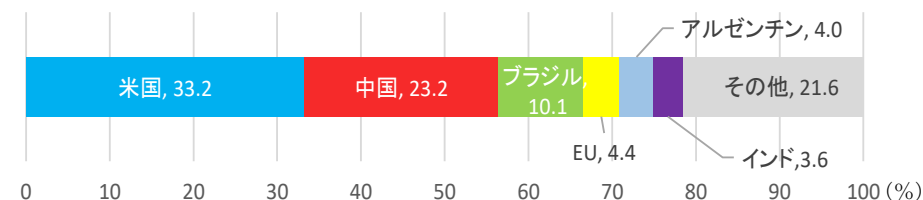
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

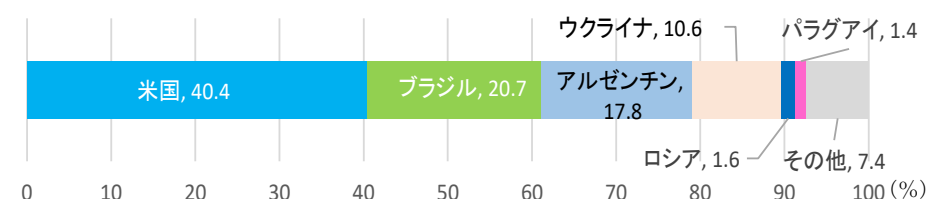
| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 1,231.1 | 1,231.4 | 1,301.1 | 3.6 | 5.7 |
| 消費量 | 1,221.2 | 1,250.4 | 1,302.6 | 2.0 | 4.2 |
| うち飼料用 | 769.9 | 785.3 | 815.8 | 1.3 | 3.9 |
| 輸出量 | 192.7 | 187.2 | 207.3 | 0.4 | 10.8 |
| 輸入量 | 197.6 | 186.2 | 193.1 | 0.4 | 3.7 |
| 期末在庫量 | 315.3 | 296.3 | 294.8 | 2.1 | ▲ 0.5 |
| 期末在庫率 | 25.8% | 23.7% | 22.6% | 0.1 | ▲ 1.1 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 April 2026)

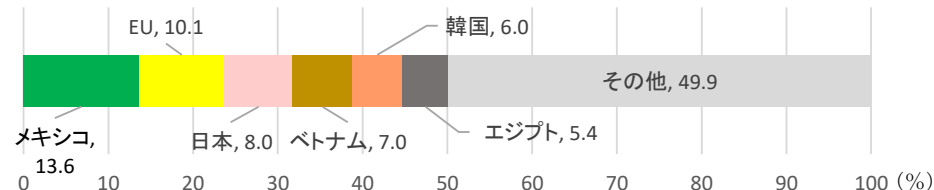
○ 2025/26年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,301.1百万トン)



○ 2025/26年度 世界のとうもろこしの輸出量 (207.3百万トン)



○ 2025/26年度 世界のとうもろこしの輸入量 (193.1百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 14.3%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度から 14.3% 増、過去5年平均(370.8 百万トン)から 16.6%増の 432.3 百万トンと史上最高の見込み。とうもろこしに有利な価格相場により、多くの農家が大豆から作付けを切り替えたとみられる。

同「Prospective Plantings」(2026.3.31)によれば、2026/27 年度のとうもろこしの作付意向面積は、前年度(39.98 百万ヘクタール)から 3.5%減の 38.58 百万ヘクタールとなり、とうもろこしから大豆に作付けがシフトする見込み。

同「Crop Progress」(2026.4.13)によれば、4月 12 日現在、2026/27 年度のとうもろこしの作付進捗率は5%と、前年同期(4%)を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用及びエタノール用需要の増加等を受け、前年度から 7.4%増の 334.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 15.5%増の 83.8 百万トンと史上最高の見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年9月～2026 年3月の輸出量は、前年同期(3,495.2 万トン)に比べ 37.0%増の 4,790.0 万トン。輸出先国別には、メキシコ 1,421.0 万トン(29.7%)、日本 879.2 万トン(18.4%)、韓国 494.4 万トン(10.3%)の順となっている(表)。

同「Grain: World Markets and Trade」(2026.4.9)によれば、4月7日現在の輸出価格は、アルゼンチンは堅調な輸出需要により前月から1ドル/トン上昇し 209 ドル/トン、ブラジルは季節的な輸出量の減少により他の輸出国の影響を受け4ドル/トン下落し 225 ドル/トン、米国は3月1日時点の四半期在庫が過去最高となったことにより前月から4ドル/トン下落し 217 ドル/トンとなった(図)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等を受け前年度から 37.1%増、過去5年平均(37.0 百万トン)から 45.9%増の 54.0 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 2.7 ポイント増の 12.9%となる見込み。

とうもろこしー米国

(概ね4～5月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年9月～26年8月) | | |
|---------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 389.7 | 378.3 | 432.3 | - | 14.3 |
| 消費量 | 322.9 | 311.6 | 334.5 | - | 7.4 |
| うち飼料用 | 148.1 | 138.6 | 157.5 | - | 13.7 |
| エタノール用等 | 139.4 | 138.1 | 142.2 | - | 3.0 |
| 輸 出 量 | 57.3 | 72.6 | 83.8 | - | 15.5 |
| 輸 入 量 | 0.7 | 0.6 | 0.6 | - | 16.4 |
| 期末在庫量 | 44.8 | 39.4 | 54.0 | - | 37.1 |
| 期末在庫率 | 11.8% | 10.3% | 12.9% | - | 2.7 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 35.01 | 33.61 | 36.93 | - | 9.9 |
| 単収(t/ha) | 11.13 | 11.26 | 11.71 | - | 4.0 |

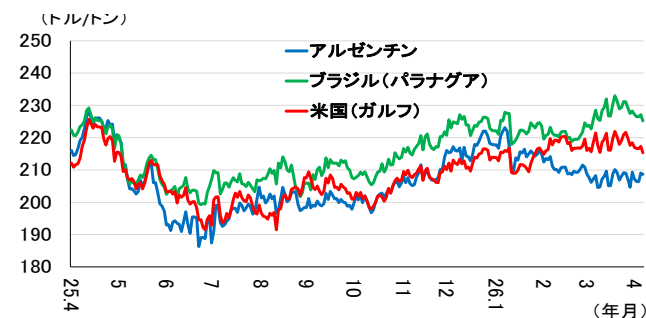
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2026)

表 米国のとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 国名 | 2024/25年度 (2024年9月～2025年8月) | | 2024/25年度 (2024年9月～2025年3月) | | 2025/26年度 (2025年9月～2026年3月) | |
|-------|--------------------------------|------------|--------------------------------|------------|--------------------------------|------------|
| | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| メキシコ | 2,212.2 | 32.6 | 1,184.2 | 33.9 | 1,421.0 | 29.7 |
| 日本 | 1,344.0 | 19.8 | 652.1 | 18.7 | 879.2 | 18.4 |
| コロンビア | 743.7 | 11.0 | 434.9 | 12.4 | 494.4 | 10.3 |
| 韓国 | 617.4 | 9.1 | 278.9 | 8.0 | 476.3 | 9.9 |
| 台湾 | 241.6 | 3.6 | 191.5 | 5.5 | 276.4 | 5.8 |
| その他 | 1,617.3 | 23.9 | 753.6 | 21.6 | 1,242.7 | 25.9 |
| 合計 | 6,776.2 | 100.0 | 3,495.2 | 100.0 | 4,790.0 | 100.0 |

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

図 各国のとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



< ブラジル > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 2.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、史上2番目の前年度からは 2.9%減となるものの、過去5年平均(119.0 百万トン)からは 10.9%増の 132.0 百万トンと史上3番目となる見込み。同「World Agricultural Production」(2026.4.9)によれば、第2期作とうもろこしの作付けについて、ゴイアス州やマット・グロソ州・ド・スール州では大豆の収穫遅延により 70%が理想的な時期である2月下旬より後に作付けされたものの、最大生産州のマット・グロソ州では2月下旬までに 70%以上の作付けが完了した。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2026.4.14)によれば、2025/26 年度の実生産量は、単収の減少を受け前年度から 1.1%減の 139.6 百万トンの見込み。作付期別には、夏とうもろこし(第1期作)の実生産量は、作付面積及び単収の増加を受け前年度から 12.2%増の 28.0 百万トンの見込み。収穫進捗率は、4月第1週時点で 51.3%。リオ・グランデ・ド・スール州では、3月に気象条件に恵まれ収穫進捗率は 88%に達した。冬とうもろこし(第2・3期作)のうち第2期作の実生産量は、単収の減少を受け前年度から 3.6%減の 109.1 百万トンの見込み。1~2月の過剰な降雨と大豆の収穫遅延により作付けの開始が遅れたものの、ほとんどの地域では理想的な時期に作付けされ作付進捗率は4月第1週時点で 99.2%。初期成育は、気象条件に恵まれたことにより大部分の圃場で良好。第3期作の実生産量は、前年度から 17.0%減の 2.5 百万トンの見込み(図)。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール向け需要の高まりを受け前年度から 3.8%増の 96.0 百万トンと、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.2%増の 43.0 百万トンとなる見込み。また、CONAB によれば、2025/26 年度の実輸出量は、良好な生産に支えられ、前年度から 11.7%増の 46.5 百万トンとなる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025/26 年度のうち 2026 年3月の輸出量は、前年同期(87.1 万トン)に比べ 12.7%増の 98.1 万トン。輸出先国別には、エジプト 87.9 万トン(89.6%)、マレーシア 7.0 万トン(7.1%)、イラク 2.6 万トン(2.7%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の実在庫量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、消費量の増加等を受け前年度から 46.0%減、過去5年平均(7.7 百万トン)から 18.8%減の 6.2 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 4.1 ポイント減の 4.5%となる見込み。

とうもろこし—ブラジル

(夏とうもろこしは、概ね8~翌年1月に作付けされ、2~6月に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね1~3月に作付けされ、6~10月に収穫される。)

(単位:百万トン)

| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (26年3月~27年2月) | | |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 119.0 | 136.0 (141.2) | 132.0 (139.6) | - (1.3) | ▲2.9 (▲1.1) |
| 消費量 | 84.0 | 92.5 (90.6) | 96.0 (94.6) | - (0.1) | 3.8 (4.5) |
| うち飼料用 | 62.5 | 65.0 ... | 65.5 ... | - ... | 0.8 ... |
| 輸出量 | 38.3 | 42.1 (41.6) | 43.0 (46.5) | - (-) | 2.2 (11.7) |
| 輸入量 | 1.7 | 1.8 (1.8) | 1.7 (1.7) | 0.1 (-) | ▲3.4 (▲7.9) |
| 期末在庫量 | 8.3 | 11.5 (12.7) | 6.2 (12.8) | 0.3 (1.2) | ▲46.0 (1.0) |
| 期末在庫率 | 6.8% | 8.6% (9.6%) | 4.5% (9.1%) | 0.2 (0.9) | ▲4.1 (▲0.5) |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 21.65 | 22.30 (21.84) | 22.80 (22.48) | - (0.07) | 2.2 (3.0) |
| 単収(t/ha) | 5.50 | 6.10 (6.46) | 5.79 (6.21) | - (0.04) | ▲5.1 (▲4.0) |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,

「World Agricultural Production」(9 April 2026)

CONAB「Graos」(14 April 2026) ※()書き。なお、CONABの収穫面積は作付面積である。

図 ブラジルのクロープカレンダー(中西部から南部)

| 2025/26年度 | 2025年 | | | | 2026年 | | | | | | | | |
|------------------------------|--------------------|----|----|----|---------------|---|---|---|---|-------------------------|---|---|---|
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール州等) | 作付け 4.1 百万ha | | | | 収穫 28.0 百万t | | | | | → 収穫夏冬作計 139.6 百万t | | | |
| 冬とうもろこし (マット・グロソ州、パラナ州等) | 作付面積夏冬作計 22.5 百万ha | | | | 作付け 18.4 百万ha | | | | | ↑ 大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け | | | |
| 大豆 (マット・グロソ州、パラナ州等) | 作付け 48.5 百万ha | | | | 収穫 179.2 百万t | | | | | | | | |

資料:CONAB「Graos」(2026.4.14)をもとに農林水産省で作成

表 ブラジルのとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 国名 | 2024/25年度 (2025年3月~2026年2月) | | 国名 | 2024/25年度 (2025年3月) | | 国名 | 2025/26年度 (2026年3月) | |
|---------|--------------------------------|------------|---------|------------------------|------------|-------|------------------------|------------|
| | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| イラン | 871.3 | 20.9 | イラン | 30.5 | 35.0 | エジプト | 87.9 | 89.6 |
| エジプト | 724.2 | 17.4 | サウジアラビア | 27.4 | 31.5 | マレーシア | 7.0 | 7.1 |
| ベトナム | 531.4 | 12.7 | ヨルダン | 8.1 | 9.3 | イラク | 2.6 | 2.7 |
| サウジアラビア | 219.6 | 5.3 | エジプト | 6.9 | 7.9 | イラン | 0.1 | 0.1 |
| 中国 | 192.9 | 4.6 | アルジェリア | 4.4 | 5.0 | ペルー | 0.1 | 0.1 |
| その他 | 1,634.1 | 39.2 | その他 | 9.8 | 11.2 | その他 | 0.4 | 0.4 |
| 合計 | 4,173.5 | 100.0 | 合計 | 87.1 | 100.0 | 合計 | 98.1 | 100.0 |

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 4.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度から 4.0%増、過去5年平均(49.1 百万トン)から 5.9%増の 52.0 百万トンとなる見込み(図)。病虫害のヨコバイによる被害が改善したことを受け 2025/26 年度は作付面積が回復する見込み。

同「Feed Outlook」(2026.3.12)によれば、1月から2月にかけて、早植えとうもろこしが重要な生育段階を迎える中、降雨不足により土壌水分量が低下し生産量の見通しに悪影響を及ぼした。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2026.4.16)によれば、とうもろこしの収穫進捗率は 29%と前年同期(24%)を上回っており、主要生産州では、ブエノス・アイレス州 22%(前年同期 21%)、コルドバ州 31%(同 21%)、サンタフェ州 70%(同 66%)となっている。一部地域では降雨により収穫作業が遅延している。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から横ばいの 16.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 27.3%増の 37.0 百万トンとなる見込み。同「Grain: World Markets and Trade」(2026.1.12)によれば、輸出量の増加は供給量が増加し米国やブラジルに対する競争力が高まることによる。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024/25 年度の実績は、前年度(3,624.9 万トン)に比べ 19.8%減の 2,905.8 万トン。輸出先国別には、ベトナム 534.1 万トン(18.4%)、ペルー462.8 万トン(15.9%)、マレーシア 309.5 万トン(10.6%)の順となっている(表)。

アルゼンチン政府は、2025 年 12 月 12 日、とうもろこしの輸出税を 9.5%から 8.5%に引き下げた。これは、生産者の税負担を軽減し、農業分野の競争力を高めることを目的としている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、輸出量の増加を受け前年度から 25.3%減となるものの、過去5年平均(3.9 百万トン)からは 29.4%増の 5.0 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 5.3 ポイント減の 9.3%となる見込み。

とうもろこしーアルゼンチン

(早植えとうもろこしは、概ね9月後半～12月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね12月前半～翌年2月前半に作付けされる。概ね3～8月に収穫される。)

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (26年3月～27年2月) | | |
|------------|---------|------------------|-----------------------|-----------|------------|
| | | | 予測値、() は IGC | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量 | 51.6 | 50.0 | 52.0 (58.5) | - | 4.0 |
| 消費量 | 15.2 | 16.7 | 16.7 (21.0) | - | - |
| うち飼料用 | 11.0 | 12.3 | 12.3 (16.0) | - | - |
| 輸出量 | 36.3 | 29.1 | 37.0 (36.5) | - | 27.3 |
| 輸入量 | 0.01 | 0.01 | 0.01 (0.001) | - | - |
| 期末在庫量 | 2.5 | 6.7 | 5.0 (3.4) | ▲ 0.1 | ▲ 25.3 |
| 期末在庫率 | 4.8% | 14.7% | 9.3% (5.8%) | ▲ 0.1 | ▲ 5.3 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 7.73 | 6.90 | 7.50 (8.50) | - | 8.7 |
| 単収(t/ha) | 6.68 | 7.25 | 6.93 (6.88) | - | ▲ 4.4 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026)

図 アルゼンチンのとうもろこしの生産量の推移

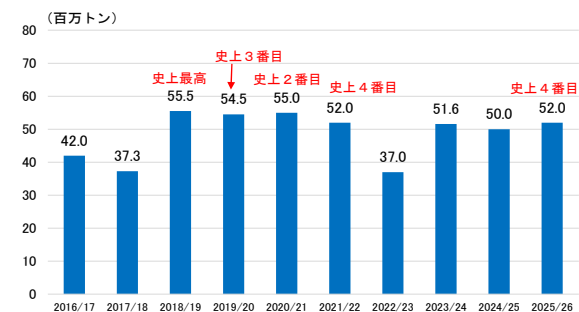


表 アルゼンチンのとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 2023/24年度 (2024年3月～2025年2月) | | | 2024/25年度 (2025年3月～2026年2月) | | |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| ベトナム | 667.8 | 18.4 | ベトナム | 534.1 | 18.4 |
| ペルー | 433.1 | 11.9 | ペルー | 462.8 | 15.9 |
| マレーシア | 333.6 | 9.2 | マレーシア | 309.5 | 10.6 |
| 韓国 | 282.2 | 7.8 | アルジェリア | 259.0 | 8.9 |
| アルジェリア | 280.1 | 7.7 | サウジアラビア | 214.9 | 7.4 |
| その他 | 1,628.2 | 44.9 | その他 | 1,125.6 | 38.7 |
| 合計 | 3,624.9 | 100.0 | 合計 | 2,905.8 | 100.0 |

資料:アルゼンチン国家統計局(INDEC)をもとに農林水産省で作成

< ウクライナ > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 14.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 14.6%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22 年度、33.6 百万トン)からは 8.8%減の 30.7 百万トンとなる見込み。

同「Feed Outlook」(2026.3.12)によれば、ウクライナ北部及び中央部の生産地域で概ね良好な生産状況となった一方、秋の豪雨の影響により一部の圃場では収穫ができず、冬の間、作物が圃場に残留した状況となった。

現地情報会社によれば、4月 13 日現在、2026/27 年度のとうもろこしの作付けがドニプロペトロウスク州で開始された。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料用消費の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度から 4.7%増の 6.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等を受け前年度から 9.9%増の 22.0 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年3月の輸出量は、前年同期(1,413.1 万トン)に比べ 5.6%減の 1,333.8 万トン。輸出先国別には、トルコ 365.5 万トン(27.4%)、イタリア 256.7 万トン(19.2%)、スペイン 136.4 万トン(10.2%)の順となっている(図、表)。

USDA「Grain and Feed Quarterly」(2026.2.4)によれば、とうもろこしの水分量が過剰で、出荷前に乾燥機に通す必要があり、輸出遅延が生じた。

同「Grain: World Markets and Trade」(2026.4.9)によれば、4月7日現在の輸出価格は、近隣諸国からの強い需要に支えられ、前月から2ドル/トン上昇し 227 ドル/トンとなった。報道情報によれば、ウクライナ産の輸出価格の上昇により、今後主要輸出先国であるトルコやエジプトからの需要は期待できないとの意見もみられる。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け前年度から 213.8%増、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2.5 百万トン)からも 17.3%増の 3.0 百万トンとなる見込み。2025/26 年度の期末在庫率は、前年度から 6.7 ポイント増の 10.3%となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

(概ね4～5月に作付けされ、8～11月に収穫される。)

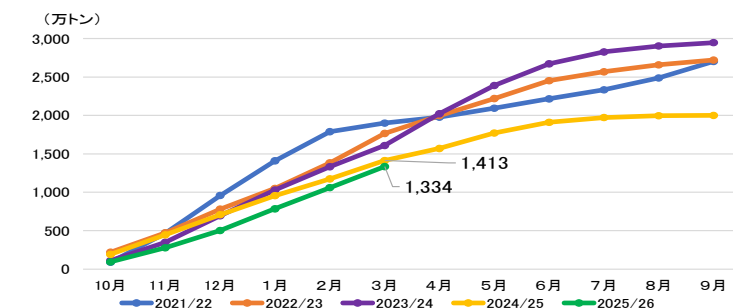
| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) | | |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 32.5 | 26.8 | 30.7 (30.5) | - | 14.6 |
| 消費量 | 5.5 | 6.4 | 6.7 (6.2) | 0.1 | 4.7 |
| うち飼料用 | 4.6 | 5.3 | 5.5 (4.7) | 0.1 | 3.8 |
| 輸出量 | 29.5 | 20.0 | 22.0 (22.5) | - | 9.9 |
| 輸入量 | 0.01 | 0.02 | 0.01 (0.002) | - | ▲ 50.0 |
| 期末在庫量 | 0.5 | 0.9 | 3.0 (2.9) | - | 213.8 |
| 期末在庫率 | 1.5% | 3.6% | 10.3% (10.1%) | ▲ 0.04 | 6.7 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|------|------|-------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 4.20 | 4.10 | 4.37 (4.20) | - | 6.6 |
| 単収(t/ha) | 7.74 | 6.54 | 7.03 (7.26) | - | 7.5 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026)

図 ウクライナのとうもろこしの輸出量の推移(累計)



資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

表 ウクライナのとうもろこしの輸出先国と輸出量

| 国名 | 2024/25年度 (2024年10月～2025年9月) | | 2024/25年度 (2024年10月～2025年3月) | | 2025/26年度 (2025年10月～2026年3月) | |
|------|---------------------------------|------------|---------------------------------|------------|---------------------------------|------------|
| | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| トルコ | 568.8 | 28.4 | 285.7 | 20.2 | 365.5 | 27.4 |
| イタリア | 273.6 | 13.7 | 223.4 | 15.8 | 256.7 | 19.2 |
| スペイン | 240.7 | 12.0 | 215.2 | 15.2 | 136.4 | 10.2 |
| オランダ | 199.1 | 10.0 | 152.7 | 10.8 | 96.2 | 7.2 |
| エジプト | 162.5 | 8.1 | 144.3 | 10.2 | 83.0 | 6.2 |
| その他 | 556.1 | 27.8 | 391.9 | 27.7 | 396.0 | 29.7 |
| 合計 | 2,000.8 | 100.0 | 1,413.1 | 100.0 | 1,333.8 | 100.0 |

資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 2.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 2.1%増、過去5年平均(278.8 百万トン)から 8.0%増の 301.2 百万トンと史上最高の見込み(図)。同「World Agricultural Production」(2026.1.12)によれば、2025/26 年度は、南東部(四川省を含む)の一部で異常な高温乾燥に見舞われたものの、主要生産地の東北部では良好な天候に恵まれ生産量が増加した。

中国中央气象台「全国農業気象週報」(2026.4.13)によれば、4月上旬時点で、春とうもろこしは、多くの省において出芽期から3葉期を迎えており、全体として良好な生育状況となっている。四川省、貴州省、重慶市、コワンシー(広西)壮族自治区では既に出芽期から3葉期へ移行した地点が観測され、新疆ウイグル自治区では作付けが本格化しつつある。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受け前年度から 1.6%増の 321.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 339.6%増の 8.0 百万トンとなる見込み。同「Grain and Feed Update」(2025.7.2 及び 2026.1.27)によれば、2024/25 年度は、報復関税などの貿易政策の変更や国内農家の利益を守るための輸入抑制等により輸入量が大きく減少したが、2025/26 年度は、国内産とうもろこしの品質懸念や米国産農産物に対する報復関税の撤廃により輸入量が増加する見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年2月の輸入量は、前年同期(106.6 万トン)に比べ 111.7%増の 225.8 万トン。輸入先国別には、ブラジル 168.4 万トン(74.6%)、ロシア 27.5 万トン(12.2%)、ミャンマー19.5 万トン(8.6%)の順となっている(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2026 年2月号」によれば、2月の国内価格は、前月から横ばいの 2,420 元/トンであるものの、今後堅調な需要を受け上昇すると見込まれている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量の増加を受け前年度から 6.1%減、過去5年平均(204.8 百万トン)から 12.0%減の 180.2 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 4.6 ポイント減の 56.1%となる見込み。

とうもろこしー中国

(春とうもろこしは、概ね2～4月に作付けされ、7～9月に収穫される。
夏とうもろこしは、概ね4～6月に作付けされ、9～10月に収穫される。)

(単位:百万トン)

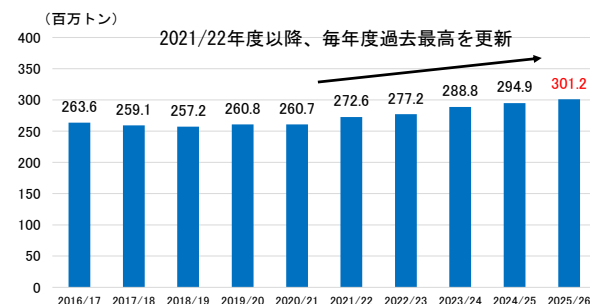
| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) | | |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、() はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 288.8 | 294.9 | 301.2 (301.2) | - | 2.1 |
| 消費量 | 307.0 | 316.0 | 321.0 (312.2) | - | 1.6 |
| うち飼料用 | 225.0 | 234.0 | 239.0 (210.0) | - | 2.1 |
| 輸 出 量 | 0.00 | 0.00 | 0.02 (0.1) | - | - |
| 輸 入 量 | 23.3 | 1.8 | 8.0 (6.0) | - | 339.6 |
| 期末在庫量 | 211.2 | 191.9 | 180.2 (179.9) | - | ▲ 6.1 |
| 期末在庫率 | 68.8% | 60.7% | 56.1% (57.6%) | - | ▲ 4.6 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|-------|---------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 44.22 | 44.74 | 44.96 (45.00) | - | 0.5 |
| 単収(t/ha) | 6.53 | 6.59 | 6.70 (6.69) | - | 1.7 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026)

図 中国のとうもろこしの生産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

表 中国のとうもろこしの輸入先国と輸入量

| 2024/25 年度 (2024年10月～2025年9月) | | | 2024/25年度 (2024年10月～2025年2月) | | | 2025/26年度 (2025年10月～2026年2月) | | |
|----------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) |
| ブラジル | 72.4 | 39.7 | ブラジル | 50.1 | 47.0 | ブラジル | 168.4 | 74.6 |
| ウクライナ | 37.6 | 20.6 | ウクライナ | 19.4 | 18.2 | ロシア | 27.5 | 12.2 |
| ロシア | 36.8 | 20.2 | ミャンマー | 17.3 | 16.3 | ミャンマー | 19.5 | 8.6 |
| ミャンマー | 22.8 | 12.5 | ロシア | 9.8 | 9.2 | ウクライナ | 6.1 | 2.7 |
| ラオス | 6.4 | 3.5 | ラオス | 6.2 | 5.8 | ラオス | 4.3 | 1.9 |
| 米国 | 3.9 | 2.1 | 米国 | 2.1 | 2.0 | ペルー | 0.0 | 0.0 |
| その他 | 2.3 | 1.3 | その他 | 1.7 | 1.6 | その他 | - | - |
| 計 | 182.3 | 100.0 | 計 | 106.6 | 100.0 | 計 | 225.8 | 100.0 |

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・フィリピン、台湾等で下方修正されたものの、タイ等で上方修正され、前月から上方修正された。

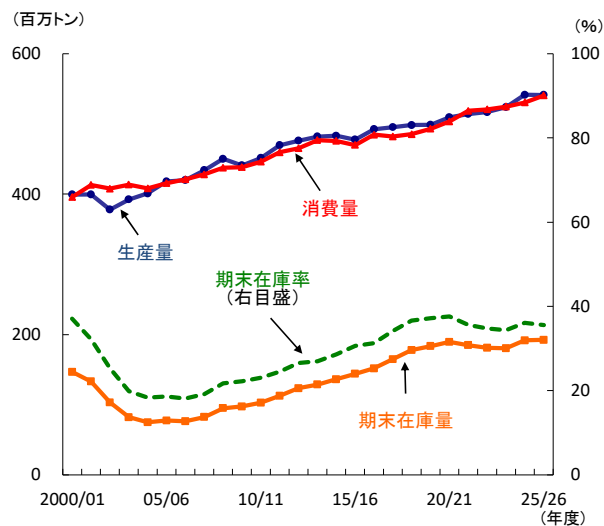
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・バングラデシュ、中国、イラン、パキスタン等で上方修正されたものの、日本、イラク等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・パキスタン等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省にて作成

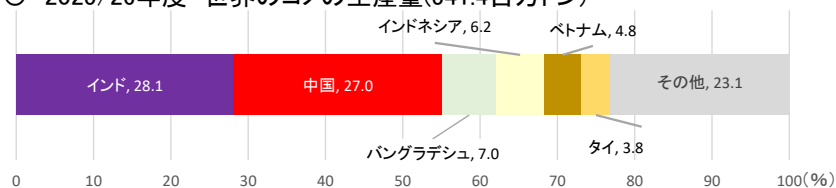
◎世界のコメ需給

(単位:百万精米トン)

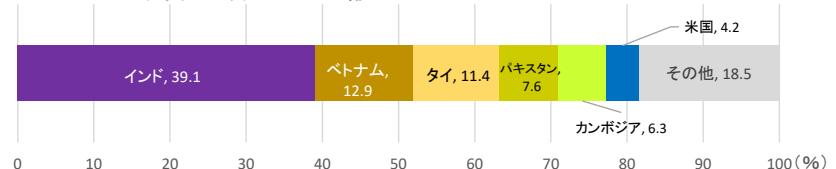
| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 523.9 | 541.6 | 541.4 | 0.1 | ▲ 0.04 |
| 消費量 | 524.7 | 530.4 | 540.6 | ▲ 0.4 | 1.9 |
| 輸出量 | 56.8 | 61.5 | 61.5 | ▲ 0.5 | ▲ 0.1 |
| 輸入量 | 53.8 | 58.0 | 58.8 | ▲ 0.2 | 1.3 |
| 期末在庫量 | 180.3 | 191.5 | 192.3 | 0.8 | 0.4 |
| 期末在庫率 | 34.4% | 36.1% | 35.6% | 0.2 | ▲ 0.5 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 April 2026)

○ 2025/26年度 世界のコメの生産量(541.4百万トン)



○ 2025/26年度 世界のコメの輸出量(61.5百万トン)



○ 2025/26年度 世界のコメの輸入量(58.8百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2025/26 年度の輸出量は、前年度から 10.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、収穫面積が前年度から 0.08 百万ヘクタール減少（前年度比 0.7%減）することを受け、前年度から 0.7%減の 20.7 百万トンの見込み。単収は、前月予測からわずかに下方修正され、前年と同じ 2.85 トン/ヘクタールとなる見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局(2026.3)によれば、2025/26 年度の乾季米の作付面積は、前年度に比べ 2.1%減の 2.06 百万ヘクタールと予測されている。3月に収穫期に入り、4月に収穫最盛期を迎える。

現地情報会社によれば、2月 28 日のイスラエル及び米国によるイランへの攻撃に続く中東での紛争を受け、タイでも燃料価格が急騰し、2月末時点で、30.18 バーツ/リットルのガソリンが、4月 9 日時点では 43.58 バーツ/リットルとなった。燃料供給網の川下にある地方部では軽油の供給が滞り、3月中旬には軽油を求める農家が給油所で列を作る様子が見られた(写真)。

アセアン食料安全保障情報システム(2026.3)によれば、乾季米は現在、登熟期から収穫期にある。農家が、冬期の乾季作から、水効率の良い作物や高付加価値作物への作付転換を進めているため、作付面積及び生産量は減少が見込まれる。しかし、好天に支えられ、単収は前年度に比べ向上すると予測されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、タイ米の輸出価格が、バーツ高及び国内価格の上昇を主要因として、他のアジアのコメ輸出国に比べ高いことから、前年度から 10.9%減の 7.0 百万トンの見込み。同「Rice Outlook: April 2026」(2026.4.13)によれば、タイ産米(長粒種白米 100%B)の4月 8 日までの週の輸出価格は、中東での紛争を背景とした燃料及び肥料価格の高騰を受け、前月 3 月 11 日までの週から 10 ドル/トン(2%)上昇し 388 ドル/トンとなった。

タイ関税局によれば、2025/26 年度の輸出量のうち 2026 年 1 月～2 月の輸出量は、前年同期(120.3 万トン)に比べ 4.1%減の 115.4 万トンで、輸出先国別には、南アフリカ 14.5 万トン(12.6%)、米国 11.6 万トン(10.0%)、イラク 9.2 万トン(7.9%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の引上げを受け、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度から 38.2%増の 3.8 百万トンの見込み。

コメータイ

夏期の雨季作(5～10 月作付け、同年 7 月～翌年 5 月収穫)と冬期の乾季作(11 月～翌年 4 月作付け、翌年 2～10 月収穫)で行われる。主にインディカ米を栽培。

| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26(26年1月～26年12月) | | |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、OはIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 20.0 | 20.8 | 20.7 (20.5) | 0.3 | ▲ 0.7 |
| 消費量 | 12.3 | 12.5 | 12.7 (12.7) | 0.1 | 1.6 |
| 輸出量 | 9.9 | 7.9 | 7.0 (7.1) | - | ▲ 10.9 |
| 輸入量 | 0.1 | 0.1 | 0.1 (0.02) | - | - |
| 期末在庫量 | 2.2 | 2.8 | 3.8 (3.6) | 0.3 | 38.2 |
| 期末在庫率 | 10.0% | 13.5% | 19.3% (18.1%) | 1.2 | 5.8 |

(参考)
 収穫面積(百万ha) 10.65 11.08 11.00 (10.89) 0.20 ▲ 0.7
 単収(噸t/ha) 2.85 2.85 2.85 (1.88) ▲ 0.01 -
 資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(9 April 2026)
 IGC「Grain Market Report」(19 March 2026) (単収は精米t/ha)

写真 トラクター用軽油の供給不足



農家がポリタンク容器を並べ、軽油の給油待ちをする様子。56 人分の列が出来ていたが、100 人近くになる日もあるとのこと(タイ中部スパンブリ県で3月 22 日撮影)。

表 タイのコメの輸出先国と輸出量

| 国名 | 2024/25年度 (2025年1月～12月) | | 2024/25年度 (2025年1月～2月) | | 2025/26年度 (2026年1月～2月) | | | |
|-------|----------------------------|------------|---------------------------|------------|---------------------------|------------|-------|-------|
| | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | | |
| イラク | 100.1 | 12.7 | 19.4 | 16.1 | 南アフリカ | 14.5 | 12.6 | |
| 南アフリカ | 87.6 | 11.1 | 15.5 | 12.9 | 米国 | 11.6 | 10.0 | |
| 米国 | 81.8 | 10.4 | 9.9 | 8.2 | イラク | 9.2 | 7.9 | |
| 中国 | 65.5 | 8.3 | セネガル | 7.6 | 6.3 | マレーシア | 7.7 | 6.7 |
| セネガル | 28.7 | 3.6 | アンゴラ | 6.3 | 5.2 | フィリピン | 6.7 | 5.8 |
| マレーシア | 27.8 | 3.5 | 中国 | 5.1 | 4.2 | セネガル | 5.7 | 4.9 |
| その他 | 398.6 | 50.4 | その他 | 56.4 | 46.9 | その他 | 60.0 | 52.0 |
| 計 | 790.1 | 100.0 | 計 | 120.3 | 100.0 | 計 | 115.4 | 100.0 |

資料:タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成

コメー米国

< 米国 > 2025/26 年度の輸出量は、前年度から 9.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収及び収穫面積の減少を受け、前年度から7.0%減の6.6百万トンの見込み。2025/26年度の収穫面積は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ4.3%減の1.11百万ヘクタールの見込み。

同「Prospective Plantings」(2026.3.31)によれば、2026/27年度の作付意向面積は、93.8万ヘクタールと、前年度(113.8万ヘクタール)から18%減の見込み。長粒種及び中・短粒種共に減少となっているが、特に長粒種で22%減と1983年以降最も低水準となる見込み(図)。

同「Crop Progress」(2026.4.13)によれば、4月12日現在、主要生産6州の作付進捗率は42%と、前年同期(31%)、過去5年平均(28%)に比べ進展している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から7.6%減の1.5百万トンの見込み。

USDAによれば、2025/26年度の輸出量は、前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度から9.4%減の2.6百万トンの見込み。同「Rice Outlook: April 2026」(2026.4.13)によれば、当該下方修正は、西半球市場向けの販売が低調に推移し、出荷量が従来予測を下回ったことによる。米国は、ラテンアメリカ市場において、南米のコメ輸出国であるブラジル、アルゼンチン及びウルグアイとの激しい価格競争に直面しており、2025/26年度のメキシコ向け輸出量は前年同期(8月～2月)と比較し50%減となっている。

同「Grain: World Markets and Trade」(2026.4.9)によれば、米国産米(長粒種白米、4%碎米混入)の4月7日までの週の輸出価格は、前月3月7日までの週から変わらず534ドル/トンで推移。

同「Exports Sales Query System」によれば、2025/26年度のうち2025年8月～2026年3月の輸出量は146.2万トンで、輸出先国別には、日本27.4万トン(18.7%)、ハイチ22.4万トン(15.3%)、メキシコ19.4万トン(13.2%)の順(表)。種類別には、長粒種は、輸出量95.2万トンで、輸出先国別には、ハイチ22.4万トン(国別シェア23.6%)、メキシコ16.0万トン(同16.8%)、ホンジュラス14.6万トン(同15.3%)。中・短粒種は、輸出量51.0万トンで、輸出先国別には、日本27.4万トン(国別シェア53.7%)、韓国12.0万トン(同23.5%)、メキシコ3.4万トン(同6.6%)。同「Rice Outlook: April 2026」(2026.4.13)によれば、2025/26年度の期末在庫量は、長粒種の輸出、国内消費等の減少を受け、前月予測から0.2百万トン上方修正され、前年度から2.9%増の1.8百万トンと、1985/86年度以来の高水準となる見込み。

長粒種の生産量は7割、中・短粒種の生産量は3割を占め、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

(単位:百万精米トン)

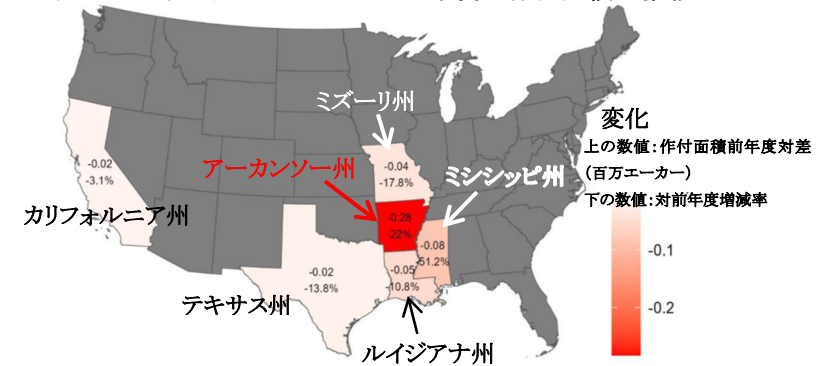
| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年8月～26年7月) | | |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 6.9 | 7.1 | 6.6 | - | ▲ 7.0 |
| 消費量 | 4.9 | 5.3 | 5.4 | ▲ 0.1 | 1.3 |
| 輸出量 | 3.2 | 2.9 | 2.6 | ▲ 0.1 | ▲ 9.4 |
| 輸入量 | 1.4 | 1.6 | 1.5 | - | ▲ 7.6 |
| 期末在庫量 | 1.3 | 1.7 | 1.8 | 0.2 | 2.9 |
| 期末在庫率 | 15.8% | 20.9% | 22.1% | 2.4 | 1.2 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|------|------|------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 1.16 | 1.16 | 1.11 | - | ▲ 4.3 |
| 単収(kg/ha) | 8.56 | 8.69 | 8.45 | - | ▲ 2.8 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(9 April 2026)

図 コメ生産州における2026/27年度の作付面積の推移



資料:USDA「Rice Outlook: April 2026」(2026.4.13)

表 米国のコメの輸出先国と輸出量

| 2024/25年度 (2024年8月～2025年7月) | | | 2024/25年度 (2024年8月～2025年3月) | | | 2025/26年度 (2025年8月～2026年3月) | | |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| メキシコ | 68.6 | 23.8 | メキシコ | 51.5 | 25.0 | 日本 | 27.4 | 18.7 |
| 日本 | 39.4 | 13.7 | 日本 | 23.2 | 11.3 | ハイチ | 22.4 | 15.3 |
| ハイチ | 28.6 | 9.9 | ハイチ | 20.6 | 10.0 | メキシコ | 19.4 | 13.2 |
| ホンジュラス | 27.4 | 9.5 | ホンジュラス | 17.4 | 8.4 | ホンジュラス | 14.6 | 10.0 |
| イラク | 22.0 | 7.6 | イラク | 13.2 | 6.4 | 韓国 | 12.0 | 8.2 |
| 韓国 | 13.4 | 4.6 | 韓国 | 11.1 | 5.4 | イラク | 8.8 | 6.0 |
| その他 | 89.3 | 31.0 | その他 | 69.0 | 33.5 | その他 | 41.6 | 28.5 |
| 計 | 288.6 | 100.0 | 計 | 205.9 | 100.0 | 計 | 146.2 | 100.0 |

資料:USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2025/26 年度の輸出量は、前年度から 65.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 0.7%増の 146.3 百万トン(精米ベース)となる見込み。

中国中央气象台「一期作稲生育段階」及び「二期作早稲生育段階」(2026.4.5~4.11)によれば、一期作米は、安徽省、江蘇省、四川省、重慶市、貴州省で、水温及び気温が安定し、作付け、出芽、初期生育が順調に進み、生育は良好である。一方、湖南省、江西省、湖北省、福建省、浙江省では、二期作早生米が出芽期から3葉期又は移植期にあるが、降水量が平年を大きく上回っており、豪雨等の影響による移植作業等の遅れが懸念されている(図)。また南端のコワンシー(広西)壮族自治区及び海南省では、高温や少雨が続き、農業用水の不足が顕在化する等、二期作早生米の生育にストレスが生じている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、飼料及び工業用への古米在庫の放出増を要因として前年度から 1.5%増の 147.1 百万トンとなる見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2026.4.9)によれば、2025/26 年度の輸入量は、2026 年初めの大量購入を受け、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、また国際市場におけるコメ価格の持続的な下落により国内コメ価格との価格差が拡大することによるミャンマー、タイ及びベトナムからの輸入米増の予測を受け前年度から 36.8%増の 3.2 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月~2026 年2月の輸入量は、前年同期(118.3 万トン)に比べ 90.4%増の 225.2 万トンとなっている。輸入先国別には、ミャンマー93.2 万トン(41.4%)、ベトナム 46.1 万トン(20.5%)、タイ 39.6 万トン(17.6%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、コートジボワール、ギニアビサウ及びリビアを含むアフリカ市場における競争力のある中粒種の需要拡大を背景に、前年度から 65.2%増の 1.9 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月~2026 年2月の輸出量は、前年同期(31.5 万トン)に比べ 35.0%増の 42.5 万トンとなっている。輸出先国別には、韓国 11.8 万トン(27.7%)、ベナン 6.7 万トン(15.8%)、コートジボワール 6.5 万トン(15.3%)、カメルーン 6.3 万トン(14.8%)の順となっている。

USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から0.5%増の105.0百万トンの見込み。

コメー中国

中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域(華南、華中、西南高原地域)で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

(単位:百万精米トン)

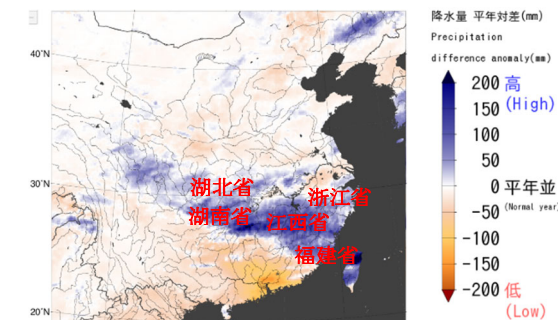
| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年7月~26年6月) | | |
|-------|---------|------------------|-----------------------|-----------|------------|
| | | | 予測値、0はIGC | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量 | 144.6 | 145.3 | 146.3 (146.3) | - | 0.7 |
| 消費量 | 148.1 | 145.0 | 147.1 (145.7) | 0.1 | 1.5 |
| 輸出量 | 1.6 | 1.2 | 1.9 (1.9) | - | 65.2 |
| 輸入量 | 1.5 | 2.3 | 3.2 (2.8) | 0.1 | 36.8 |
| 期末在庫量 | 103.0 | 104.5 | 105.0 (103.6) | - | 0.5 |
| 期末在庫率 | 68.8% | 71.5% | 70.5% (70.2%) | ▲ 0.1 | ▲ 1.1 |

(参考)

| 取穫面積(百万ha) | 28.95 | 29.01 | 29.00 (29.00) | - | ▲ 0.02 |
|------------|-------|-------|---------------|---|--------|
| 単収(t/ha) | 7.14 | 7.15 | 7.21 (5.05) | - | 0.8 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026) (単収は精米t/ha)

図 中国の降水量平年対差(2026年4月1日~15日)



資料:農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

表 中国のコメの輸入先国と輸入量

| 2024/25年度 (2024年7月~2025年6月) | | | 2024/25年度 (2024年7月~2025年2月) | | | 2025/26年度 (2025年7月~2026年2月) | | |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸入量 (万トン) | シェア (%) |
| ミャンマー | 67.4 | 28.9 | ミャンマー | 43.6 | 36.9 | ミャンマー | 93.2 | 41.4 |
| タイ | 56.1 | 24.0 | タイ | 30.4 | 25.7 | ベトナム | 46.1 | 20.5 |
| ベトナム | 49.6 | 21.3 | パキスタン | 13.3 | 11.2 | タイ | 39.6 | 17.6 |
| インド | 24.1 | 10.3 | インド | 12.3 | 10.4 | パキスタン | 16.0 | 7.1 |
| パキスタン | 20.7 | 8.9 | ベトナム | 11.6 | 9.8 | カンボジア | 15.1 | 6.7 |
| カンボジア | 11.7 | 5.0 | ラオス | 3.5 | 2.9 | インド | 12.5 | 5.6 |
| その他 | 3.8 | 1.6 | その他 | 3.5 | 3.0 | その他 | 2.7 | 1.2 |
| 合計 | 233.5 | 100.0 | 合計 | 118.3 | 100.0 | 合計 | 225.2 | 100.0 |

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< インド > 2025/26 年度の輸出量は、前年度から 5.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.3%増、過去5年平均(135.5 百万トン)から 12.2%増の 152.0 百万トンと史上最高の見込み。10 年連続の記録更新が見込まれている。

インド農業・農民福祉省によれば、2025/26 年度の夏季米の作付面積は、2026 年3月 30 日時点で前年同期(3.1 百万ヘクタール)から 7.14%減の 2.9 百万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 4.8%増の 127.0 百万トンと予測されている。

同「Grain and Feed Annual」(2026.4.2)によれば、当該増加は、主にインド政府が実施するエタノール製造者への補助金付きコメ販売が要因となっている。また生産量の増加により、政府は食料安全保障法に基づく公的食料配給制度(PDS)の継続実施が可能となっており、政府はPDSにより市場からコメ等を調達し、低所得世帯(8.14 億人以上)に無償又は低価格で配給している。

USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 5.1%増の 24.0 百万トンの見込み。同「Grain and Feed Annual」(2026.4.2)によれば、インドの高品質バスマティ米は、米国産の長粒種と、中東及び EU 市場で、競争関係にある。

国際穀物理事会(IGC)によれば、インド産米(長粒種白米、5%碎米混入)の4月7日までの週の輸出価格は、潤沢な供給を受け、前月3月7日までの週から7ドル/トン下落し 336 ドル/トンとなった。

インド輸出入統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年1月の輸出量は、691.2 万トンと前年同期(864.3 万トン)に比べ 20.0%減となっている。輸出先国別には、ベナン 54.4 万トン(7.9%)、サウジアラビア 45.7 万トン(6.6%)、アラブ首長国連邦 40.3 万トン(5.8%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.1%増の 49.0 百万トンとなり、政府が望む在庫水準は大幅に上回る見込み。

インド食料公社(Food Cooperation India)によれば、2026 年3月時点の期末在庫量は、36.47 百万トン(精米)と前年同期(36.79 百万トン)に比べ 0.9%減の見込み。

コメーインド

カリフ米:雨季/モンスーン期(5～10月)に栽培。
ラビ米:冬季の11月～翌3月に栽培。
夏季米:3～6月に栽培。

(単位:百万精米トン)

| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) | | |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、0はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 137.8 | 150.0 | 152.0 (153.0) | - | 1.3 |
| 消費量 | 116.4 | 121.2 | 127.0 (125.2) | - | 4.8 |
| 輸出量 | 14.4 | 22.8 | 24.0 (21.6) | - | 5.1 |
| 輸入量 | 0.0 | 0.0 | 0.0 (0.0) | - | - |
| 期末在庫量 | 42.0 | 48.0 | 49.0 (54.7) | - | 2.1 |
| 期末在庫率 | 32.1% | 33.3% | 32.5% (37.3%) | - | ▲ 0.9 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 47.83 | 51.42 | 52.00 (52.00) | - | 1.1 |
| 単収(精t/ha) | 4.32 | 4.38 | 4.39 (2.94) | - | 0.2 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026) (単収は精米t/ha)

写真 西ベンガル州の冬季米の作柄は良好



西ベンガル州の二期作地域では、冬季米(現地名:ボロ)が生殖初期段階にある。作柄は良好(4月3日撮影)。

表 インドのコメの輸出先国と輸出量

| 2024/25年度 (2024年10月～2025年9月) | | | 2024/25年度 (2024年10月～2026年1月) | | | 2025/26年度 (2025年10月～2026年1月) | | |
|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| ベナン | 216.7 | 9.4 | ベナン | 94.3 | 10.9 | ベナン | 54.4 | 7.9 |
| バングラデシュ | 149.9 | 6.5 | コートジボワール | 52.2 | 6.0 | サウジアラビア | 45.7 | 6.6 |
| サウジアラビア | 139.8 | 6.1 | ギニア | 51.5 | 6.0 | アラブ首長国連邦 | 40.3 | 5.8 |
| ギニア | 114.5 | 5.0 | サウジアラビア | 48.9 | 5.7 | バングラデシュ | 37.5 | 5.4 |
| トーゴ | 113.9 | 5.0 | トーゴ | 41.9 | 4.9 | ネパール | 34.4 | 5.0 |
| コートジボワール | 111.2 | 4.8 | ネパール | 39.6 | 4.6 | ギニア | 34.3 | 5.0 |
| その他 | 1,454.8 | 63.2 | その他 | 535.9 | 62.0 | その他 | 444.6 | 64.3 |
| 計 | 2,300.8 | 100.0 | 計 | 864.3 | 100.0 | 計 | 691.2 | 100.0 |

資料:インド農業・加工食品輸出振興局(APEDA)「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

< ベトナム > 2025/26 年度の期末在庫量は、前年度から 26.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少を受け前年度から2.8%減の26.0百万トンの見込み。

ベトナム総統計局(2026.4.10)によれば、2026年(USDA:2025/26年度)の全国の冬春作の作付面積は、3月20日時点で、前年同期に比べ3.7万ヘクタール減の291.5万ヘクタールの見込み。この内、メコンデルタ地域では、冬春作の作付けは約124.1万ヘクタールと、前年同期に比べ2.5万ヘクタール減となった。

ベトナム国家水文気象予報センター(2026.3.31)によれば、塩水浸入が4月上旬にも再度強まると見られているが、2026年の塩水浸入は全体として平年並み～やや弱い水準と評価されており、現時点では広域的な農業用水不足は報告されていない(図)。

アセアン食料安全保障情報システム(2026.3)によれば、ベトナム北部では、乾季米(冬春作)が3月現在、作付及び生育初期段階にある。作付面積は、寒波を回避するための作付カレンダーの調整により、前年同期よりわずかに減少し85万ヘクタールと予測されている。灌漑設備が整ったことも相まり、作柄は概ね良好な状態を維持している。南部では、乾季米(冬春作)が収穫期に入り、作付面積190万ヘクタールの内、約30万ヘクタールが収穫済である。作柄及び単収共に良好と予測されている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から10.5%増の3.9百万トンとなる見込み。

2025/26年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、インドやタイといった輸出国との競争激化が予測され前年度から2.0%減の7.9百万トンとなる見込み。同「Grain and Feed Annual」(2026.4.15)によれば、主要輸出先国であるフィリピン政府による、最近3ヶ月間の輸入延期もベトナムの輸出に大きな負の影響を与えた。

ベトナム税関総局によれば、2025/26年度のうち2026年1月～3月の輸出量は、228.2万トンと前年同期(230.9万トン)に比べ1.2%減。輸出先国別には、フィリピン119.6万トン(52.4%)、中国33.5万トン(14.7%)、ガーナ14.4万トン(6.3%)の順(表)。

同「Grain: World Markets and Trade」(2026.4.9)によれば、ベトナム産米(長粒種白米、5%碎米混入)の4月7日までの週の輸出価格は、アフリカ及び東南アジアからの強い需要を受け、前月3月7日までの週から15ドル/トン上昇し367ドル/トンとなった。USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ26.9%減の1.9百万トンとなる見込み。

コメベトナム

北部で概ね二期作、南部で三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。

(単位:百万精米トン)

| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26(26年1月～26年12月) | | |
|-------|---------|------------------|-----------------------|-----------|------------|
| | | | 予測値、0はIGC | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量 | 27.2 | 26.8 | 26.0 (28.3) | - | ▲ 2.8 |
| 消費量 | 22.5 | 22.6 | 22.7 (23.3) | - | 0.4 |
| 輸出量 | 9.0 | 8.1 | 7.9 (8.5) | - | ▲ 2.0 |
| 輸入量 | 3.7 | 3.5 | 3.9 (3.5) | - | 10.5 |
| 期末在庫量 | 3.0 | 2.6 | 1.9 (3.3) | - | ▲ 26.9 |
| 期末在庫率 | 9.5% | 8.5% | 6.2% (10.2%) | - | ▲ 2.3 |

(参考)
 収穫面積(百万ha) 7.11 6.95 6.80 (7.12) - ▲ 2.2
 単収(精t/ha) 6.12 6.16 6.12 (3.97) - ▲ 0.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
 「World Agricultural Production」(9 April 2026)
 IGC「Grain Market Report」(19 March 2026) (単収は精米t/ha)

図 メコンデルタ地域の塩分分布図(2026年3月21日～31日)

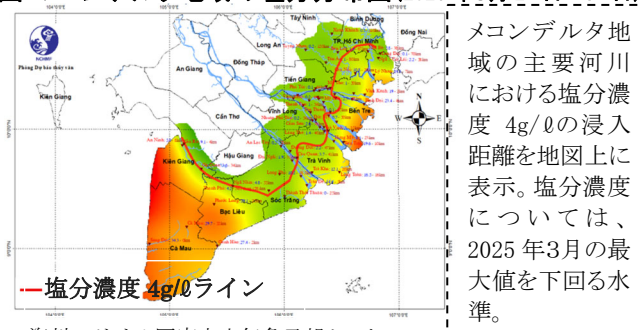


表 ベトナムのコメの輸出先国と輸出量

| 国名 | 2024/25年度 (2025年1月～12月) | | 2024/25年度 (2025年1月～3月) | | 2025/26年度 (2026年1月～3月) | |
|----------|----------------------------|------------|---------------------------|------------|---------------------------|------------|
| | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| フィリピン | 320.7 | 39.8 | 98.6 | 42.7 | 119.6 | 52.4 |
| コートジボワール | 105.5 | 13.1 | 29.3 | 12.7 | 33.5 | 14.7 |
| ガーナ | 91.9 | 11.4 | 23.2 | 10.1 | 14.4 | 6.3 |
| 中国 | 74.7 | 9.3 | 17.5 | 7.6 | 14.4 | 6.3 |
| マレーシア | 51.5 | 6.4 | 9.6 | 4.2 | 13.1 | 5.7 |
| セネガル | 16.8 | 2.1 | 5.8 | 2.5 | 3.3 | 1.4 |
| その他 | 145.1 | 18.0 | 46.8 | 20.3 | 30.0 | 13.2 |
| 計 | 806.3 | 100.0 | 計 | 230.9 | 計 | 228.2 |

資料:ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2025/26年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・ウルグアイ等で下方修正されたものの、パラグアイ等で上方修正され、前月から上方修正された。

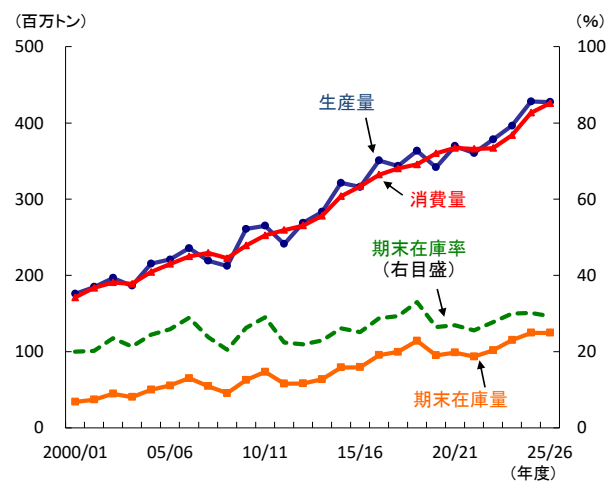
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・エジプト等で下方修正されたものの、米国、ブラジル、アルジェリア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

・米国、ウルグアイ等で下方修正されたものの、ブラジル、パラグアイ等で上方修正され、前月からの変更はなし。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

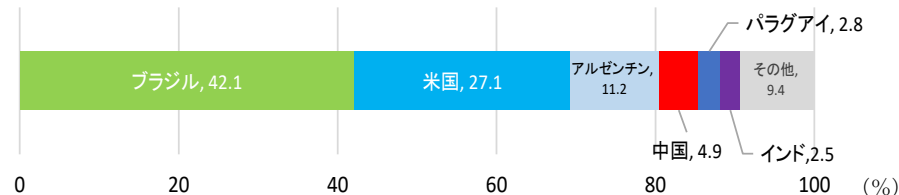
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

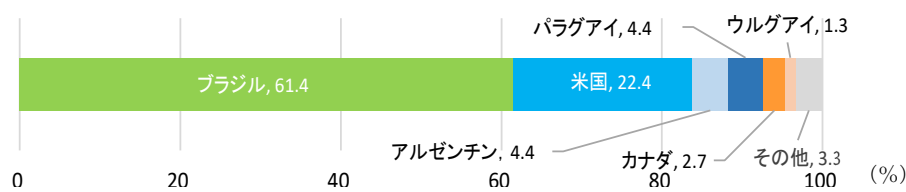
| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測から の変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 396.4 | 428.2 | 427.4 | 0.2 | ▲ 0.2 |
| 消費量 | 383.9 | 413.5 | 425.9 | 1.7 | ▲ 3.0 |
| うち搾油用 | 331.3 | 359.3 | 369.4 | 1.4 | ▲ 2.8 |
| 輸出量 | 177.8 | 184.2 | 187.2 | - | ▲ 1.6 |
| 輸入量 | 178.5 | 179.2 | 185.6 | 0.02 | ▲ 3.6 |
| 期末在庫量 | 115.1 | 124.8 | 124.8 | ▲ 0.5 | ▲ 0.02 |
| 期末在庫率 | 30.0% | 30.2% | 29.3% | ▲ 0.2 | ▲ 0.9 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 April 2026)

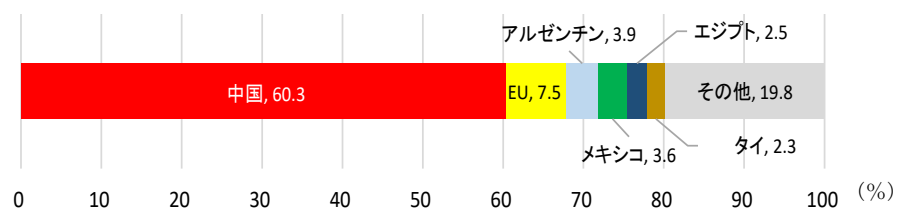
○ 2025/26年度 世界の大豆の生産量(427.4百万トン)



○ 2025/26年度 世界の大豆の輸出量(187.2百万トン)



○ 2025/26年度 世界の大豆の輸入量(185.6百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.6%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受け前年度から 2.6%減、過去5年平均(117.0 百万トン)から 0.8%減の 116.0 百万トンの見込み。とうもろこしに有利な価格相場により、多くの農家が大豆からとうもろこしに作付けを切り替えたとみられる。

同「Prospective Plantings」(2026.3.31)によれば、2026/27 年度の実績は、前年度(32.87 百万ヘクタール)から 4.3%増の 34.28 百万ヘクタールとなり、とうもろこしから大豆に作付けがシフトする見込み。

同「Crop Progress」(2026.4.13)によれば、4月 12 日現在の 2026/27 年度の実績は6% (前年同期2%)。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測から 0.9 百万トン上方修正され、前年度から 7.2%増の 74.1 百万トンと史上最高の見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.4.13)によれば、当該増加は、大豆油及び大豆粕の国内需要の増加による。米国環境保護庁(EPA)は 2026 年3月、2026~27 年の再生可能燃料混合義務量を発表し、バイオディーゼルの義務量は 2025 年の 33.5 億ガロンに対して、2026 年は 54.0 億ガロン、2027 年は 57.0 億ガロンと過去最高の数量が設定された。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実績は、ブラジルの好調な輸出を受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、搾油用需要の増加等を受け前年度から 18.2%減の 41.9 百万トンの見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年9月~2026 年3月の輸出量は、前年同期(4,125.3 万トン)に比べ 26.6%減の 3,027.0 万トン。輸出先国別には、中国 909.1 万トン(30.0%)、メキシコ 334.9 万トン(11.1%)、エジプト 330.6 万トン(10.9%)の順(表)。

国際穀物理事会(IGC)によれば、4月 7 日現在、米国の輸出価格は、459ドル/トンと、前月(3月 5 日)から 14 ドル/トン下落した。ブラジルは前月から6ドル/トン上昇し 431 ドル/トン、アルゼンチンは前月から 28 ドル/トン下落し 413 ドル/トンとなった(図)。USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2026.4.9)によれば、米国の輸出価格は、米中首脳会談延期の報道を受け下落した。USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、輸出量の減少等を受け前年度から 7.7%増、過去5年平均(8.0 百万トン)から 19.6%増の 9.5 百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度から 0.9 ポイント増の 8.2%となる見込み。

大豆—米国

(概ね5~6月に作付けされ、9~11月に収穫される。)

(単位:百万トン)

| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年9月~26年8月) | | |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測からの 変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 113.3 | 119.1 | 116.0 | - | ▲ 2.6 |
| 消費量 | 65.4 | 69.1 | 74.1 | 0.9 | 7.2 |
| うち搾油用 | 62.2 | 66.6 | 71.0 | 1.0 | 6.7 |
| 輸出量 | 46.3 | 51.2 | 41.9 | ▲ 1.0 | ▲ 18.2 |
| 輸入量 | 0.6 | 0.8 | 0.7 | - | ▲ 13.9 |
| 期末在庫量 | 9.3 | 8.8 | 9.5 | - | 7.7 |
| 期末在庫率 | 8.3% | 7.3% | 8.2% | 0.001 | 0.9 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 33.29 | 34.89 | 32.55 | - | ▲ 6.7 |
| 単収(t/ha) | 3.40 | 3.41 | 3.56 | - | 4.4 |

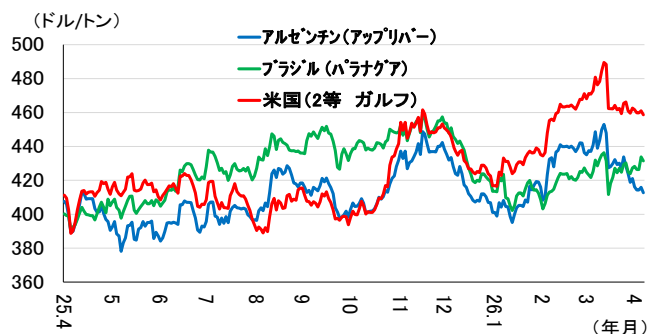
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(9 April 2026)

表 米国の大豆の輸出先国と輸出量

| 国名 | 2024/25年度 (2024年9月~2025年8月) | | 2024/25年度 (2024年9月~2025年3月) | | 2025/26年度 (2025年9月~2026年3月) | | | |
|------|--------------------------------|------------|--------------------------------|------------|--------------------------------|------------|---------|-------|
| | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | | |
| 中国 | 2,232.4 | 44.7 | 2,171.4 | 52.6 | 909.1 | 30.0 | | |
| メキシコ | 498.5 | 10.0 | 314.1 | 7.6 | 334.9 | 11.1 | | |
| エジプト | 369.2 | 7.4 | 235.1 | 5.7 | 330.6 | 10.9 | | |
| ドイツ | 273.1 | 5.5 | 195.7 | 4.7 | インドネシア | 165.4 | 5.5 | |
| イタリア | 210.0 | 4.2 | ドイツ | 175.9 | 4.3 | イタリア | 144.0 | 4.8 |
| その他 | 1,416.4 | 28.3 | その他 | 1,033.2 | 25.0 | その他 | 1,143.0 | 37.8 |
| 合計 | 4,999.8 | 100.0 | 合計 | 4,125.3 | 100.0 | 合計 | 3,027.0 | 100.0 |

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

図 各国の大豆輸出価格(FOB)の推移



資料:IGCのデータをもとに農林水産省で作成

< ブラジル > 2025/26 年度の生産量は前年度から 4.3%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が増加することを受け前年度から 4.3%増、過去5年平均(151.8 百万トン)から 18.6%増の 180.0 百万トンと史上最高となる見込み(図)。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2026.4.14)によれば、2025/26 年度の実産量は、作付面積及び単収の増加を受け前年度から 4.5%増の 179.2 百万トンと史上最高の見込み。3月の降雨量減少により収穫に適した条件となり、収穫進捗率は4月第1週時点で 82.1%に達した。最大生産州である中西部のマットグロッソ州の実産量は、単収が減少するものの作付面積が増加することを受け前年度から 0.6%増の 51.6 百万トンとなる見込み。同州では、収穫はほぼ完了しており、一部地域で過剰な降雨による悪影響があったものの、全体として作柄は良好となっている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、搾油用需要の増加等を受け前年度から 6.0%増の 65.9 百万トンと史上最高の見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.4.13)によれば、ブラジルのバイオディーゼル混合率は現在 15%に設定されており、国内の大豆油需要は増加している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度から 11.5%増の 115.0 百万トンと史上最高の見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.4.13)によれば、中国等への出荷量の増加及び競争力のある価格により、輸出量が増加する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年 3 月の輸出量は、前年同期(3,142.4 万トン)に比べ 20.2%増の 3,777.4 万トン。輸出先国別には、中国 2,895.5 万トン(76.7%)、タイ 153.1 万トン(4.1%)、スペイン 134.8 万トン(3.6%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、生産量の増加等を受け前年度と同水準、過去5年平均(32.2 百万トン)から 17.0%増の 37.7 百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度から 2.0 ポイント減の 20.8%となる見込み。

大豆—ブラジル

(概ね9～12月に作付けされ、1～4月に収穫される。)

(単位:百万トン)

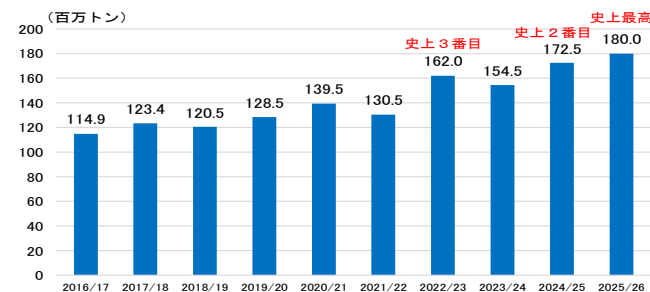
| 年度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) | | |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 154.5 | 172.5 (171.5) | 180.0 (179.2) | - (1.3) | 4.3 (4.5) |
| 消費量 | 58.3 | 62.2 (61.5) | 65.9 (64.3) | 0.5 (▲0.3) | 6.0 (4.5) |
| うち搾油用 | 54.4 | 58.2 ... | 61.5 ... | 0.5 ... | 5.7 ... |
| 輸出量 | 104.2 | 103.1 (108.2) | 115.0 (115.4) | 1.0 (1.0) | 11.5 (6.7) |
| 輸入量 | 0.9 | 0.7 (1.0) | 0.9 (0.5) | 0.4 (-) | 23.3 (▲48.4) |
| 期末在庫量 | 29.8 | 37.7 (10.0) | 37.7 (10.0) | ▲0.2 (0.4) | - (▲0.1) |
| 期末在庫率 | 18.3% | 22.8% (5.9%) | 20.8% (5.5%) | ▲0.3 (0.2) | ▲2.0 (▲0.3) |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 46.15 | 47.40 (47.35) | 49.40 (48.47) | - (0.04) | 4.2 (2.4) |
| 単収(t/ha) | 3.35 | 3.64 (3.62) | 3.64 (3.70) | - (0.02) | - (2.0) |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 April 2026)

CONAB「Grãos」(14 April 2026)※()書き、なお、CONABの収穫面積は作付面積である。

図 ブラジルの大豆の実産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

表 ブラジルの大豆の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度 (2024年10月～2025年9月) | | | 2024/25年度 (2024年10月～2025年3月) | | | 2025/26年度 (2025年10月～2026年3月) | | |
|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|---------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| 中国 | 7,968.8 | 77.3 | 中国 | 2,399.2 | 76.3 | 中国 | 2,895.5 | 76.7 |
| スペイン | 396.3 | 3.8 | タイ | 153.7 | 4.9 | タイ | 153.1 | 4.1 |
| タイ | 365.5 | 3.5 | スペイン | 102.9 | 3.3 | スペイン | 134.8 | 3.6 |
| トルコ | 184.8 | 1.8 | イラク | 66.7 | 2.1 | トルコ | 85.0 | 2.2 |
| イラン | 146.3 | 1.4 | トルコ | 53.9 | 1.7 | パキスタン | 70.1 | 1.9 |
| その他 | 1,252.1 | 12.1 | その他 | 366.0 | 11.6 | その他 | 438.9 | 11.6 |
| 合計 | 10,313.8 | 100.0 | 合計 | 3,142.4 | 100.0 | 合計 | 3,777.4 | 100.0 |

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2025/26 年度の生産量は前年度から 10.7%減少する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.4.17)によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収の減少を受け前年度から 10.7%減の 6.8 百万トンとなる見込み(図)。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2025」(2025.12.4)によれば、2025/26 年度の州別の生産量は、マニトバ州では、収穫面積の増加を受け前年度から 12.3%増の 1.9 百万トンとなるものの、最大生産州のオンタリオ州では、前年度から 18.2%減の 3.6 百万トン、ケベック州では前年度から 15.6%減の 1.2 百万トンの見込み。各州とも単収が前年度を下回り、マニトバ州が 3.2%減、オンタリオ州が 11.8%減、ケベック州が 19.2%減の見込み。カナダ東部(オンタリオ州及びケベック州等)では、生育期間を通じて高温乾燥に見舞われ、大豆の作柄が大きく悪化した。

AAFC によれば、2026/27 年度の作付面積は、他作物の投入コスト上昇及び価格下落による収益性低下により作付けが大豆へシフトすることから、2025/26 年度から 1.9%増、過去5年平均から 6.9%増の 2.38 百万ヘクタールの見込み。2026/27 年度の実産量は、前年度から 10.4%増の 7.5 百万トンの見込み(図)。

【需要状況】AAFC によれば、2025/26 年度の実消費量は、前月予測からわずかに下方修正され、飼料用需要等の減少を受け前年度から 16.7%減の 2.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の実輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正されたものの、生産量の減少等を受け前年度から 1.3%減の 5.4 百万トンの見込み。2025 年8月～2026 年2月の好調な輸出を受け輸出量は引き上げられた。前年度からはわずかに減少するものの、平年を 14%上回る見込み。カナダ統計局によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年2月の輸出量は、前年同期(430.1 万トン)に比べ 4.0%増の 447.2 万トン。輸出先国別には、中国 176.6 万トン(39.5%)、アルジェリア 52.7 万トン(11.8%)、オランダ 52.2 万トン(11.7%)の順となっている(表)。

AAFC によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、輸出の引上げ等を受け 0.1 百万トン下方修正され、生産量の減少等を受け前年度から 34.6%減の 0.4 百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度から 2.3ポイント減の 5.3%となる見込み。

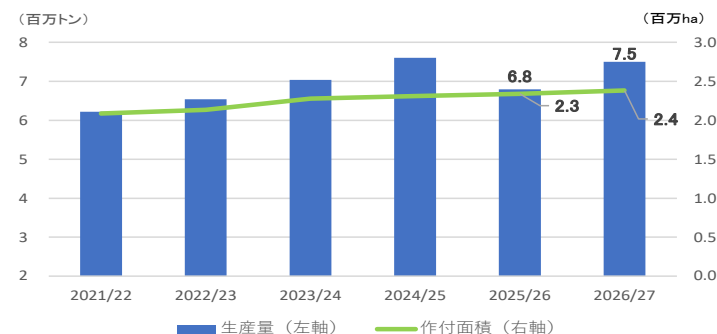
大豆—カナダ

(概ね5～6月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年8月～26年7月) | | |
|-------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はAAFC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 7.0 | 7.6 (7.6) | 6.8 (6.8) | - (-) | ▲10.7 (▲10.7) |
| 消費量 | 2.3 | 2.3 (2.5) | 2.1 (2.1) | - (▲0.05) | ▲7.0 (▲16.7) |
| うち搾油用 | 1.7 | 1.7 (1.7) | 1.4 (1.7) | - (-) | ▲16.6 (1.3) |
| 輸出量 | 4.9 | 5.6 (5.4) | 5.1 (5.4) | - (0.1) | ▲8.1 (▲1.3) |
| 輸入量 | 0.3 | 0.3 (0.3) | 0.4 (0.4) | - (-) | 44.0 (49.8) |
| 期末在庫量 | 0.6 | 0.6 (0.6) | 0.6 (0.4) | 0.1 (▲0.1) | ▲7.9 (▲34.6) |
| 期末在庫率 | 7.7% | 7.7% (7.6%) | 7.7% (5.3%) | 0.9 (▲0.7) | ▲0.004 (▲2.3) |

(参考)
 収穫面積(百万ha) 2.26 2.29 (2.29) 2.32 (2.32) - (-) 1.3 (1.4)
 単収(t/ha) 3.11 3.32 (3.32) 2.93 (2.93) - (-) ▲11.7 (▲11.7)
 資料:USDA「FS&D」(9 April 2026)
 「World Agricultural Production」(9 April 2026)
 AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(17 April 2026)※()書き

図 カナダの大豆の作付面積と生産量の推移



資料:AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2026.4.17)をもとに農林水産省にて作成

表 カナダの大豆の輸出先国と輸出量

| 2024/25年度 (2024年8月～2025年7月) | | | 2024/25年度 (2024年8月～2025年2月) | | | 2025/26年度 (2025年8月～2026年2月) | | |
|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|--------------------------------|--------------|------------|
| 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) | 国名 | 輸出量 (万トン) | シェア (%) |
| 中国 | 104.2 | 19.0 | 中国 | 95.4 | 22.2 | 中国 | 176.6 | 39.5 |
| イラン | 83.9 | 15.3 | イラン | 83.9 | 19.5 | アルジェリア | 52.7 | 11.8 |
| アルジェリア | 52.1 | 9.5 | アルジェリア | 41.0 | 9.5 | オランダ | 52.2 | 11.7 |
| 米国 | 42.2 | 7.7 | バングラデシュ | 26.1 | 6.1 | イラン | 43.1 | 9.6 |
| 日本 | 38.4 | 7.0 | 米国 | 22.3 | 5.2 | 米国 | 19.1 | 4.3 |
| インドネシア | 31.8 | 5.8 | トルコ | 20.2 | 4.7 | 日本 | 18.5 | 4.1 |
| その他 | 194.4 | 35.5 | その他 | 141.3 | 32.8 | その他 | 84.8 | 19.0 |
| 合計 | 547.0 | 100.0 | 合計 | 430.1 | 100.0 | 合計 | 447.2 | 100.0 |

資料:カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収の増加を受け前年度から 1.2%増、過去5年平均(19.6 百万トン)から 6.9%増の 20.9 百万トンと史上最高の見込み。

中国国家统计局「農村司司長魏鋒華解説糧食生産情況」(2025.12.12)によれば、2025 年の生産量は、前年から 1.3%増の 20.9 百万トンとなる見込み。これは、作付面積が 10.27 百万ヘクタールと前年から 0.6%減少したものの、単収が 2.04 トン/ヘクタールと前年より 1.9%増加することによる。

国家糧油信息中心(2026.4.13)によれば、3月、黒龍江省、吉林省、遼寧省では、春の作付けに向けた準備が順次開始された。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け前年度から 4.3%増の 132.9 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け前年度から 3.7%増の 112.0 百万トンと、2023/24 年度と並び史上最高の見込み(図)。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年2月の輸入量は、前年同期(3,678.9 万トン)に比べ 3.8%増の 3,817.9 万トン。輸入先国別には、ブラジル 2,518.4 万トン(66.0%)、アルゼンチン 826.2 万トン(21.6%)、ウルグアイ 179.6 万トン(4.7%)の順(表)。

中国国務院関税税則委員会は、2025 年 10 月末の米中経済貿易協定の合意を踏まえ、税委会公告 2025 年第4号の追加関税 34%のうち5月 14 日から停止されてきた 24%の適用を 11 月 10 日から更に1年間停止(同第 10 号)し、同第2号の追加関税 15%の適用を停止すると発表(同第9号)した。これにより米産大豆に課す追加関税は 10%となった。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2026 年2月号」によれば、連休明けの需要回復に伴い、2月の国内価格は 4,740 元/トンと、前月(4,660 元/トン)から上昇した。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け前年度から 0.2%減となるものの、過去5年平均(34.8 百万トン)から 27.4%増の 44.4 百万トンと、史上2番目の見込み。期末在庫率は、前年度から 1.5 ポイント減の 33.4%となる見込み。

大豆—中国

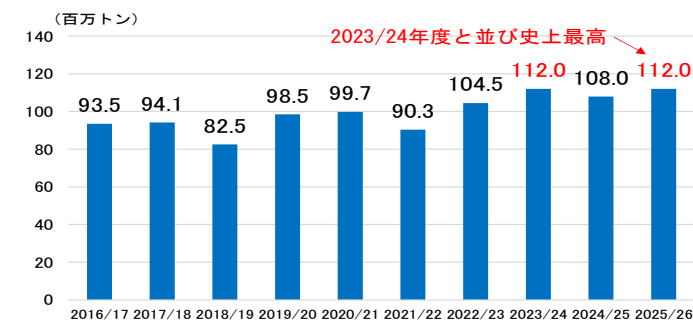
(概ね4～6月に作付けされ、9～10月に収穫される。)

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年10月～26年9月) | | |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 20.8 | 20.7 | 20.9 (20.9) | - | 1.2 |
| 消費量 | 121.8 | 127.4 | 132.9 (134.2) | - | 4.3 |
| うち搾油用 | 99.0 | 103.5 | 108.0 (110.5) | - | 4.3 |
| 輸 出 量 | 0.1 | 0.1 | 0.1 (0.1) | - | 42.9 |
| 輸 入 量 | 112.0 | 108.0 | 112.0 (113.3) | - | 3.7 |
| 期末在庫量 | 43.3 | 44.5 | 44.4 (51.2) | - | ▲ 0.2 |
| 期末在庫率 | 35.5% | 34.9% | 33.4% (38.1%) | - | ▲ 1.5 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 10.47 | 10.33 | 10.30 (10.42) | - | ▲ 0.3 |
| 単収(t/ha) | 1.99 | 2.00 | 2.03 (2.01) | - | 1.5 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026)

図 中国の大豆の輸入量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

表 中国の大豆の輸入先国と輸入量

| 国名 | 2024/25年度 (2024年10月～2025年9月) | | 2024/25年度 (2024年10月～2025年2月) | | 2025/26年度 (2025年10月～2026年2月) | |
|--------|---------------------------------|------------|---------------------------------|------------|---------------------------------|------------|
| | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | 輸入量 (万トン) | シェア (%) | 輸入量 (万トン) | シェア (%) |
| ブラジル | 7,610.8 | 69.6 | 1,672.0 | 45.4 | 2,518.4 | 66.0 |
| 米国 | 2,440.9 | 22.3 | 1,599.9 | 43.5 | 826.2 | 21.6 |
| アルゼンチン | 476.6 | 4.4 | 198.1 | 5.4 | 179.6 | 4.7 |
| ウルグアイ | 244.3 | 2.2 | 106.6 | 2.9 | 148.9 | 3.9 |
| カナダ | 118.6 | 1.1 | 84.8 | 2.3 | 111.6 | 2.9 |
| ロシア | 45.0 | 0.4 | 17.4 | 0.5 | 31.7 | 0.8 |
| その他 | 2.1 | 0.0 | 0.2 | 0.0 | 1.5 | 0.0 |
| 合計 | 10,938.3 | 100.0 | 3,678.9 | 100.0 | 3,817.9 | 100.0 |

資料:中国海関統計のデータをもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は前年度から 6.1%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少を受け前年度から 6.1%減となるものの、過去5年平均(42.9 百万トン)から 11.9%増の 48.0 百万トンの見込み(図)。前年度は病害虫のヨコバイによる被害によりとうもろこしから大豆に作付けがシフトしたが、2025/26 年度は被害の改善によりとうもろこしに作付けがシフトしたとみられる。

同「Oil Crops Outlook」(2026.3.12)によれば、早植え大豆は、重要な生育期間である 11~12 月に降雨に支えられ、乾燥が始まる前に莢伸長期に入った。遅植え大豆は、1月に高温乾燥の影響を受けたものの、2月の降雨により作柄は安定した。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2026.4.16)によれば、4月 16 日現在の大豆の収穫進捗率は7%と前年同期(6%)を上回っており、主要生産州では、ブエノス・アイレス州4%(前年同期1%)、コルドバ州 11%(同 10%)、サンタフェ州 13%(同 11%)となっている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の減少を受け前年度から 4.3%減の 47.9 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、同国への大豆主要供給国であるパラグアイの生産量増加等を受け前年度から 15.5%増の 7.3 百万トンの見込み。2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、9月に輸出税が一時的に撤廃されたこと等を受け前年度から 4.8%増の 8.3 百万トンの見込み。輸出税撤廃時に、中国が大量に購入したとみられる。

アルゼンチン政府は、2025 年 12 月 12 日、大豆の輸出税を 26%から 24%に引き下げた。政府は、9月に一時的に輸出税を撤廃したものの、設定した輸出額の上限に達したため、元の税率である 26%に戻っていた。これは、生産者の税負担を軽減し、農業分野の競争力を高めることを目的としている(表)。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、生産量の減少等を受け前年度から 3.6%減、過去5年平均(22.6 百万トン)から 0.4%増の 22.7 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 0.2 ポイント減の 40.5%となる見込み。

大豆—アルゼンチン

(大豆は、概ね 10~1月に作付けされ、3~7月に収穫される。)

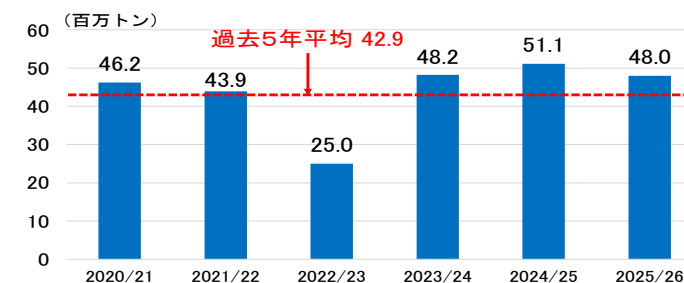
| 年 度 | 2023/24 | 2024/25 (見込み) | 2025/26 (25年10月~26年9月) | | |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 48.2 | 51.1 | 48.0 (47.0) | - | ▲ 6.1 |
| 消費量 | 43.8 | 50.0 | 47.9 (48.3) | - | ▲ 4.3 |
| うち搾油用 | 36.6 | 43.2 | 41.0 (41.8) | - | ▲ 5.2 |
| 輸 出 量 | 5.1 | 7.9 | 8.3 (4.8) | - | ▲ 4.8 |
| 輸 入 量 | 7.8 | 6.3 | 7.3 (6.5) | ▲ 0.2 | 15.5 |
| 期末在庫量 | 24.1 | 23.6 | 22.7 (4.7) | ▲ 0.2 | ▲ 3.6 |
| 期末在庫率 | 49.1% | 40.7% | 40.5% (8.8%) | ▲ 0.4 | ▲ 0.2 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|-------|---------------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 16.37 | 17.46 | 16.80 (16.50) | - | ▲ 3.8 |
| 単収(t/ha) | 2.95 | 2.93 | 2.86 (2.85) | - | ▲ 2.4 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2026)
IGC「Grain Market Report」(19 March 2026)

図 アルゼンチンの大豆の生産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.4.9)をもとに農林水産省で作成

表 アルゼンチンの輸出税率の推移(2022年12月30日以降)

| 政令 | 公布日 | 小麦 | とうもろこし | 大豆 | 大豆油 大豆粕 |
|-------------|-------------|-----|--------|----|------------|
| 政令851/2021号 | 2022年12月30日 | 12 | 12 | 33 | 31 |
| 政令38/2025号 | 2025年1月27日 | 9.5 | 9.5 | 26 | 24.5 |
| 政令439/2025号 | 6月27日 | 9.5 | 12 | 33 | 31 |
| 政令526/2025号 | 7月31日 | 9.5 | 9.5 | 26 | 24.5 |
| 政令682/2025号 | 9月22日 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 政令526/2025号 | 9月24日(※) | 9.5 | 9.5 | 26 | 24.5 |
| 政令877/2025号 | 12月12日 | 7.5 | 8.5 | 24 | 22.5 |

※9月に一時的に輸出税を撤廃したものの、設定した輸出額の上限に達したため、以前の輸出税が復活した。

資料:ロサリオ穀物証券取引所「Evolución de los derechos de exportación para productos agroindustriales seleccionados」をもとに農林水産省にて作成

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2025/26年度)

| | 小麦 | とうもろこし | コメ | 大豆 |
|--------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 米国 | 25年6月～26年5月 | 25年9月～26年8月 | 25年8月～26年7月 | 25年9月～26年8月 |
| カナダ | 25年8月～26年7月 | | | 25年8月～26年7月 |
| 豪州 | 25年10月～26年9月 | | 26年3月～27年2月 | |
| EU | 25年7月～26年6月 | 25年10月～26年9月 | | |
| 中国 | 25年7月～26年6月 | 25年10月～26年9月 | 25年7月～26年6月 | 25年10月～26年9月 |
| ロシア | 25年7月～26年6月 | 25年10月～26年9月 | | 25年9月～26年8月 |
| ウクライナ | 25年7月～26年6月 | 25年10月～26年9月 | | |
| ブラジル | | 26年3月～27年2月 | 26年4月～27年3月 | 25年10月～26年9月 |
| アルゼンチン | 25年12月～26年11月 | 26年3月～27年2月 | | 25年10月～26年9月 |
| タイ | | | 26年1月～12月 | |
| インド | 25年4月～26年3月 | | 25年10月～26年9月 | |
| ベトナム | | | 26年1月～12月 | |

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2025/26年度は、米国の小麦では2025年6月～2026年5月、ブラジルのとうもろこしでは2026年3月～2027年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

| | | | | |
|-----------------------------------|----------|---------|--------|-----|
| 1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる) | 0.027216 | メトリックトン | 小麦、大豆 | 米国等 |
| | 0.021772 | メトリックトン | 大麦 | |
| | 0.025401 | メトリックトン | とうもろこし | |
| | 0.014515 | メトリックトン | オーツ | |
| 1 CWT(百ポンド) | 0.045359 | メトリックトン | コメ | 米国等 |

2 面積

| | | | |
|-------------|---------|-------|-----|
| 1Acre(エーカー) | 0.40469 | ヘクタール | 米国等 |
| 1rai(ライ) | 0.16 | ヘクタール | タイ |
| 1 亩(ムー) | 0.0667 | ヘクタール | 中国 |

3 その他

| | | | |
|------|-------|------|----|
| 1ガロン | 4.536 | リットル | 英国 |
| 1ガロン | 3.785 | リットル | 米国 |

| | | | |
|------------|-----|-----|-----|
| 1LAKH(ラーク) | 10万 | 位取り | インド |
|------------|-----|-----|-----|









| | | | |
|----|------|----|----|
| 1斤 | 500g | 重量 | 中国 |
|----|------|----|----|

| | | | |
|-------------------------------|--|--|--|
| 華氏→摂氏 : °C = (° F - 32) ÷ 1.8 | | | |
|-------------------------------|--|--|--|

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

| 国名 | N年 | | | | | | | | | | | | N+1年 | | | | | | | | | | | | 2024/2025 (単位:百万トン) | | 生産量に占める 輸出量の割合 |
|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----------------|---------------|------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|------------------------|--------------|-------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 生産量 (シェア) | 輸出量 (シェア) | |
| 中国  | <div style="border: 1px solid green; padding: 2px;"> Market year </div> 冬小麦: 播種(12) → 収穫(6) → 播種(1) → 収穫(6) → 播種(12) 春小麦: 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) | | | | | | | | | | | | 140 (17.5%) | 1 (0.5%) | 0.7% | | | | | | | | | | | | |
| EU  | 冬小麦: 播種(12) → 収穫(6) → 播種(1) → 収穫(6) → 播種(12) 春小麦: 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) | | | | | | | | | | | | 122 (15.3%) | 27 (12.9%) | 22% | | | | | | | | | | | | |
| インド  | 播種(1) → 収穫(6) → 播種(1) → 収穫(6) → 播種(1) | | | | | | | | | | | | 113 (14.2%) | 0.2 (0.1%) | 0.2% | | | | | | | | | | | | |
| ロシア  | 冬小麦: 播種(12) → 収穫(6) → 播種(1) → 収穫(6) → 播種(12) 春小麦: 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) | | | | | | | | | | | | 82 (10.2%) | 44 (21.1%) | 53% | | | | | | | | | | | | |
| アメリカ  | 冬小麦: 播種(12) → 収穫(6) → 播種(1) → 収穫(6) → 播種(12) 春小麦: 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) | | | | | | | | | | | | 54 (6.7%) | 22 (10.8%) | 42% | | | | | | | | | | | | |
| カナダ  | 冬小麦: 播種(12) → 収穫(6) → 播種(1) → 収穫(6) → 播種(12) 春小麦: 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) → 収穫(7) → 播種(5) | | | | | | | | | | | | 35 (4.4%) | 27 (13.1%) | 77% | | | | | | | | | | | | |
| オーストラリア  | 播種(1) → 収穫(6) → 播種(1) → 収穫(6) → 播種(1) | | | | | | | | | | | | 34 (4.3%) | 25 (12.1%) | 73% | | | | | | | | | | | | |
| パキスタン  | 播種(1) → 収穫(6) → 播種(1) → 収穫(6) → 播種(1) | | | | | | | | | | | | 31 (3.9%) | 1 (0.2%) | 2% | | | | | | | | | | | | |


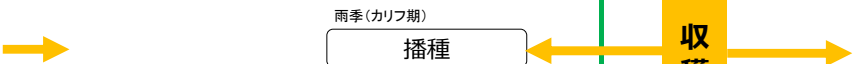
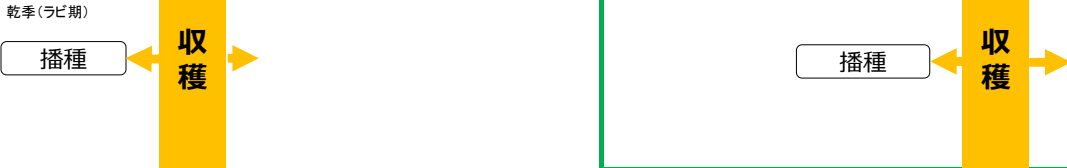





資料: AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendars」、PS&D (2025.5)

注: 生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他: 188 (23.6%) 60 (29.2%)

主要生産国のクロープカレンダー(米)







※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

| 国名 | N年 | | | | | | | | | | | | N+1年 | | | | | | | | | | | | 2024/2025 (単位：百万トン) | | 生産量に占める 輸出量の割合 |
|--|----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----------------|------------------------|--------------|-------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 生産量 (シェア) | 輸出量 (シェア) | |
| インド  Market year  雨季(カリフ期) 播種 → 収穫  乾季(ラビ期) 播種 ← 収穫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 147 (27.3%) | 25 (39.9%) | 17% | |
| 中国  南部二期作 一期目 播種 → 収穫 北部一期作 播種 → 収穫 南部二期作 二期目 播種 → 収穫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 145 (27.0%) | 1 (1.5%) | 0.6% | |
| バングラデシュ  播種(アウス種) → 収穫 播種(ボロ種) → 収穫 播種(アマン種) → 収穫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 37 (6.8%) | 0 (0.0%) | 0.0% | |
| インドネシア  二期作 一期目 播種 → 収穫 二期作 二期目 播種 → 収穫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 35 (6.4%) | 0 (0%) | 0.0% | |
| ベトナム  播種 → 冬作 収穫 → 夏秋作 播種 → 冬作 収穫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 27 (5.0%) | 8 (12.9%) | 29% | |
| タイ  雨季作 播種 → 収穫 乾季作 播種 → 収穫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 21 (3.8%) | 7 (11.4%) | 34% | |

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendar」、PS&D (2025.5) 注：生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他：127 (23.6%) 21 (34.4%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。





| 国名 | N年 | | | | | | | | | | | | N+1年 | | | | | | | | | | | | 2024/2025 (単位：百万トン) | | 生産量に 占める 輸出量の 割合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----------------|---------------|------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|------------------------|--------------|---------------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 生産量 (シェア) | 輸出量 (シェア) | |
| アメリカ  | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> </div> | | | | | | | | | | | | 378 (30.9%) | 66 (34.9%) | 17% | | | | | | | | | | | | |
| 中国  | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 播種 (春作) → 収穫 </div> <div style="text-align: center;"> 播種 (夏作) → 収穫 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> </div> | | | | | | | | | | | | 295 (24.1%) | 0 (0.0%) | 0.0% | | | | | | | | | | | | |
| ブラジル  | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> 夏とうもろこし 播種 → 収穫 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> <div style="width: 30%;"> 冬とうもろこし 播種 → 収穫 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> </div> | | | | | | | | | | | | 130 (10.6%) | 43 (22.7%) | 33% | | | | | | | | | | | | |
| EU  | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> </div> | | | | | | | | | | | | 59 (4.9%) | 2 (1.3%) | 4% | | | | | | | | | | | | |
| アルゼンチン  | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> </div> | | | | | | | | | | | | 50 (4.1%) | 36 (18.7%) | 71% | | | | | | | | | | | | |
| インド  | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> 乾期(ラビ期) 播種 → 収穫 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> <div style="width: 30%;"> 雨期(カリフ期) 播種 → 収穫 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> <div style="text-align: center;"> 播種 → 収穫 </div> </div> | | | | | | | | | | | | 40 (3.3%) | 0.4 (0.2%) | 0.9% | | | | | | | | | | | | |

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」(2025.5)注：生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他：

269 (22.1%)
42 (22.2%)

主要生産国のクロープカレンダー(大豆)








※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

| 国名 | N年 | | | | | | | | | | | | N+1年 | | | | | | | | | | | | 2024/2025 (単位:百万トン) | | 生産量に占める 輸出量の割合 |
|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----------------|----------------|------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|------------------------|--------------|-------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 生産量 (シェア) | 輸出量 (シェア) | |
| ブラジル  | ☐ Market year 収穫 → (3) ← 播種 (10) → 収穫 → (3) ← 播種 (10) → | | | | | | | | | | | | 169 (40.2%) | 105 (57.8%) | 62% | | | | | | | | | | | | |
| アメリカ  | 播種 → (10) ← 収穫 → (3) ← 播種 → (10) ← 収穫 → (3) ← | | | | | | | | | | | | 119 (28.2%) | 50 (27.8%) | 42% | | | | | | | | | | | | |
| アルゼンチン  | 早植え 播種 → (10) ← 収穫 → (3) ← 遅植え 播種 → (10) ← 収穫 → (3) ← | | | | | | | | | | | | 49 (11.6%) | 4 (2.3%) | 9% | | | | | | | | | | | | |
| 中国  | 播種 → (10) ← 収穫 → (3) ← 播種 → (10) ← 収穫 → (3) ← | | | | | | | | | | | | 21 (4.9%) | 0.1 (0.1%) | 0.5% | | | | | | | | | | | | |

資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「PS&D」 (2025.5) 注: 生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 63 (15.1%) 22 (12.0%)

主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

| 国名 | N年 | | | | | | | | | | | | N+1年 | | | | | | | | | | | | 2024/2025 (単位:百万トン) | | 生産量に占める 輸出量の割合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|------------------------|---------------|-------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 生産量 (シェア) | 輸出量 (シェア) | |
| カナダ  | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | 19 (22.1%) | 9 (46.7%) | 47% |
| EU  | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | 17 (19.8%) | 0.3 (1.6%) | 2% |
| 中国  | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | 16 (18.6%) | 0 (0.0%) | 0.0% |
| インド  | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | 12 (13.5%) | 0 (0.0%) | 0.0% |
| オーストラリア  | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | 6 (7.0%) | 5 (25.9%) | 82% |
| ロシア  | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | 5 (5.5%) | 1 (4.5%) | 18% |
| ウクライナ  | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> | | | | | | | | | | | | 4 (4.5%) | 3 (17.2%) | 85% |

資料: USDA 「Crop Calendar」, 「PS&D」 (2025.5)

注: 生産量のシェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他: 8 (9.1%)
1 (4.1%)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関(各国政府機関、FAO、IGC等)の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2026 年4月中旬までに発表した情報を引用しています(最新年度 2025/26 年度です)。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

<https://www.usda.gov/about-usda/reports-and-data/agency-reports>

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain:World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds:World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

・食料需給表:<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>

・食品の価格動向:<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>

・米に関するマンスリーレポート:<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

・食料需給見通し(農林水産政策研究所):<https://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報(ALICの情報サイト):<https://www.alic.go.jp/>

・砂糖、でんぷん:<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>

・野菜:<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>

・畜産物:<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関(英語及び各国語となります)

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関(FAO):<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会(IGC):<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構(OECD)(農業・水産業分野):<https://www.oecd.org/en/topics/agriculture-and-fisheries.html>
- ・農業市場情報システム(AMIS):<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省(USDA):<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社(CONAB):<https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・カナダ農務農産食品省(AAFC):<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局(ABARES):<http://www.agriculture.gov.au/abares>

- データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注:同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所(農林水産省発行「食料安全保障月報」)を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

○ 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

○ 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室

TEL:03-6744-2368(直通)

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

